

Force.com REST API 開発者ガイド

バージョン 35.0, Winter '16



本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2015 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、salesforce.com, inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

第 1 章: Force.com REST API の概要	1
Force.com REST リソースの理解	2
圧縮の使用	3
条件付き要求の使用	4
REST での cURL の使用例	5
認証について	5
接続アプリケーションの定義	6
OAuth エンドポイントについて	7
Web サーバ OAuth 認証フローについて	7
ユーザエージェント OAuth 認証フローについて	14
ユーザ名パスワード OAuth 認証フローについて	17
OAuth 更新トークンプロセスについて	20
その他のリソースを見つける	22
第 2 章: クイックスタート	23
前提条件	24
ステップ 1: Salesforce Developer Edition 組織を取得する	24
ステップ 2: 認証を設定する	24
ステップ 3: cURL で HTTP 要求を送信する	27
ステップ 4: サンプルコードを実行する	29
ワークベンチの使用	35
第 3 章: 例	36
組織に関する情報の取得	37
使用可能な REST API バージョンをリストする	37
使用可能な REST リソースをリストする	38
オブジェクトのリストを取得する	39
メタデータが変更された場合にオブジェクトのリストを取得する	40
オブジェクトメタデータの使用	40
オブジェクトのメタデータを取得する	41
オブジェクトの項目と他のメタデータを取得する	42
オブジェクトのメタデータの変更の取得	43
レコードの操作	43
レコードを作成する	45
レコードを更新する	45
レコードを削除する	46
標準オブジェクトレコードから項目値を取得する	47
Salesforce ID を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する	47
外部 ID 標準項目を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する	48

外部 ID を使用してレコードを取得する	48
外部 ID を使用してレコードを挿入/更新 (Upsert) する	49
レコードから添付ファイルコンテンツを取得する	52
Blob データを挿入または更新する	53
特定の期間に削除されたレコードのリストの取得	57
特定の期間に更新されたレコードのリストの取得	57
検索とクエリの使用	58
SOQL クエリを実行する	59
削除された項目を含む SOQL クエリを実行する	60
クエリのパフォーマンスに関するフィードバックを取得する	61
文字列を検索する	63
デフォルトの検索範囲と検索順序の取得	66
オブジェクトの検索結果レイアウトの取得	67
関連項目の表示	69
最近参照した情報の操作	70
最近参照したレコードの表示	70
最近参照したデータとしてレコードをマーク	71
ユーザパスワードの管理	72
ユーザパスワードを管理する	72
承認プロセスとプロセスルールの操作	74
すべての承認プロセスのリストを取得する	74
承認を受けるレコードを送信する	75
レコードを承認する	76
レコードを却下する	76
一括承認	77
プロセスルールのリストを取得する	78
特定のプロセスルールを取得する	79
プロセスルールをトリガする	79
イベント監視の使用	80
REST を使用してイベント監視を記述する	82
REST を使用してイベント監視データをクエリする	82
レコードからイベント監視コンテンツを取得する	83
cURL を REST で使用して大きなイベントログファイルをダウンロードする	84
複合リソースの使用	84
1 回の要求でレコードを更新してその項目値を取得する	85
ネストされたレコードを作成する	86
複数のレコードを作成する	88
第 4 章: リファレンス	90
Versions	94
Resources by Version	94
Describe Global	95
sObject Basic Information	95
sObject Describe	96

目次

sObject Get Deleted	97
sObject Get Updated	98
SObject Named Layouts	99
sObject Rows	100
sObject Rows by External ID	101
sObject Blob Retrieve	102
sObject ApprovalLayouts	102
sObject CompactLayouts	103
Describe Layouts	109
SObject PlatformAction	111
sObject Quick Actions	112
sObject Suggested Articles for Case	113
sObject User Password	115
AppMenu	116
Compact Layouts	120
FlexiPage	122
Invocable Actions	125
Standard Invocable Actions	126
Custom Invocable Actions	128
List View Describe	130
List View Results	133
List Views	143
Process Approvals	145
Process Rules	147
Query	148
QueryAll	150
Quick Actions	151
Recent List Views	152
Recently Viewed Items	153
Relevant Items	154
Search	155
Search Scope and Order	156
Search Result Layouts	156
Search Suggested Records	157
Search Suggested Article Title Matches	161
Search Suggested Queries	164
Tabs	166
Themes	168
複合リソース	170
Batch	170
SObject Tree	175
ヘッダー	182
割り当てルールヘッダー	183
Call Options ヘッダー	183

目次

Limit Info ヘッダー	184
Package Version ヘッダー	185
Query Options ヘッダー	185
状況コードとエラー応答	186

第1章

Force.com REST API の概要

トピック:

- [Force.com REST リソースの理解](#)
- [圧縮の使用](#)
- [条件付き要求の使用](#)
- [REST での cURL の使用例](#)
- [認証について](#)

REST API では、Force.com を操作するための強力で便利な使いやすい Web サービス API を提供します。統合および開発が容易という利点があり、モバイルアプリケーションおよび Web 2.0 プロジェクトで使用するための技術では最適な選択です。ただし、処理するレコード件数が多い場合、REST 規則に基づいており、大規模データセットの処理用に最適化されている Bulk API を使用することを検討してください。

REST API は、SOAP API と同様の基盤データモデルと標準オブジェクトを使用します。詳細は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』を参照してください。REST API も SOAP API と同じ制限に従います。『SOAP API 開発者ガイド』の「[制限](#)」セクションを参照してください。

このドキュメントを使用するには、ソフトウェア開発、Web サービス、そして Salesforce ユーザインターフェースについての基本的な知識が必要です。

このセクションでは、次の内容を理解できます。

- REST API の主要な特性とアーキテクチャ。これにより、アプリケーションにおける Force.com REST リソースの最適な使用方法を理解できます。
- 開発環境の設定方法。設定すると、直ちに REST API を使用できるようになります。
- REST API の使用方法。クイックスタートに従って、ステップごとに一般的な使用事例を学びます。

Force.com REST リソースの理解

REST リソースは、1つのデータレコード、レコードのコレクション、さらには動的なリアルタイム情報などの情報を抽象化したものです。Force.com REST API の各リソースは、名前付きの URI で識別され、標準 HTTP メソッド (HEAD、GET、POST、PATCH、DELETE) を使用してアクセスされます。Force.com REST API は、リソース、その URI、およびそれらの間のリンクの使用に基づきます。リソースは、Salesforce 組織や Force.com 組織との連携に使用します。次のような操作が可能です。


- 使用できる API バージョンに関する概要情報を取得する。
- Account (取引先) などの Salesforce オブジェクトやカスタムオブジェクトに関する詳細情報を取得する。
- User (ユーザ) などの Force.com オブジェクトやカスタムオブジェクトに関する詳細情報を取得する。
- クエリまたは検索を実行する。
- レコードを更新または削除する。

たとえば、Salesforce のバージョンに関する情報を取得するとします。これを行うには、[Versions](#) リソースの要求を送信します (この例では、`na1` インスタンスで cURL を使用します)。

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/
```

この要求の出力は、次のとおりです。

```
[
  {
    "version": "20.0",
    "url": "/services/data/v20.0",
    "label": "Winter '11"
  }
  ...
]
```

 **メモ:** Salesforce は複数のサバインスタンス上で実行されます。このガイドの例では、`na1` インスタンスが使用されています。組織が使用するインスタンスは異なる場合があります。

Force.com REST API リソースとアーキテクチャの重要な特性を次に示します。

ステートレス

クライアントからサーバへの各要求には、要求を実行するのに必要なすべての情報が含まれている必要があり、サーバに保存されたコンテキストは使用されません。ただし、リソースの表現は URL によって相互接続されるため、ステートが変わってもクライアントは処理を続行できます。

キャッシュの動作

応答にはキャッシュ可能かどうかを示すラベルが付加されます。

統一されたインターフェース

すべてのリソースには、HTTP を介した汎用インターフェースを使用してアクセスします。

名前付きリソース

すべてのリソースは、Force.com URI に続くベース URI を使って名前が付けられます。

階層化されたコンポーネント

Force.com REST API アーキテクチャでは、クライアントとリソースの間にプロキシサーバやゲートウェイなどを介在させることができます。

認証

Force.com REST API は OAuth 2.0 (セキュアな API 認証を可能にするオープンプロトコル) をサポートします。詳細は「[認証について](#)」を参照してください。

JSON および XML のサポート


デフォルトは JSON です。HTTP ACCEPT ヘッダーを使って、JSON と XML のいずれかを選択したり、URI の最後に .json、.xml を付加したりできます (例: /Account/001D000000INjVe.json)。

JavaScript Object Notation (JSON) 形式は UTF-8 でサポートされます。日時情報は ISO8601 形式です。

XML 逐次化は SOAP API と類似しています。XML 要求は UTF-8 および UTF-16 でサポートされ、XML 応答は UTF-8 で提供されます。

圧縮の使用

REST API は、HTTP 1.1 の仕様で定義された標準を使用した要求と応答の圧縮をサポートしています。圧縮は、いくつかのクライアントでは自動的にサポートされており、他のクライアントにも手動で追加できます。クライアント別の詳細は、「[Salesforce 開発者](#)」を参照してください。

 **ヒント:** パフォーマンス向上のため、HTTP 1.1 の仕様に従ったクライアント側での圧縮のサポートをお勧めします。

圧縮を使用するには、要求に HTTP ヘッダー Accept-Encoding: gzip または Accept-Encoding: deflate を含めます。クライアントでこのヘッダーが正しく指定されている場合、REST API は応答を圧縮します。応答には、ヘッダー Content-Encoding: gzip または Content-Encoding: deflate が含まれます。また、Content-Encoding: gzip または Content-Encoding: deflate ヘッダーを含めることによって要求を圧縮することもできます。

応答の圧縮

REST API は、必要に応じて応答を圧縮することができます。応答は、クライアントが Accept-Encoding ヘッダーを送信する場合にのみ圧縮されます。REST API で応答を圧縮する必要がない場合も Accept-Encoding を指定しておけば、指示どおり圧縮を実行します。REST API が応答を圧縮する場合、Content-Encoding ヘッダーも指定します。

要求の圧縮

クライアントは要求を圧縮することもできます。REST API は、処理前にすべての要求を展開します。クライアントは、要求に適切な圧縮アルゴリズムの名前を記した Content-Encoding HTTP ヘッダーを送信する必要があります。詳細は、以下を参照してください。

- Content-Encoding については、www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.11
- Accept-Encoding については、www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.3
- コンテンツのコーディングについては、www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec3.html#sec3.5

条件付き要求の使用

応答のキャッシュをサポートするため、REST API では、HTTP 1.1 の仕様で定義された標準に準拠する条件付き要求ヘッダーを使用できます。

厳しい入力規則では、要求に `If-Match` または `If-None-Match` ヘッダーを含め、照合するレコードのエンティティタグ (ETag) を参照します。緩い入力規則では、要求に `If-Modified-Since` または `If-Unmodified-Since` ヘッダー、およびチェックする日時を含めます。REST API の条件付きヘッダーは HTTP 1.1 の仕様に準拠しますが、次の例外があります。

- PATCH、POST、または DELETE 要求の `If-Match`、`If-None-Match`、または `If-Unmodified-Since` に無効なヘッダー値を含めた場合、400 Bad Request 状況コードが返されます。
- `If-Range` ヘッダーはサポートされていません。

ETag

HTTP 1.1 の仕様: www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.19

ETag ヘッダーは、SObject Rows リソースにアクセスするときに返される応答ヘッダーです。後続の要求の `If-Match` および `If-None-Match` 要求ヘッダーがコンテンツに変更があるかどうかを判断するために使用するコンテンツのハッシュです。

サポートされているリソース: SObject Rows (取引先レコードのみ)

例: ETag: "U5iWijwWbQD18jeiXwsqxeGpZQk=-gzip"

If-Match

HTTP 1.1 の仕様: www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.24

`If-Match` ヘッダーは、ETag のリストを含む SObject Rows の要求ヘッダーです。要求しているレコードの ETag がヘッダーに指定した ETag と一致する場合は、要求が処理されます。いずれの ETag ととも一致しない場合は、412 Precondition Failed 状況コードが返され、要求は処理されません。

サポートされているリソース: SObject Rows (取引先レコードのみ)

例: If-Match: "Jbjuzw7dbhaEG3fd90kJbx6A0ow=-gzip", "U5iWijwWbQD18jeiXwsqxeGpZQk=-gzip"

If-None-Match

HTTP 1.1 の仕様: www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.26

`If-None-Match` ヘッダーは、`If-Match` の逆数である SObject Rows の要求ヘッダーです。要求しているレコードの ETag がヘッダーに指定した ETag と一致する場合は、要求が処理されません。GET または HEAD 要求では 304 Not Modified 状況コードが返され、PATCH 要求では 412 Precondition Failed 状況コードが返されます。

サポートされているリソース: SObject Rows (取引先レコードのみ)

例: If-None-Match: "Jbjuzw7dbhaEG3fd90kJbx6A0ow=-gzip",
"U5iWijwWbQD18jeiXwsqxeGpZQk=-gzip"

If-Modified-Since

HTTP 1.1 の仕様: www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.25

`If-Modified-Since` ヘッダーは、時間ベースの要求ヘッダーです。要求は、ヘッダーで指定した日時に降にデータが変更された場合にのみ処理されます。変更されていない場合は、304 Not Modified 状況コードが返され、要求は処理されません。

サポートされているリソース: SObject Rows、SObject Describe、Describe Global、および Invocable Actions

例: If-Modified-Since: Tue, 10 Aug 2015 00:00:00 GMT

If-Unmodified-Since

HTTP 1.1 の仕様: www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.28


If-Unmodified-Since ヘッダーは、If-Modified-Since の逆数である要求ヘッダーです。要求を実行し、If-Unmodified-Since ヘッダーを含める場合は、指定した日付以降にデータが変更されていない場合にのみ要求が処理されます。いずれの ETag ととも一致しない場合は、412 Precondition Failed 状況コードが返され、要求は処理されません。

サポートされているリソース: SObject Rows、SObject Describe、Describe Global、および Invocable Actions

例: If-Unmodified-Since: Tue, 10 Aug 2015 00:00:00 GMT

REST での cURL の使用例

このガイドの例では、Force.com プラットフォームの REST リソースへのアクセス、作成、および操作を行うために、HTTP 要求を送信する cURL ツールを使用します。cURL は、多くの Linux システムや Mac システムにあらかじめインストールされています。Windows バージョンは、curl.haxx.se/ からダウンロードできます。Windows で HTTPS を使用する場合、システムが SSL の cURL 要件を満たしていることを確認してください。

 **メモ:** cURL はオープンソースのツールで、Salesforce ではサポートされていません。

Mac および Linux システムでのセッション ID のエスケープまたは一重引用符の使用

REST リソースで cURL の例を実行するとき、セッション ID 引数の感嘆符の特殊文字によって、Mac および Linux システムでエラーが発生する場合があります。このエラーの発生を回避するには、次のいずれかを実行します。

- セッション ID が二重引用符で囲まれている場合、セッション ID の感嘆符 (!) 特殊文字の前にバックスラッシュ (\) を挿入して (\!) エスケープします。たとえば、この cURL コマンドのセッション ID 文字列では、感嘆符 (!) がエスケープされています。

```
curl https://instance_name.salesforce.com/services/data/v35.0/
-H "Authorization: Bearer
00D50000000IehZ\!AQcAQH0dMHZfz972SzmPKb58urFRkgeBGsxL_QJWwYmFAbUeeG7c1E6
LYUfiDUkWe6H34r1AAwOR8B8fLEz6n04NPGRrq0FM"
```

- セッション ID を一重引用符で囲みます。次に例を示します。

```
curl https://instance_name.salesforce.com/services/data/v35.0/
-H 'Authorization: Bearer sessionID'
```

認証について

Salesforce では、OAuth プロトコルを使用して、アプリケーションユーザがユーザ名やパスワードのログイン情報を明らかにすることなくセキュアにデータにアクセスできるようにします。

REST API コールを行う前に、[OAuth 2.0](#) を使用してアプリケーションユーザを認証する必要があります。そのためには、次の手順を実行する必要があります。

- Salesforce 組織内にアプリケーションを接続アプリケーションとして設定します。
- 接続アプリケーションが使用できるように正しい Salesforce OAuth エンドポイントを決定します。
- 複数の異なる OAuth2.0 認証フローのいずれかを介して接続アプリケーションユーザを認証します。OAuth 認証フローには、アプリケーションと Salesforce の間の認証プロセスを調整するために使用する一連の手順が定義されています。次のような OAuth フローがサポートされます。
 - Web サーバフロー。サーバがセキュアにコンシューマの秘密を保護できます。
 - ユーザエージェントフロー。コンシューマの秘密をセキュアに保存できないアプリケーションによって使用されます。
 - ユーザ名パスワードフロー。アプリケーションがユーザログイン情報に直接アクセスします。

接続アプリケーションユーザが Salesforce で正常に認証されるとアクセストークンが送られてきます。このアクセストークンを使用して、認証された REST API コールを実行できます。

接続アプリケーションの定義

OAuth を使用して認証を行う場合、Salesforce 組織に対するアプリケーションの OAuth 設定を定義する接続アプリケーションを作成する必要があります。

Salesforce での認証が必要な外部アプリケーションを開発する場合、Salesforce にこの新規認証エントリポイントの情報を伝える Salesforce 内の新規接続アプリケーションとして定義する必要があります。

新規接続アプリケーションを作成するには、次の手順を実行します。

1. [設定]から、[クイック検索]ボックスに「アプリケーション」と入力し、[アプリケーション]を選択して[新規]をクリックし、接続アプリケーションの定義を開始します。
2. アプリケーションの名前を入力します。
3. 取引先責任者のメール情報と、アプリケーションに応じたその他の情報を入力します。
4. [OAuth 設定の有効化]を選択します。
5. [コールバック URL]を入力します。使用する OAuth フローに応じて、これは通常、認証が成功した後にユーザのブラウザがリダイレクトされる URL になります。この URL は一部の OAuth フローでアクセストークンを渡すために使用されるため、URL はセキュア HTTP (HTTPS) またはカスタム URI スキームを使用する必要があります。
6. サポートされているすべての OAuth 範囲を [選択した OAuth 範囲]に追加します。これらの範囲とは、接続アプリケーションを実行するユーザによって付与される権限を示します。
7. [情報 URL] の URL を入力します。ユーザがこの URL にアクセスすると、アプリケーションの詳細を参照できます。
8. [保存]をクリックします。[コンシューマ鍵]が作成され、表示されます。また、[コンシューマの秘密]が作成されます (表示するにはリンクをクリックします)。

接続アプリケーションを定義したら、コンシューマ鍵とコンシューマの秘密を使用してアプリケーションを認証します。必要な認証種別の接続アプリケーションを作成する具体的な手順は、Salesforce オンラインヘルプの「[接続アプリケーションの作成](#)」を参照してください。

OAuth エンドポイントについて

OAuth エンドポイントとは、Salesforce に対する OAuth 認証要求を行うために使用する URL です。

アプリケーションで認証要求を発行する場合、正確な Salesforce OAuth エンドポイントを使用する必要があります。主要な OAuth エンドポイントは次のとおりです。

- 認証: <https://login.salesforce.com/services/oauth2/authorize>
- トークン要求: <https://login.salesforce.com/services/oauth2/token>
- OAuth トークンの取り消し: <https://login.salesforce.com/services/oauth2/revoke>

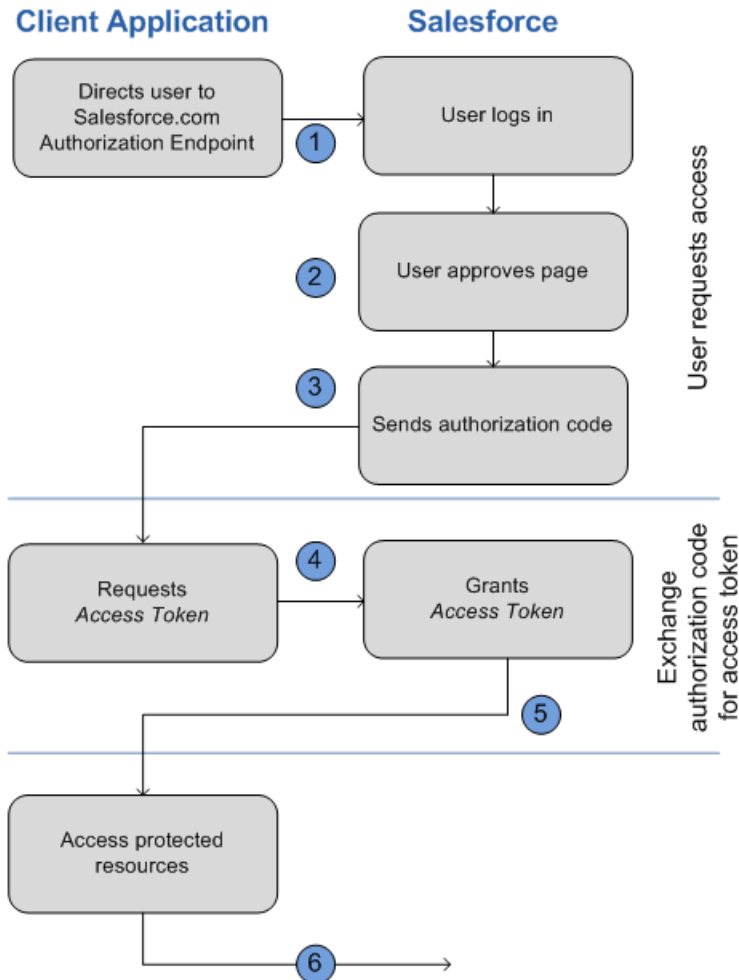
すべてのエンドポイントでセキュア HTTP(HTTPS)が必要です。各 OAuth フローには、使用する必要があるエンドポイントと指定する必要がある要求データが定義されています。

Sandbox 組織で認証を検証する場合、上記に挙げたすべての OAuth エンドポイントで「login.salesforce.com」の代わりに「test.salesforce.com」を使用してください。

Web サーバ OAuth 認証フローについて

安全なサーバでホストされているアプリケーションでは、Web サーバ認証フローを使用します。Web サーバフローにおける重要な点は、サーバがコンシューマの秘密を保護できる必要があります。また、フロー内の code challenge および code verifier の値を使用して、認証コードの傍受を防ぐこともできます。

このフローでは、クライアントアプリケーションは、ユーザを認証してアプリケーションに認証コードを送信する他の Web サーバまたはリソースにユーザをリダイレクトするように認証サーバに要求します。アプリケーションは認証コードを使用してアクセストークンを要求します。このフローの手順は、次のとおりです。



1. アプリケーションはユーザを適切な Salesforce 認証エンドポイント

(<https://login.salesforce.com/services/oauth2/authorize> など) にリダイレクトします。次のパラメータは必須です。

パラメータ	説明
<code>response_type</code>	この認証フローの場合、 <code>code</code> にする必要があります。
<code>client_id</code>	接続アプリケーション定義の [コンシューマ鍵]。
<code>redirect_uri</code>	接続アプリケーション定義の [コールバック URL]。

次のパラメータは省略可能です。


パラメータ	説明
<code>code_challenge</code>	トークン要求で <code>code_verifier</code> 値の SHA256 ハッシュ値を指定して、認証コードの傍受攻撃を防ぐの

パラメータ

説明

に役立ってます。ハッシュ値は、
<https://tools.ietf.org/html/rfc4648#section-5>
 の定義に従って base64url エンコードする必要があります。

- 認証要求で `code_challenge` 値が指定され、トークン要求で `code_verifier` 値が指定されている場合、Salesforce により `code_challenge` が `code_verifier` と比較されます。
`code_challenge` が無効であるか一致しない場合、ログインが `invalid_request` エラーコードで失敗します。
- 認証要求で `code_challenge` 値が指定されていても、トークン要求で `code_verifier` 値が指定されていない場合、ログインが `invalid_grant` エラーコードで失敗します。

 **メモ:** 値を base64url エンコードするのは 1 回のみです。

display

ログインページの表示の種類を変更します。有効な値は、次のとおりです。

- `page` — 全画面のページ認証。これは、値が指定されていない場合のデフォルト値です。
- `popup` — 最新の Web ブラウザのポップアップウィンドウ用に最適化されたコンパクトなダイアログ。
- `touch` — Android や iPhone など、最新のスマートフォン用に設計されたモバイル用に最適化されたダイアログ。
- `mobile` — BlackBerry OS5 など、タッチスクリーンをサポートしていないスマートフォン用に設計された、モバイル用に最適化されたダイアログ。

immediate

ログインと承認についてユーザにプロンプトメッセージを表示するかどうかを決定します。値は、`true` か `false` のいずれかです。デフォルトは `false` です。

- `true` に設定され、ユーザが現在ログインしており、以前にこのアプリケーションを承認している場合、承認ステップはスキップされます。
- `true` に設定され、ユーザがログインしていないか、これまでこのアプリケーションを承認した

パラメータ	説明
	<p>ことがない場合、セッションはただちにエラーコード <code>immediate_unsuccessful</code> で終了します。</p>
<code>login_hint</code>	<p>ログインページにユーザ名を自動入力するための、有効なユーザ名の値を指定します。たとえば、<code>login_hint=username@company.com</code> です。ユーザのブラウザにすでに有効なセッションがある場合は、<code>login_hint</code> パラメータの影響はなく、有効なユーザセッションが継続されます。</p>
<code>nonce</code>	<p>応答で返される値を指定します。「リプレイ」攻撃の検出に役立ちます。ユーザIDトークンを取得する場合の <code>openid</code> 範囲に使用できます (省略可能)。</p>
<code>prompt</code>	<p>認証サーバがユーザに再認証および再承認を求める方法を指定します。このパラメータは省略可能です。Salesforce でサポートされる値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>login</code> — 認証サーバがユーザに再認証を求める必要があり、ユーザに強制的に再ログインさせます。 <code>consent</code> — クライアントに情報を戻す前に、認証サーバがユーザに再認証を求める必要があります。 <p>ユーザにログインおよび再認証の両方を求めるには、スペースで区切られた両方の値を渡すことが有効です。以下に例を示します。</p> <pre>?prompt=login%20consent</pre>
<code>scope</code>	<p>アプリケーションがアクセスできるデータを指定します。詳細は、オンラインヘルプの「範囲パラメータの値」を参照してください。</p>
<code>state</code>	<p>承認後にコールバック URL で返される、追加の URL 符号化された状態データを指定します。</p>

認証 URL の例は、次のようになります。

```
https://login.salesforce.com/services/oauth2/authorize?response_type=code
&client_id=3MVG9lKcPoNINVBIpJdw1J9LLM82HnFVVX19KY1uA5mu0QqEWhqKpoW3svG3X
HrXDiCQjKlmdgAvhCscA9GE&redirect_uri=https%3A%2F%2Fwww.mysite.com%2F
code_callback.jsp&state=mystate
```


2. ユーザが自分のログイン情報で Salesforce にログインします。ユーザは認証エンドポイントを直接操作するため、アプリケーションがユーザのログイン情報を認識することはありません。ログインに成功したら、ユーザはアプリケーションを認証するように要求されます。ユーザがすでにアプリケーションを認証している場合、このステップはスキップされます。
3. クライアントアプリケーションが認証されたことが Salesforce で確認されると、エンドユーザの Web ブラウザは、`redirect_uri` パラメータで指定されたコールバック URL にリダイレクトされます。Salesforce は、認証情報を次の値でリダイレクト URL に付加します。

パラメータ	説明
<code>code</code>	コンシューマがアクセストークンと更新トークンを取得するために使用する必要がある認証コード。
<code>state</code>	最初の要求の一部として渡される状態値 (該当する場合のみ)。

認証情報が付属するコールバック URL の例は、次のようになります。


```
https://www.mysite.com/authcode_callback?code=aWekysIEeqM9PiT
hEfm0Cnr6MoLIfwYrJcqOqHdF8f9INokharAS09ia7UNP6RiVScerfhc4w%3D%3D
```

4. アプリケーションは認証コードを抽出して、これをアクセストークン要求に含めて Salesforce に渡す必要があります。この要求は、適切な Salesforce トークン要求エンドポイント (<https://login.salesforce.com/services/oauth2/token> など) に対して送信される POST 要求です。次のパラメータは必須です。

パラメータ	説明
<code>grant_type</code>	このフローの値は <code>authorization_code</code> である必要があります。
<code>client_id</code>	接続アプリケーション定義の [コンシューマ鍵]。
<code>client_secret</code>	接続アプリケーション定義の [コンシューマの秘密]。
<code>redirect_uri</code>	接続アプリケーション定義の [コールバック URL]。
<code>code</code>	コンシューマがアクセストークンと更新トークンを取得するために使用する必要がある認証コード。

次のパラメータは省略可能です。

パラメータ	説明
<code>client_assertion</code>	<code>client_secret</code> を渡す代わりに、 <code>client_assertion</code> および <code>client_assertion_type</code> を提供できます。

パラメータ	説明
	<p><code>client_secret</code> パラメータが指定されていない場合、Salesforce によって自動的に <code>client_assertion</code> および <code>client_assertion_type</code> がチェックされます。<code>client_assertion</code> の値は、OAuth コンシューマがアップロードした証明書に関連付けられている非公開鍵で署名された一般的な JWT ベアールトークンである必要があります。現在、RS256 アルゴリズムのみがサポートされています。</p> <p><code>client_assertion</code> の使用についての詳細は、<code>private_key_jwt</code> クライアント認証メソッドの「OpenID Connect の仕様」を参照してください。</p>
<code>client_assertion_type</code>	<p><code>client_assertion</code> パラメータを使用するときにこの値を指定します。<code>client_assertion_type</code> の値は、<code>urn:ietf:params:oauth:client-assertion-type:jwt-bearer</code> でなければなりません。</p>
<code>code_verifier</code>	<p>高エントロピの 128 バイトのランダムなデータを指定して値の推測を困難にすることで、認証コードの傍受攻撃を防ぐのに役立っています。この値も、https://tools.ietf.org/html/rfc4648#section-5 の定義に従って base64url エンコードする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> トークン要求で <code>code_verifier</code> 値が指定され、認証要求で <code>code_challenge</code> 値が指定されている場合、Salesforce により <code>code_verifier</code> が <code>code_challenge</code> と比較されます。<code>code_verifier</code> が無効であるか一致しない場合、ログインが <code>invalid_grant</code> エラーコードで失敗します。 トークン要求で <code>code_verifier</code> 値が指定されていても、認証要求で <code>code_challenge</code> 値が指定されていない場合、ログインが <code>invalid_grant</code> エラーコードで失敗します。 <p> メモ: 値を base64url エンコードするのは 1 回のみです。</p>
<code>format</code>	<p>期待される戻り形式。デフォルトは <code>json</code> です。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>urlencoded</code> <code>json</code> <code>xml</code>

パラメータ	説明
	<p>返される形式は、要求のヘッダーに次のいずれかを使用して指定することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Accept: application/x-www-form-urlencoded Accept: application/json Accept: application/xml

アクセストークン POST 要求の例は、次のようになります。

```
POST /services/oauth2/token HTTP/1.1
Host: login.salesforce.com
grant_type=authorization_code&code=aPrxsmIEeqM9PiQroGEWx1UiMQd95_5JUZ
VEhsOFhS8EVvbfYBBJli2W5fn3zbo.8hojaNW_1g%3D%3D&client_id=3MVG9lKcPoNI
NVBIPJjdw1J9LLM82HnFVVX19KY1uA5mu0QqEWhqKpoW3svG3XHrXDicQjKlmdgAvhCs
cA9GE&client_secret=1955279925675241571&
redirect_uri=https%3A%2F%2Fwww.mysite.com%2Fcode_callback.jsp
```

5. この要求が成功した場合、サーバは次の内容を持つレスポンスボディを返します。

パラメータ	説明
access_token	アプリケーションが要求を行うために使用するセッション ID として機能するアクセストークン。このトークンは、ユーザログイン情報と同様に保護する必要があります。
refresh_token	<p>新しいアクセストークンを取得するために将来使用できるトークン。</p> <p> 警告: この値は秘密です。ユーザのパスワードなどと同様に処理し、適切な手段で保護する必要があります。</p>
instance_url	API コールの送信先となる Salesforce インスタンスを示します。
id	ユーザ、およびユーザの詳細に関するクエリの両方を識別するために使用できる ID URL。エンドユーザに関する詳細な情報を取得するための HTTP 要求で使用できます。
issued_at	署名が作成された日時。UNIX エポック (1970 年 1 月 1 日 00:00:00 UTC) からの秒数として表されます。
signature	連結 ID と issued_at 値を含むコンシューマの非公開鍵で署名されている Base64 符号化された

パラメータ	説明
	HMAC-SHA256 署名。この <code>signature</code> は、ID URL がサーバから送信された後に変更されていないことを確認するために使用できます。

JSON レスポンスボディの例は、次のようになります。

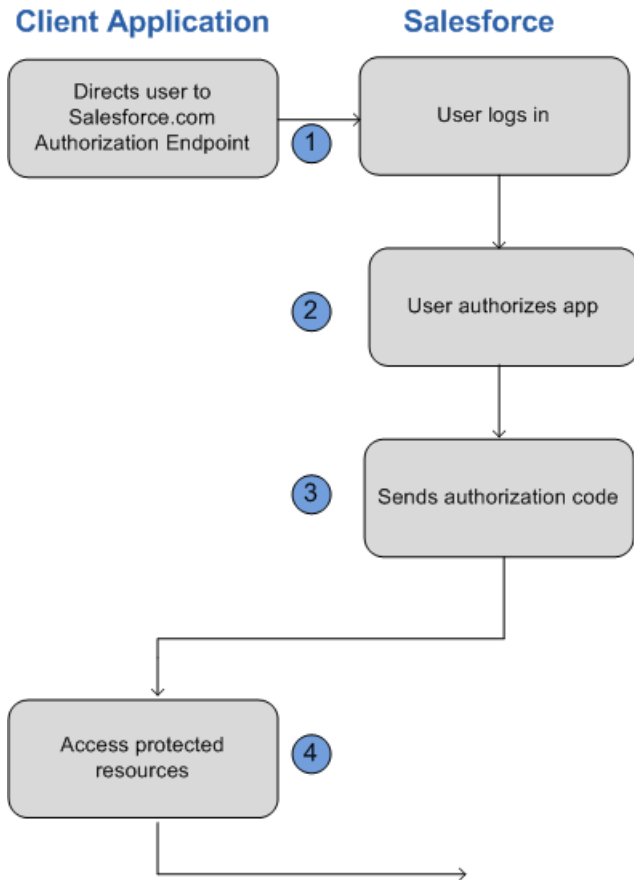
```
{
  "id": "https://login.salesforce.com/id/00Dx0000000BV7z/005x00000012Q9P",
  "issued_at": "1278448101416",
  "refresh_token": "5Aep8614iLM.Dq661ePDmPEgaAW9Oh_L3JKkDpB4xReb54_pZebnUG0h6Sb4KUVDpNtWEofWM39yg==",
  "instance_url": "https://na1.salesforce.com",
  "signature": "CMJ4l+CCaPQiKjoOEwEig9H4wqhpuLSk4J2urAe+fVg=",
  "access_token": "00Dx0000000BV7z!AR8AQP0jITN80ESESj5EbaZTFG0RNBaT1cyWk7TrqoDjoNIWQ2ME_sTZzBjfmOE6zMHq6y8PIW4eWze9JksNEkWU1.Cju7m4"}
}
```

- アプリケーションは、提供されたアクセストークンと更新トークンを使用して保護されたユーザデータにアクセスします。

ユーザエージェント OAuth 認証フローについて

ユーザエージェント認証フローは、ユーザのデバイスにあるクライアントアプリケーション(コンシューマ)で使用されます。これは、JavaScriptなどのスクリプト言語を使用するブラウザ内で、または携帯機器またはデスクトップアプリケーションから実装することができます。これらのコンシューマは顧客の秘密の機密を保持することができません。

このフローでは、クライアントアプリケーションは、アクセストークンを抽出してアプリケーションに戻すことができる他の Web サーバまたはリソースにユーザをリダイレクトするように認証サーバに要求します。このフローの手順は、次のとおりです。



1. アプリケーションはユーザを適切な Salesforce 認証エンドポイント

(<https://login.salesforce.com/services/oauth2/authorize> など) にリダイレクトします。次のパラメータは必須です。

パラメータ	説明
response_type	この認証フローの場合、必ず token にする
client_id	接続アプリケーション定義の [コンシューマ鍵]。
redirect_uri	接続アプリケーション定義の [コールバック URL]。

次のパラメータは省略可能です。

パラメータ	説明
display	ログインページの表示の種類を変更します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> page — 全画面のページ認証。これは、値が指定されていない場合のデフォルト値です。

パラメータ	説明
	<ul style="list-style-type: none"> popup — 最新の Web ブラウザのポップアップウィンドウ用に最適化されたコンパクトなダイアログ。 touch — Android や iPhone など、最新のスマートフォン用に設計されたモバイル用に最適化されたダイアログ。 mobile — BlackBerry OS 5 など、タッチスクリーンをサポートしていないスマートフォン用に設計された、モバイル用に最適化されたダイアログ。
scope	アプリケーションがアクセスできるデータを指定します。詳細は、オンラインヘルプの「範囲パラメータの値」を参照してください。
state	承認後にコールバック URL で返される、追加の URL 符号化された状態データを指定します。

認証 URL の例は、次のようになります。

```
https://login.salesforce.com/services/oauth2/authorize?response_type=token&
client_id=3MVG9lKcPoNINVBIPJjdwlJ9LLJbP_pqwoJYyuisjQhr_LLurNDv7AgQvDTZwCoZuD
ZrXcPCmBv4o.8ds.5iE&redirect_uri=https%3A%2F%2Fwww.mysite.com%2Fuser_callback.jsp&
state=mystate
```

- ユーザが自分のログイン情報で Salesforce にログインします。ユーザは認証エンドポイントを直接操作するため、アプリケーションがユーザのログイン情報を認識することはありません。
- 認証されると、認証エンドポイントはユーザをリダイレクト URL にリダイレクトします。この URL は、アプリケーション用に作成されたりリモートアクセスアプリケーションに定義されています。Salesforce は、アクセストークン情報を次の値でリダイレクト URL に付加します。

パラメータ	説明
access_token	アプリケーションが要求を行うために使用するセッション ID として機能するアクセストークン。このトークンは、ユーザログイン情報と同様に保護する必要があります。
expires_in	アクセストークンが有効な時間 (秒)。
refresh_token	新しいアクセストークンを取得するために将来使用できるトークン。
	 警告: この値は秘密です。ユーザのパスワードなどと同様に処理し、適切な手段で保護する必要があります。

パラメータ	説明
	更新トークンが返されるのは、リダイレクト URI が <code>https://login.salesforce.com/services/oauth2/success</code> であるか、HTTPS 以外のカスタムプロトコルで使われている場合のみです。
state	最初の要求の一部として渡される状態値 (該当する場合のみ)。
instance_url	API コールの送信先となる Salesforce インスタンスを示します。
id	ユーザ、およびユーザの詳細に関するクエリの両方を識別するために使用できる ID URL。エンドユーザに関する詳細な情報を取得するための HTTP 要求で使用できます。
issued_at	署名が作成された日時。UNIX エポック (1970 年 1 月 1 日 00:00:00 UTC) からの秒数として表されます。
signature	連結 ID と issued_at 値を含むコンシューマの非公開鍵で署名されている Base64 符号化された HMAC-SHA256 署名。この signature は、ID URL がサーバから送信された後に変更されていないことを確認するために使用できます。

アクセス情報がハッシュ記号 (#) の後に付加されたコールバック URL の例は、次のようになります。

```
https://www.mysite.com/user_callback.jsp#access_token=00Dx0000000BV7z%21AR8
AQBm8J_xr9kLqmZIRyQxZgLCm4HVi41aGtW0qW3JCzf5xdTGGGSovim8FfJkZEQxbjaFbberKGk
8v8AnYrvChG4qJbQo8&refresh_token=5Aep8614iLM.Dq661ePDmPEgaAW9Oh_L3JKkDpB4xR
eb54_pZfVtildPEk8aimw4Hr9ne7VXXVSIQ%3D%3D&expires_in=7200&state=mystate
```

- アプリケーションは、提供されたアクセストークンと更新トークンを使用して保護されたユーザデータにアクセスします。


ユーザエージェント OAuth フローを使用するときの考慮事項は、次のとおりです。

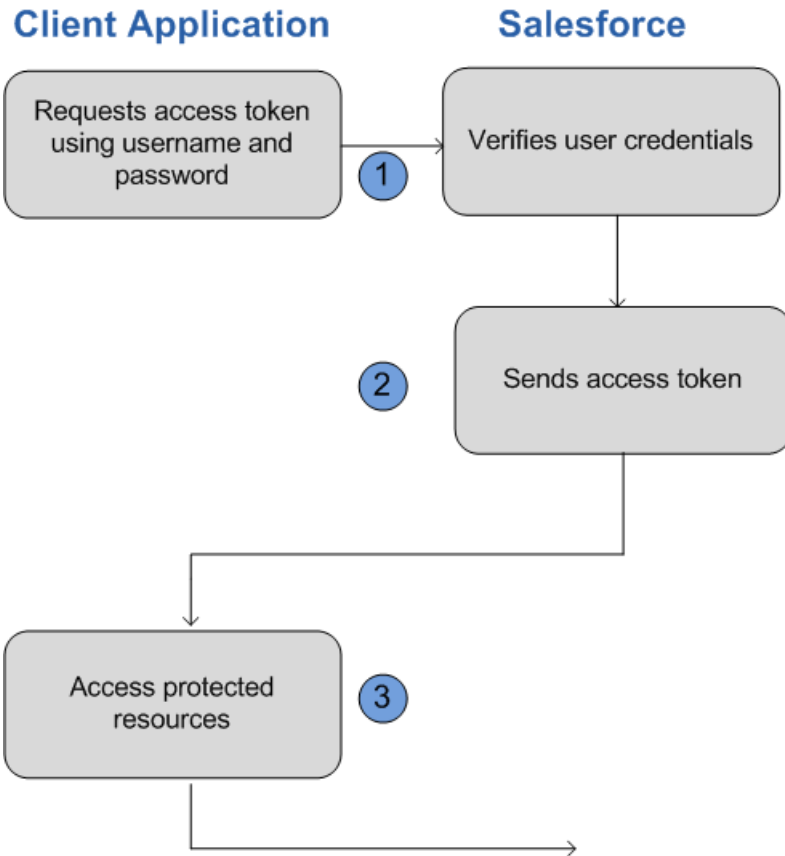
- アクセストークンは符号化され、リダイレクト URI になっているため、エンドユーザや、コンピュータまたはデバイス上にある他のアプリケーションに公開できます。JavaScript を使用して認証する場合、`window.location.replace();` をコールし、ブラウザの履歴からコールバックを削除します。

ユーザ名パスワード OAuth 認証フローについて

コンシューマにすでにユーザの認証情報がある場合、ユーザ名パスワード認証フローを使用して認証できます。


このフローでは、次の手順のようにアプリケーションがユーザのログイン情報を使用してアクセストークンを要求します。

 **警告:** この OAuth 認証フローでは、ユーザのログイン情報をやり取りする必要があります。この認証フローは、必要な場合にのみ使用してください。更新トークンは発行されません。



1. コンシューマはユーザのユーザ名とパスワードを使用してアクセストークンを要求します。これを行うには、適切な Salesforce トークン要求エンドポイント (<https://login.salesforce.com/services/oauth2/token> など) に対して帯域外 POST 要求を行います。次の要求項目は必須です。

パラメータ	説明
grant_type	この認証フローの場合、password にする必要があります。
client_id	接続アプリケーション定義の [コンシューマ鍵]。
client_secret	接続アプリケーション定義の [コンシューマの秘密]。
username	エンドユーザのユーザ名。
password	エンドユーザのパスワード。

 **メモ:** ユーザのセキュリティトークンをユーザのパスワードに付加する必要があります。セキュリティトークンは、Salesforce で自動生成

パラメータ	説明
	<p>されたキーです。たとえば、ユーザのパスワードが mypassword で、セキュリティトークンが XXXXXXXXXX の場合は、このパラメータには、値 mypasswordXXXXXXXXXX を指定する必要があります。セキュリティトークンの詳細は、オンラインヘルプの「セキュリティトークンのリセット」を参照してください。</p>

リクエストボディの例は、次のようになります。

```
grant_type=password&client_id=3MVG9lKcPoNINVBIPJjdw1J9LLM82Hn
FVVX19KYluA5mu0QqEWhqKpoW3svG3XHrXDICQjKlmdgAvhCscA9GE&client_secret=
1955279925675241571&username=testuser%40salesforce.com&password=mypassword123456
```

2. Salesforce はユーザログイン情報を検証し、成功したら、応答とアクセストークンをアプリケーションに送信します。この応答には次の値が含まれます。

パラメータ	説明
access_token	アプリケーションが要求を行うために使用するセッション ID として機能するアクセストークン。このトークンは、ユーザログイン情報と同様に保護する必要があります。
instance_url	API コールの送信先となる Salesforce インスタンスを示します。
id	ユーザ、およびユーザの詳細に関するクエリの両方を識別するために使用できる ID URL。エンドユーザに関する詳細な情報を取得するための HTTP 要求で使用できます。
issued_at	署名が作成された日時。UNIX エポック (1970 年 1 月 1 日 00:00:00 UTC) からの秒数として表されます。
signature	連結 ID と issued_at 値を含むコンシューマの非公開鍵で署名されている Base64 符号化された HMAC-SHA256 署名。この signature は、ID URL がサーバから送信された後に変更されていないことを確認するために使用できます。

レスポンスボディの例は、次のようになります。

```
{"id":"https://login.salesforce.com/id/00Dx0000000BV7z/005x00000012Q9P",
"issued_at":"1278448832702","instance_url":"https://na1.salesforce.com",
```

```
"signature":"0CmxinZir53Yex7nE0TD+zMpvIWYGb/bdJh6XfOH6EQ=", "access_token":
"00Dx0000000BV7z!AR8AQAxo9UfVkh8AlV0Gomt9Czx9LjHnSSpwBMmbRcgKFmxOtvxjTrKW1
9ye6PE3Ds1eQz3z8jr3W7_VbWmEu4Q8TVGSTHxs"}
```

3. アプリケーションは、提供されたアクセストークンを使用して保護されたユーザデータにアクセスします。ユーザエージェント OAuth フローを使用するときの考慮事項は、次のとおりです。

- このフローではユーザが Salesforce でログインするためにリダイレクトされることはないため、ユーザは直接アプリケーションを認証できません。そのため、更新トークンは使用できません。アプリケーションで更新トークンが必要な場合、Web サーバまたはユーザエージェント OAuth フローの使用を検討してください。

OAuth 更新トークンプロセスについて

Web サーバ OAuth 認証フローとユーザエージェントフローはどちらも、新しいアクセストークンの取得に使用可能な更新トークンを提供します。

アクセストークンは、Salesforce のセッションタイムアウトで指定された有効期間に制限されています。アプリケーションが有効期限の切れたアクセストークンを使用すると、「Session expired or invalid」エラーが返されます。アプリケーションが Web サーバまたはユーザエージェント OAuth 認証フローを使用している場合、認証中に更新トークンが提供され、新しいアクセストークンの取得に使用できる可能性があります。

クライアントアプリケーションが新しいアクセストークンを取得するには、次の要求パラメータを指定して POST 要求をトークン要求エンドポイントに送信します。

パラメータ	説明
grant_type	値は refresh_token である必要があります。
refresh_token	クライアントアプリケーションがすでに受け取っている更新トークン。
client_id	接続アプリケーション定義の [コンシューマ鍵]。
client_secret	接続アプリケーション定義の [コンシューマの秘密]。このパラメータは省略可能です。
format	<p>期待される戻り形式。デフォルトは、json です。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> urlencoded json xml <p>返される形式は、要求のヘッダーに次のいずれかを使用して指定することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Accept: application/x-www-form-urlencoded Accept: application/json Accept: application/xml

パラメータ	説明
	このパラメータは省略可能です。

更新トークン POST 要求の例は、次のようになります。

```
POST /services/oauth2/token HTTP/1.1
Host: https://login.salesforce.com/
grant_type=refresh_token&client_id=3MVG9lKcPoNINVBIPJjdwlJ9LLM82HnFVVX19KY1uA5mu0
QqEWhqKpoW3svG3XHrXDICQjKlmdgAvhCscA9GE&client_secret=1955279925675241571
&refresh_token=your token here
```

Salesforce は、更新トークン要求を検証した後、次のレスポンスボディパラメータを使用してアプリケーションに応答を送信します。

パラメータ	説明
access_token	アプリケーションが要求を行うために使用するセッション ID として機能するアクセストークン。このトークンは、ユーザログイン情報と同様に保護する必要があります。
instance_url	API コールの送信先となる Salesforce インスタンスを示します。
id	ユーザ、およびユーザの詳細に関するクエリの両方を識別するために使用できる ID URL。エンドユーザに関する詳細な情報を取得するための HTTP 要求で使用できます。
issued_at	署名が作成された日時。UNIX エポック (1970 年 1 月 1 日 00:00:00 UTC) からの秒数として表されます。
signature	連結 ID と issued_at 値を含むコンシューマの非公開鍵で署名されている Base64 符号化された HMAC-SHA256 署名。この signature は、ID URL がサーバから送信された後に変更されていないことを確認するために使用できます。

JSON レスポンスボディの例は、次のようになります。

```
{ "id": "https://login.salesforce.com/id/00Dx0000000BV7z/005x00000012Q9P",
  "issued_at": "1278448384422", "instance_url": "https://na1.salesforce.com",
  "signature": "SSSbLO/gBhmmYNUvN18ODBDFYHzakxOMgqYtu+hDPsc=",
  "access_token": "00Dx0000000BV7z!AR8AQp0jITN80ESESj5EbaZTFG0RNBaTlcyWk7T
rqoDjoNIWQ2ME_sTZzBjfmOE6zMHq6y8PIW4eWze9JksNEkwU1.Cju7m4" }
```

更新トークン OAuth プロセスを使用するときの考慮事項は、次のとおりです。

- アクセストークンのセッションタイムアウトを Salesforce で設定するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「セッションの設定」と入力し、[セッションの設定] を選択します。
- アプリケーションがユーザ名パスワード OAuth 認証フローを使用する場合、このフローではユーザはアプリケーションを認証できないため、更新トークンは発行されません。アクセストークンの有効期限が切れた場合、ユーザ名パスワード OAuth フローを使用するアプリケーションはユーザを再認証する必要があります。

その他のリソースを見つける

次のリソースは、Salesforce で OAuth を使用するときの関連情報を説明しています。

- [Authenticating Apps with OAuth \(OAuth によるアプリケーションの認証\)](#)
- [Digging Deeper into OAuth on Force.com \(Force.com の OAuth の詳細\)](#)
- [Using OAuth to Authorize External Applications \(OAuth を使用した外部アプリケーションの認証\)](#)

OAuth を実装するサードパーティクライアントライブラリとして、次のようなリソースを必要に応じて参考にしてください。

- Ruby on Rails: [OmniAuth](#)
- Java: [Apache Amber](#)
- その他の OAuth クライアントライブラリ: [OAuth.net](#)

第 2 章

クイックスタート

トピック:

- 前提条件
- ステップ 1: Salesforce Developer Edition 組織を取得する
- ステップ 2: 認証を設定する
- ステップ 3: cURL で HTTP 要求を送信する
- ステップ 4: サンプルコードを実行する
- ワークベンチの使用

開発環境で REST サンプルアプリケーションを作成し、REST API の能力と柔軟性を確認します。

前提条件

次の前提条件をすべて満たすことで、クイックスタートのサンプルの作成と使用が容易になります。

cURL および JavaScript Object Notation (JSON) に慣れていない場合は、[ワークベンチ](#)を使用してデータを取得することもできます。

- 製品ドキュメントに従って、開発プラットフォームをインストールする。
- このクイックスタートで REST 要求の実行に使用するツールである cURL に習熟しておく。他のツールを使用する場合は、コード例を変換できるようにそのツールに十分慣れておく必要があります。
- このクイックスタートで使用する JSON に習熟しておく。JSON を使用しない場合は、サンプルを JSON から読み換えられる程度に自分が使用する標準言語に習熟している必要があります。
- アプリケーションサーバの SSL エンドポイントを有効にする。
- OAuth 2.0 に習熟しておく。OAuth 2.0 にはいくつかの設定が必要です。手順は説明しますが、基本的な概念とワークフローを理解しておくに役に立ちます。
- このクイックスタートを開始する前に、すべての手順に目を通す。このガイドの他の部分を確認しておく、用語や概念を把握できます。

ステップ 1: Salesforce Developer Edition 組織を取得する


コードをテストする Developer Edition 組織を設定します。

まだ Force.com 開発者コミュニティのメンバーでない場合、developer.salesforce.com/signup にアクセスし、Developer Edition 組織のサインアップの説明に従ってください。すでに Enterprise Edition、Unlimited Edition、または Performance Edition を所有している場合でも、組織の使用中的数据を保護するために、サンプルデータに対するソリューションの開発、ステージングおよびテストには Developer Edition を使用します。これは、特に、(データをただ参照するだけのアプリケーションに対し)データを挿入、更新または削除するアプリケーションの場合に該当します。

Developer Edition 組織をすでに所有している場合は、「APIの有効化」権限があることを確認します。この権限はデフォルトで有効になっていますが、管理者によって変更されている場合があります。詳細は、Salesforce ユーザーインターフェースのヘルプを参照してください。

ステップ 2: 認証を設定する

OAuth 2.0 を使用して、またはセッション ID を渡すことによって、認証を設定できます。


 **重要:** 他のユーザのパスワードを処理している場合は、セッション ID は使用しないでください。

認証用の OAuth コンシューマ ID の取得を希望するパートナー様は Salesforce まで連絡してください。

OAuth 2.0 の設定

OAuth 2.0 の設定には、Salesforce 内と他の場所でのいくつかのステップを実行する必要があります。ステップに不明な点がある場合は、「[認証について](#)」または Salesforce オンラインヘルプを参照してください。次の例では、[Web サーバ OAuth フロー](#)を使用します。

1. Salesforce で、[設定] から [クイック検索] ボックスに「アプリケーション」と入力し、[アプリケーション] を選択して、[接続アプリケーション] で [新規] をクリックして新しい接続アプリケーションを作成します (まだ作成していない場合)。ここで指定する [コールバック URL] は、Web アプリケーションのコールバック URL と同じです。Java を使用する場合、通常はこれはサブレットです。コールバック URL はセキュアである必要があります。http:// は機能せず、https:// のみが機能します。開発環境では、コールバック URL は `https://localhost:8443/RestTest/oauth/_callback` のような形になります。[保存] をクリックすると、[コンシューマ鍵] が作成されて表示され、[コンシューマの秘密] が作成されます (リンクをクリックして表示します)。

 **メモ:** OAuth 2.0 仕様では、「consumer (コンシューマ)」ではなく「client (クライアント)」という表現が使われます。Salesforce は OAuth 2.0 をサポートします。

Salesforce のリモートアクセスアプリケーションで使用される用語と、この手順の残りの部分にあるサンプルコードに含まれる値は次のように対応します。

- `client_id` は [コンシューマ鍵] に対応
- `client_secret` は [コンシューマの秘密] に対応
- `redirect_uri` は [コールバック URL] に対応

クライアントアプリケーションでは、ユーザを適切な Salesforce 認証エンドポイントにリダイレクトします。ユーザのログインが成功すると、Salesforce は認証コードでリダイレクト URI をコールします。次のステップでは、認証コードを使用してアクセストークンを取得します。

2. Java またはその他のクライアントアプリケーションから、適切な Salesforce トークン要求エンドポイントに要求を行い、`grant_type`、`client_id`、`client_secret`、および `redirect_uri` を渡します。`redirect_uri` は、Salesforce がコールバック送信する先の URI です。

```
initParams = {
    @WebInitParam(name = "clientId", value =
        "3MVG9lKcPoNINVBJSOqsNCD.HHDdbugPsNXwwyFbgb47KWa_PTv"),
    @WebInitParam(name = "clientSecret", value = "5678471853609579508"),
    @WebInitParam(name = "redirectUri", value =
        "https://localhost:8443/RestTest/oauth/_callback"),
    @WebInitParam(name = "environment", value =
        "https://na1.salesforce.com/services/oauth2/token") }

HttpClient httpClient = new HttpClient();
PostMethod post = new PostMethod(environment);
post.addParameter("code", code);
post.addParameter("grant_type", "authorization_code");

/** For session ID instead of OAuth 2.0, use "grant_type", "password" */
post.addParameter("client_id", clientId);
```

```
post.addParameter("client_secret",clientSecret);
post.addParameter("redirect_uri",redirectUri);
```

client_id (または consumer key) の値と client_secret (または consumer secret) が有効な場合、Salesforce はコールバックを、access_token. の値が含まれる redirect_uri に指定された URI に送信します。

3. アクセストークンの値を Cookie として保存し、以降のすべての要求で使します。次に例を示します。

```
//exception handling removed for brevity...
//this is the post from step 2
httpClient.executeMethod(post);
    String responseBody = post.getResponseBodyAsString();

String accessToken = null;
JSONObject json = null;
try {
    json = new JSONObject(responseBody);
    accessToken = json.getString("access_token");
    issuedAt = json.getString("issued_at");
    /** Use this to validate session
     * instead of expiring on browser close.
     */

    } catch (JSONException e) {
        e.printStackTrace();
    }

    HttpServletResponse httpResponse = (HttpServletResponse)response;
    Cookie session = new Cookie(ACCESS_TOKEN, accessToken);
    session.setMaxAge(-1); //cookie not persistent, destroyed on browser exit
    httpResponse.addCookie(session);
```

これで、認証は完了です。

4. 認証されると、各要求は、ヘッダーに access_token 値を渡す必要があります。要求パラメータとして渡すことはできません。

```
HttpClient httpClient = new HttpClient();
GetMethod gm = new GetMethod(serviceUrl);

//set the token in the header
gm.setRequestHeader("Authorization", "Bearer "+accessToken);
//set the SOQL as a query param
NameValuePair[] params = new NameValuePair[1];

/**
 * other option instead of query string, pass just the fields you want back:
 * https://instance_name.salesforce.com/services/data/v20.0/objects/Account/
 * 001D0000000INjVe?fields=AccountNumber,BillingPostalCode
 */
params[0] = new NameValuePair("q","SELECT name, title FROM Contact LIMIT 100");
gm.setQueryString(params);
```



```
httpClient.executeMethod(gm);
String responseBody = gm.getResponseBodyAsString();
//exception handling removed for brevity
JSONObject json = new JSONObject(responseBody);

JSONArray results = json.getJSONArray("records");

for(int i = 0; i < results.length(); i++)
    response.getWriter().write(results.getJSONObject(i).getString("Name")+ ",
    "+results.getJSONObject(i).getString("Title")+"\n");
```

REST 要求にアクセストークンを提供する構文は、次のとおりです。

```
Authorization: Bearer access_token
```

次に例を示します。

```
curl https://instance_name.salesforce.com/services/data/v20.0/ -H 'Authorization: Bearer
access_token'
```

セッション ID の認証

他のユーザのパスワードを処理していない場合は、OAuth 2.0 アクセストークンの代わりにセッション ID を使用できます。

1. セッション ID を取得します。たとえば、SOAP API `login()` コールは、セッション ID を返します。また、たとえば Apex の現在のコンテキストの一部として、セッション ID を持つこともできます。開発中にテスト目的のためだけにセッション ID が必要な場合、cURL コマンドで次のようにユーザ名パスワード OAuth フローを使用できます。

```
curl https://login.salesforce.com/services/oauth2/token -d "grant_type=password" -d
"client_id=myclientid" -d "client_secret=myclientsecret"
-d "username=mylogin@salesforce.com" -d "password=mypassword123456"
```

クライアント ID、クライアントの秘密、ユーザ名、およびユーザセキュリティトークンを付加したパスワードが必要です。

2. リソースに要求を送信するときに、セッション ID を使用します。ID を `token` 値と置き換えます。構文は同じです。

```
Authorization: Bearer access_token
```

次に例を示します。

```
curl https://instance_name.salesforce.com/services/data/v20.0/ -H 'Authorization: Bearer
access_token'
```

ステップ 3: cURL で HTTP 要求を送信する

Force.com REST API を操作するには、HTTP 要求を構築するようにクライアントアプリケーションを設定する必要があります (cURL を使用します)。

クライアントアプリケーションの設定

REST API は、HTTP GET および HTTP POST メソッドを使用して、JSON と XML コンテンツを送信および取得するため、好みのツールまたは言語を使って簡単にクライアントアプリケーションを構築できます。HTTP 要求と応答の送受信を単純化するために、cURL というコマンドラインツールを使用します。

cURL は、多くの Linux システムや Mac システムにあらかじめインストールされています。Windows バージョンは、curl.haxx.se/ からダウンロードできます。Windows で HTTPS を使用する場合、システムが SSL の cURL 要件を満たしていることを確認してください。

REST API リソースを使った HTTP 要求の送信

REST API リソースへの HTTP 要求には、次の情報が含まれている必要があります。

- HTTP メソッド (HEAD、GET、POST、PATCH、または DELETE)。
- 要求の認証に使用される OAuth 2.0 アクセストークン。トークンの取得方法については、「[クイックスタート](#)」(ページ 23)を参照してください。
- リソースの形式 (XML または JSON)、または URI の `.json` または `.xml` 拡張子を示すために使用する HTTP ACCEPT ヘッダー。デフォルトは JSON です。
- Force.com REST リソース。
- 新しい情報でレコードを更新するなどの要求に必要な情報が含まれる JSON ファイルまたは XML ファイル。

HTTP メソッドは、情報の取得や、レコードの作成、更新、削除など、目的のアクションを示すために使用されます。

- HEAD は、リソースメタデータの取得に使用されます。
- GET は、リソースに関する基本的なサマリー情報など、情報の取得に使用されます。
- POST は、新しいオブジェクトを作成するために使用されます。
- PATCH は、レコードを更新するために使用されます。
- DELETE は、レコードを削除するために使用されます。

リソースにアクセスするには、ヘッダー、メソッド、リソース名を含む HTTP 要求を送信します。

たとえば、`newaccount.json` という JSON 形式のファイルを使用して、Account レコードを作成するとします。これには、新しい Account レコードに保存される情報が含まれます。

```
{
  "Name" : "test"
}
```

na1 に cURL を使用すると、要求は、次のようになります。

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/ -H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d "@newaccount.json"
```

HTTP 要求ヘッダーは次のようになります。

```
POST /services/data/v20.0/subjects/Account HTTP/1.1
User-Agent: curl/7.19.7 (universal-apple-darwin10.0) libcurl/7.19.7 OpenSSL/0.9.8l zlib/1.2.3
Host: na7.salesforce.com
Accept: */*
```

```
Content-Length: 1411
Content-Type: application/json
Authorization: Bearer XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
X-PrettyPrint:1
```

応答は次のようになります。

```
Date: Thu, 21 Oct 2010 22:16:22 GMT
Content-Length: 71
Location: /services/data/v20.0/subjects/Account/001T000000NU96UIAT
Content-Type: application/json; charset=UTF-8 Server:
{ "id" : "001T000000NU96UIAT",
  "errors" : [ ],
  "success" : true }
```

リソースおよび対応する URI のリストについては、「[リファレンス](#)」(ページ 90)を参照してください。

関連トピック:

[REST での cURL の使用例](#)

ステップ 4: サンプルコードを実行する

このセクションでは、一連の REST 要求を作成します。要求の構築には cURL を使用し、すべての要求と応答の形式として JSON を使用します。

各要求では、REST リソースと共にベース URI を使用します。これらの例のベース URI は

<https://na1.salesforce.com/services/data> です。詳細は、「[Force.com REST リソースの理解](#)」(ページ 2)を参照してください。

この例では、一連の REST 要求が次のシナリオで使用されます。

1. [Salesforce バージョンを取得する](#)。
2. [Salesforce バージョンを使用して、使用可能なリソースのリストを取得する](#)。
3. [リソースの 1 つを使用して、使用可能なオブジェクトのリストを取得する](#)。
4. [オブジェクトの 1 つを選択して、そのメタデータの説明を取得する](#)。
5. [その同じオブジェクトの項目のリストを取得する](#)。
6. [SOQL クエリを実行して、Account レコードのすべての name 項目の値を取得する](#)。
7. [Account レコードの 1 つで請求先市区郡の情報 \(BillingCity\) を更新する](#)。

Salesforce バージョンを取得する

はじめに、使用可能な各 Salesforce バージョンに関する情報を取得します。これを行うには、[Versions](#) リソースに要求を送信します。この場合、要求に認証は必要ありません。

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/
```

応答ヘッダーを含む、この要求の出力は次のとおりです。

```
Content-Length: 88
Content-Type: application/json;
charset=UTF-8 Server:
[
  {
    "version": "20.0",
    "url": "/services/data/v20.0",
    "label": "Winter '11"
  }
  ...
]
```

出力は、すべての有効なバージョンで使用可能なリソースを指定します (結果には複数の値が含まれる場合があります)。次に、これらのバージョンの1つを使用して、それに含まれるリソースを検出します。

リソースのリストを取得する

次のステップは、Salesforce (この例ではバージョン 20.0) で使用可能なリソースのリストを取得します。これを行うには、[Resources by Version](#) の要求を送信します。

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/ -H "Authorization: Bearer access_token"
-H "X-PrettyPrint:1"
```

この要求の出力は、次のとおりです。

```
{
  "subjects" : "/services/data/v20.0/subjects",
  "search" : "/services/data/v20.0/search",
  "query" : "/services/data/v20.0/query",
  "recent" : "/services/data/v20.0/recent"
}
```

この出力から、`subjects` が、Salesforce バージョン 20.0 で使用可能なリソースの1つであることがわかります。このリソースを次の要求で使用し、使用可能なオブジェクトを取得することができます。

使用可能なオブジェクトのリストを取得する

使用可能なリソースのリストを取得したので、使用可能なオブジェクトのリストを要求できます。これを行うには、[Describe Global](#) の要求を送信します。

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/ -H "Authorization: Bearer access_token"
-H "X-PrettyPrint:1"
```

この要求の出力は、次のとおりです。

```
Transfer-Encoding: chunked
Content-Type: application/json;
charset=UTF-8 Server:
{
  "encoding" : "UTF-8",
  "maxBatchSize" : 200,
```

```

"subjects" : [ {
  "name" : "Account",
  "label" : "Account",
  "custom" : false,
  "keyPrefix" : "001",
  "updateable" : true,
  "searchable" : true,
  "labelPlural" : "Accounts",
  "layoutable" : true,
  "activateable" : false,
  "urls" : { "subject" : "/services/data/v20.0/subjects/Account",
  "describe" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/describe",
  "rowTemplate" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/{ID}" },
  "createable" : true,
  "customSetting" : false,
  "deletable" : true,
  "deprecatedAndHidden" : false,
  "feedEnabled" : false,
  "mergeable" : true,
  "queryable" : true,
  "replicateable" : true,
  "retrieveable" : true,
  "undeletable" : true,
  "triggerable" : true },
},
...

```

この出力から、Account オブジェクトが使用可能であることがわかります。Account オブジェクトに関する詳細情報の取得については、次のステップで説明します。

オブジェクトの基本情報を取得する

Account オブジェクトを使用可能なリソースとして特定したため、そのメタデータに関するいくつかの基本情報を取得できます。これを行うには、[sObject Basic Information](#) の要求を送信します。

```

curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/ -H "Authorization: Bearer access_token" -H "X-PrettyPrint:1"

```

この要求の出力は、次のとおりです。

```

{
  "objectDescribe" :
  {
    "name" : "Account",
    "updateable" : true,
    "label" : "Account",
    "keyPrefix" : "001",

    ...

    "replicateable" : true,
    "retrieveable" : true,
    "undeletable" : true,
    "triggerable" : true
  }
}

```

```
    },
    "recentItems" :
    [
      {
        "attributes" :
        {
          "type" : "Account",
          "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000INjVeIAL"
        },
        "Id" : "001D000000INjVeIAL",
        "Name" : "asdasdasd"
      },
      ...
    ]
  }
}
```

この出力から、名前や表示ラベルなど、Account オブジェクトのいくつかの基本属性を確認できます。最近使用された Account レコードのリストも取得されています。長さやデフォルト値など、その項目に関する詳細情報が必要な場合があるため、次のステップで、Account オブジェクトに関する詳細情報の取得について説明します。

項目のリストを取得する

Account オブジェクトのメタデータに関するいくつかの基本情報を取得したので、詳細情報を取得できます。これを行うには、[sObject Describe](#) の要求を送信します。

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/describe/ -H
"Authorization: Bearer access_token" -H "X-PrettyPrint:1"
```

この要求の出力は、次のとおりです。

```
{
  "name" : "Account",
  "fields" :
  [
    {
      "length" : 18,
      "name" : "Id",
      "type" : "id",
      "defaultValue" : { "value" : null },
      "updateable" : false,
      "label" : "Account ID",
      ...
    },
    ...
  ],
  "updateable" : true,
  "label" : "Account",
  ...
  "urls" :
  {
```

```

    "uiEditTemplate" : "https://na1.salesforce.com/{ID}/e",
    "subject" : "/services/data/v20.0/subjects/Account",
    "uiDetailTemplate" : "https://na1.soma.salesforce.com/{ID}",
    "describe" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/describe",
    "rowTemplate" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/{ID}",
    "uiNewRecord" : "https://na1.salesforce.com/001/e"
  },
  "childRelationships" :
  [
    {
      "field" : "ParentId",
      "deprecatedAndHidden" : false,
      ...
    },
    ...
  ],
  "createable" : true,
  "customSetting" : false,
  ...
}

```

この出力から、その項目の属性や子リレーションなど、Account オブジェクトのさらに詳細な情報を確認できます。これで、組織の Account オブジェクトに対する便利なクエリと更新を作成するのに必要な情報を取得できました。次のステップでは、実際にクエリと更新を実行します。

SOQL クエリを実行する

Account オブジェクトの項目名がわかったので、SOQL クエリを実行できます。例として、今回は、すべての取引先名の値のリストを取得します。これを行うには、[Query](#) 要求を送信します。

```

curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/query?q=SELECT+name+from+Account -H
"Authorization: Bearer access_token" -H "X-PrettyPrint:1"

```

この要求の出力は、次のとおりです。

```

{
  "done" : true,
  "totalSize" : 14,
  "records" :
  [
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IRFmaIAH"
      },
      "Name" : "Test 1"
    },
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Account",

```

```

        "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IomazIAB"
      },
      "Name" : "Test 2"
    },
    ...
  ]
}

```

この出力から使用可能な取引先名のリストを取得します。それぞれの名前の前にある属性には取引先の ID が含まれます。次のステップでは、この情報を使用して、取引先の 1 つを更新します。

 **メモ:** SOQL についての詳細は、『[Salesforce SOQL および SOSL リファレンスガイド](#)』を参照してください。

レコードの項目を更新する

取引先名と ID を把握できたので、レコードの 1 つを取得し、請求先市区郡の情報 (BillingCity) を更新できます。これを行うには、[sObject Rows](#) 要求を送信する必要があります。オブジェクトを更新するには、市区郡に関する新しい情報を提供します。次の情報を含む、patchaccount.json というテキストファイルを作成します。

```

{
  "BillingCity" : "Fremont"
}

```

REST 要求に、この JSON ファイルを指定します。cURL 表記には、データを指定する場合、`-d` オプションが必要です。詳細は、<http://curl.haxx.se/docs/manpage.html> を参照してください。

また、REST リソースを更新するために使用される `PATCH` メソッドを指定します。次の cURL コマンドは、ID 項目を使用して指定された Account レコードを取得し、その市区郡を更新します。

```

curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IroHJ -H
"Authorization: Bearer access_token" -H "X-PrettyPrint:1" -H "Content-Type:
application/json" --data-binary @patchaccount.json -X PATCH

```

レスポンスボディはなく、ヘッダーのみが返されます。

```

HTTP/1.1 204 No Content
Server:
Content-Length: 0

```

その Account レコードのページを更新すると、請求先住所の市区郡が「Fremont」に変更されていることを確認できます。

その他のリソース

- developer.salesforce.com で「Ruby」を検索してください。
- Ruby での使用開始は、『[Force.com Cookbook](#)』のレシピを参照してください。
- [Force.com REST API のディスカッションボード](#)

ワークベンチの使用

ワークベンチツールを使用して、組織に関する情報を取得できます。

cURL を使用しない場合は、ワークベンチ REST エクスプローラを使用して応答データを取得できます。


1. 組織にログインします。
2. 新しいブラウザタブを開き、<https://developer.salesforce.com/page/Workbench> に移動します。
3. ワークベンチにログインし、組織へのアクセスを許可します。ワークベンチは公開サイトであり、データは保持されません。
4. [公益事業] > [REST Explorer] をクリックします。
5. [Get] が選択されていることを確認します。[Execute(実行)] テキストボックスにリソースパスの一部があらかじめ入力されています。リソースについて残りの情報を追加します。たとえば、cURL 構文が次のようになっているとします。

```
https://na1.salesforce.com/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/describe -H  
"Authorization: Bearer token"
```

この場合は、次のように入力します。

```
/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/describe.
```

6. [Execute(実行)] をクリックします。
7. [Expand All(すべて展開)] または [Show Raw Response(未加工のレスポンスを表示)] をクリックしてデータを表示します。

 **ヒント:** 「Service not found(サービスが見つかりません)」というメッセージが表示された場合は、リソースパスを確認してください。

第 3 章

例

トピック:

- [組織に関する情報の取得](#)
- [オブジェクトメタデータの使用](#)
- [レコードの操作](#)
- [検索とクエリの使用](#)
- [最近参照した情報の操作](#)
- [ユーザパスワードの管理](#)
- [承認プロセスとプロセスルールの操作](#)
- [イベント監視の使用](#)
- [複合リソースの使用](#)

このセクションでは、例を示しながら、REST API リソースを使用してオブジェクト、組織情報、クエリの使用などさまざまなタスクを実行する方法を説明します。

REST API リソースの完全なリファレンス情報は、「[リファレンス](#)」(ページ 90)を参照してください。

組織に関する情報の取得

このセクションの例では、REST API リソースを使用して、組織で利用できるすべてのオブジェクトのリストなど、組織レベルの情報を取得します。

このセクションの内容:

使用可能な REST API バージョンをリストする

バージョン、表示ラベル、および各バージョンのルートへのリンクなど、現在使用できる各 REST API バージョンについての概要情報をリストするには、[Versions](#) リソースを使用します。バージョンのリストを取得するための認証は必要ありません。

使用可能な REST リソースをリストする

指定された API バージョンで使用可能なリソースをリストするには、[Resources by Version](#) リソースを使用します。このリソースは、その他のリソースそれぞれの名前と URI を提供します。

オブジェクトのリストを取得する

組織で利用できるオブジェクトおよびログインユーザが使用できるオブジェクトをリストするには、[Describe Global](#) リソースを使用します。このリソースは、組織の文字コードとクエリで許可される最大バッチサイズも返します。

メタデータが変更された場合にオブジェクトのリストを取得する

[Describe Global](#) リソースおよび [If-Modified-Since](#) HTTP ヘッダーを使用して、オブジェクトのメタデータが変更されたかどうかを判別できます。

使用可能な REST API バージョンをリストする

バージョン、表示ラベル、および各バージョンのルートへのリンクなど、現在使用できる各 REST API バージョンについての概要情報をリストするには、[Versions](#) リソースを使用します。バージョンのリストを取得するための認証は必要ありません。

使用例

```
curl http://na1.salesforce.com/services/data/
```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```
[
  {
    "version" : "20.0",
    "label" : "Winter '11",
    "url" : "/services/data/v20.0"
  },
  {
    "version" : "21.0",
    "label" : "Spring '11",
    "url" : "/services/data/v21.0"
  },
]
```

```
...
{
  "version" : "26.0",
  "label" : "Winter '13",
  "url" : "/services/data/v26.0"
}
]
```

XML レスポンスボディの例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Versions>
  <Version>
    <label>Winter &apos;11</label>
    <url>/services/data/v20.0</url>
    <version>20.0</version>
  </Version>
  <Version>
    <label>Spring &apos;11</label>
    <url>/services/data/v21.0</url>
    <version>21.0</version>
  </Version>
  ...
  <Version>
    <label>Winter &apos;13</label>
    <url>/services/data/v26.0</url>
    <version>26.0</version>
  </Version>
</Versions>
```

使用可能な REST リソースをリストする

指定された API バージョンで使用可能なリソースをリストするには、[Resources by Version](#) リソースを使用します。このリソースは、その他のリソースそれぞれの名前と URI を提供します。

例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v26.0/ -H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "subjects" : "/services/data/v26.0/subjects",
  "licensing" : "/services/data/v26.0/licensing",
  "connect" : "/services/data/v26.0/connect",
  "search" : "/services/data/v26.0/search",
  "query" : "/services/data/v26.0/query",
  "tooling" : "/services/data/v26.0/tooling",
  "chatter" : "/services/data/v26.0/chatter",
  "recent" : "/services/data/v26.0/recent"
}
```

XML レスポンスボディの例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<urls>
  <subjects>/services/data/v26.0/subjects</subjects>
  <licensing>/services/data/v26.0/licensing</licensing>
  <connect>/services/data/v26.0/connect</connect>
  <search>/services/data/v26.0/search</search>
  <query>/services/data/v26.0/query</query>
  <tooling>/services/data/v26.0/tooling</tooling>
  <chatter>/services/data/v26.0/chatter</chatter>
  <recent>/services/data/v26.0/recent</recent>
</urls>
```

オブジェクトのリストを取得する

組織で使用できるオブジェクトおよびログインユーザが使用できるオブジェクトをリストするには、[Describe Global](#) リソースを使用します。このリソースは、組織の文字コードとクエリで許可される最大バッチサイズも返します。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v26.0/subjects/ -H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
{
  "encoding" : "UTF-8",
  "maxBatchSize" : 200,
  "subjects" : [ {
    "name" : "Account",
    "label" : "Account",
    "keyPrefix" : "001",
    "labelPlural" : "Accounts",
    "custom" : false,
    "layoutable" : true,
    "activateable" : false,
    "urls" : {
      "subject" : "/services/data/v26.0/subjects/Account",
      "describe" : "/services/data/v26.0/subjects/Account/describe",
      "rowTemplate" : "/services/data/v26.0/subjects/Account/{ID}"
    },
    "searchable" : true,
    "updateable" : true,
    "createable" : true,
    "deprecatedAndHidden" : false,
    "customSetting" : false,
    "deletable" : true,
    "feedEnabled" : true,
    "mergeable" : true,
  } ],
}
```

```

    "queryable" : true,
    "replicateable" : true,
    "retrieveable" : true,
    "undeletable" : true,
    "triggerable" : true
  },
  ...
]
}

```

メタデータが変更された場合にオブジェクトのリストを取得する

Describe Global リソースおよび If-Modified-Since HTTP ヘッダーを使用して、オブジェクトのメタデータが変更されたかどうかを判別できます。

Describe Global リソースを使用するときに、If-Modified-Since ヘッダーを `EEE, dd MMM yyyy HH:mm:ss z` 形式の日付と共に含めることができます。このヘッダーを使用すると、指定した日付以降に使用可能なオブジェクトのメタデータが変更された場合にのみ応答のメタデータが返されます。指定の日付以降にメタデータが変更されていない場合は、レスポンスボディなしで 304 Not Modified 状況コードが返されます。

次の例では、2015 年 3 月 23 日以降にオブジェクトが変更されていないことを前提としています。

Describe Global 要求の例

```
/services/data/v34.0/subjects
```

要求で使用する If-Modified-Since ヘッダーの例

```
If-Modified-Since: Tue, 23 Mar 2015 00:00:00 GMT
```

レスポンスボディの例

レスポンスボディは返されない

応答状況コードの例

```
HTTP/1.1 304 Not Modified
Date: Wed, 25 Jul 2015 00:05:46 GMT
```

2015 年 3 月 23 日以降にオブジェクトに変更があった場合は、レスポンスボディにすべての使用可能なオブジェクトのメタデータが含まれます。「[オブジェクトのリストを取得する](#)」の例を参照してください。

オブジェクトメタデータの使用

このセクションの例では、REST API リソースを使用して、オブジェクトメタデータ情報を取得します。オブジェクトメタデータ情報の変更または作成についての詳細は、『[メタデータ API 開発者ガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

オブジェクトのメタデータを取得する

オブジェクトのメタデータを取得するには、[sObject Basic Information](#) リソースを使用します。

オブジェクトの項目と他のメタデータを取得する

各項目、URL、および子リレーションに関する情報を含む、オブジェクトのすべてのメタデータを取得するには、[sObject Describe](#) リソースを使用します。

オブジェクトのメタデータの変更の取得

[sObject Describe](#) リソースおよび [If-Modified-Since](#) HTTP ヘッダーを使用して、オブジェクトのメタデータが変更されたかどうかを確認できます。

オブジェクトのメタデータを取得する

オブジェクトのメタデータを取得するには、[sObject Basic Information](#) リソースを使用します。

Account メタデータを取得する場合の使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/ -H "Authorization: Bearer token"
```

Account メタデータを取得する場合のリクエストボディの例 不要

Account メタデータを取得する場合のレスポンスボディの例

```
{
  "objectDescribe" :
  {
    "name" : "Account",
    "updateable" : true,
    "label" : "Account",
    "keyPrefix" : "001",
    ...

    "replicateable" : true,
    "retrieveable" : true,
    "undeletable" : true,
    "triggerable" : true
  },
  "recentItems" :
  [
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000INjVeIAL"
      },
      "Id" : "001D000000INjVeIAL",
      "Name" : "asdasdasd"
    },
    ...
  ]
}
```

項目名やメタデータを含む、オブジェクトの完全な説明を取得するには、「[オブジェクトのリストを取得する](#)」を参照してください。

オブジェクトの項目と他のメタデータを取得する

各項目、URL、および子リレーションに関する情報を含む、オブジェクトのすべてのメタデータを取得するには、[sObject Describe](#) リソースを使用します。

例

```
https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/Account/describe/ -H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
{
  "name" : "Account",
  "fields" :
  [
    {
      "length" : 18,
      "name" : "Id",
      "type" : "id",
      "defaultValue" : { "value" : null },
      "updateable" : false,
      "label" : "Account ID",
      ...
    },
    ...
  ],

  "updateable" : true,
  "label" : "Account",
  "keyPrefix" : "001",
  "custom" : false,

  ...

  "urls" :
  {
    "uiEditTemplate" : "https://na1.salesforce.com/{ID}/e",
    "subject" : "/services/data/v20.0/subjects/Account",
    "uiDetailTemplate" : "https://na1.salesforce.com/{ID}",
    ...
  },

  "childRelationships" :
  [
```



```

    {
      "field" : "ParentId",
      "deprecatedAndHidden" : false,
      ...
    },
    ....

  ],

  "createable" : true,
  "customSetting" : false,
  ...
}

```

オブジェクトのメタデータの変更の取得

sObject Describe リソースおよび If-Modified-Since HTTP ヘッダーを使用して、オブジェクトのメタデータが変更されたかどうかを確認できます。

[SObject Describe](#) リソースを使用するときに、If-Modified-Since ヘッダーを `EEE, dd MMM yyyy HH:mm:ss z` 形式の日付と共に含めることができます。このヘッダーを使用すると、指定した日付以降にオブジェクトのメタデータが変更された場合にのみ応答のメタデータが返されます。指定の日付以降にメタデータが変更されていないと、レスポンスボディなしで 304 Not Modified 状況コードが返されます。

次の例では、2013 年 7 月 3 日以降に新しいカスタム項目などの Merchandise__c オブジェクトに行われた変更がないことを前提としています。

sObject Describe 要求の例

```
/services/data/v29.0/sobjects/Merchandise__c/describe
```

要求で使用する If-Modified-Since ヘッダーの例

```
If-Modified-Since: Wed, 3 Jul 2013 19:43:31 GMT
```

レスポンスボディの例

レスポンスボディは返されない

応答状況コードの例

```
HTTP/1.1 304 Not Modified
Date: Fri, 12 Jul 2013 05:03:24 GMT
```

2013 年 7 月 3 日以降に Merchandise__c に変更があった場合は、レスポンスボディには Merchandise__c のメタデータが含まれます。例については、「[オブジェクトの項目と他のメタデータを取得する](#)」を参照してください。

レコードの操作

このセクションの例では、REST API リソースを使用してレコードの作成、取得、更新、削除とその他のレコード関連操作を実行します。

このセクションの内容:

レコードを作成する

新規レコードを作成するには、[sObject Basic Information](#) リソースを使用します。要求データの必須項目値を指定し、リソースの POST メソッドを使用します。コールが成功すると、レスポンスボディに、作成されたレコードの ID が含まれます。

レコードを更新する

レコードを更新するには、[sObject Rows](#) リソースを使用します。要求データに更新するレコード情報を指定し、リソースの PATCH メソッドを使用して、特定のレコードの ID を指定し、そのレコードを更新します。1 つのファイルに含まれるレコードは、同じオブジェクト種別である必要があります。

レコードを削除する

レコードを削除するには、[sObject Rows](#) リソースを使用します。レコード ID を指定し、リソースの DELETE メソッドを使用してレコードを削除します。

標準オブジェクトレコードから項目値を取得する

レコードから項目値を取得するには、[sObject Rows](#) リソースを使用します。fields パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

Salesforce ID を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する

レコードから項目値を取得するには、[sObject Rows](#) リソースを使用します。fields パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

外部 ID 標準項目を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する

レコードから項目値を取得するには、[sObject Rows](#) リソースを使用します。fields パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

外部 ID を使用してレコードを取得する

[sObject Rows by External ID](#) リソースの GET メソッドを使用して、特定の外部 ID でレコードを取得できます。

外部 ID を使用してレコードを挿入/更新 (Upsert) する

指定された外部 ID 項目の値に基づいて、新規レコードを作成するか、既存のレコードを挿入/更新 (Upsert) するには、[sObject Rows by External ID](#) を使用します。

レコードから添付ファイルコンテンツを取得する

特定のレコードの blob データを取得するには、[sObject Blob Retrieve](#) リソースを使用します。

Blob データを挿入または更新する

[sObject Basic Information](#) および [sObject Rows](#) REST リソースを使用して、Salesforce 標準オブジェクトの blob データを挿入または更新できます。任意の種類 of ファイルをアップロードできますが、MIME マルチパートコンテンツタイプ標準に準拠するマルチパートメッセージを使用する必要があります。詳細は、[WC3 標準](#)を参照してください。blob 項目を含む標準オブジェクトのファイルを挿入/更新できます。ContentVersion オブジェクトのアップロードの最大ファイルサイズは 2 GB ですが、使用可能な他の標準オブジェクトの場合は 500 MB です。

特定の期間に削除されたレコードのリストの取得

指定されたオブジェクトの削除されたレコードのリストを取得するには、[sObject Get Deleted](#) リソースを使用します。特定のオブジェクトのレコードが削除された日時の範囲を指定します。削除されたレコードは削除ログ (定期的に消去される) に書き込まれ、sObject 行、クエリなどのほとんどの操作対象から除外されます (ただし、QueryAll では削除されたレコードが結果に含まれます)。

特定の期間に更新されたレコードのリストの取得

指定されたオブジェクトの更新(変更または追加)されたレコードのリストを取得するには、[sObjectGetUpdated](#) リソースを使用します。特定のオブジェクトのレコードが更新された日時の範囲を指定します。

レコードを作成する

新規レコードを作成するには、[sObject Basic Information](#) リソースを使用します。要求データの必須項目値を指定し、リソースの POST メソッドを使用します。コールが成功すると、レスポンスボディに、作成されたレコードの ID が含まれます。

次の例では、`newaccount.json` に指定された項目値で新規 Account レコードを作成します。

新規 Account を作成する例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/ -H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d "@newaccount.json"
```

新規 Account を作成する場合のリクエストボディ `newaccount.json` ファイルの例

```
{
  "Name" : "Express Logistics and Transport"
}
```

新規 Account が正常に作成された場合のレスポンスボディの例

```
{
  "id" : "001D0000000IqhSLIAZ",
  "errors" : [ ],
  "success" : true
}
```

レコードを更新する

レコードを更新するには、[sObjectRows](#) リソースを使用します。要求データに更新するレコード情報を指定し、リソースの PATCH メソッドを使用して、特定のレコードの ID を指定し、そのレコードを更新します。1つのファイルに含まれるレコードは、同じオブジェクト種別である必要があります。

次の例では、Account 内の請求先市区郡の情報 (BillingCity) が更新されます。更新するレコード情報は `patchaccount.json` に指定されています。

Account オブジェクトを更新する例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/001D0000000INjVe -H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @patchaccount.json -X PATCH
```

Account オブジェクトの項目を更新する場合のリクエストボディ `patchaccount.json` ファイルの例

```
{
  "BillingCity" : "San Francisco"
}
```

Account オブジェクトの項目を更新する場合のレスポンスボディの例

戻り値なし

エラー応答

「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 186)を参照してください。

次の例では、Java と HttpClient を使用し、REST API を使用してレコードを更新します。HttpClient に PatchMethod がいないため、PostMethod が上書きされてメソッド名として「PATCH」が返されます。この例では、オブジェクト名とレコード ID が含まれるリソース URL が渡されていると想定します。

```
public static void patch(String url, String sid) throws IOException {
    PostMethod m = new PostMethod(url) {
        @Override public String getName() { return "PATCH"; }
    };

    m.setRequestHeader("Authorization", "OAuth " + sid);

    Map<String, Object> accUpdate = new HashMap<String, Object>();
    accUpdate.put("Name", "Patch test");
    ObjectMapper mapper = new ObjectMapper();
    m.setRequestEntity(new StringRequestEntity(mapper.writeValueAsString(accUpdate),
    "application/json", "UTF-8"));

    HttpClient c = new HttpClient();
    int sc = c.executeMethod(m);
    System.out.println("PATCH call returned a status code of " + sc);
    if (sc > 299) {
        // deserialize the returned error message
        List<ApiError> errors = mapper.readValue(m.getResponseBodyAsStream(), new
        TypeReference<List<ApiError>>() {} );
        for (ApiError e : errors)
            System.out.println(e.errorCode + " " + e.message);
    }
}

private static class ApiError {
    public String errorCode;
    public String message;
    public String [] fields;
}
```

任意の HTTP メソッド名の上書きまたは設定を許可しない HTTP ライブラリを使用している場合、POST 要求を送信して、クエリ文字列パラメータ `_HttpMethod` を介して HTTP メソッドを上書きすることができます。この PATCH の例では、PostMethod の行を上書きを使用しない行に置き換えることができます。

```
PostMethod m = new PostMethod(url + "?_HttpMethod=PATCH");
```

レコードを削除する

レコードを削除するには、[sObjectRows](#) リソースを使用します。レコード ID を指定し、リソースの DELETE メソッドを使用してレコードを削除します。

Account レコードを削除する場合の例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000INjVe -H
"Authorization: Bearer token" -X DELETE
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

戻り値なし

標準オブジェクトレコードから項目値を取得する

レコードから項目値を取得するには、[sObjectRows](#) リソースを使用します。fields パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

次の例では、Account から取引先番号 (AccountNumber) と請求先の郵便番号 (BillingPostalCode) を取得します。

Account レコードの項目から値を取得する例

```
/services/data/v20.0/subjects/Account/001D0000000INjVe  
?fields=AccountNumber,BillingPostalCode
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
{  
  "AccountNumber" : "CD656092",  
  "BillingPostalCode" : "27215",  
}
```

Salesforce ID を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する

レコードから項目値を取得するには、[sObjectRows](#) リソースを使用します。fields パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

次の例では、Country__c カスタム項目が、データが大量ではない外部データソースに関連付けられた外部オブジェクトから取得されます。

Customer 外部オブジェクトの項目から値を取得する例

```
/services/data/v32.0/subjects/Customer__x/x01D00000000002RIAQ?fields=Country__c
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
{  
  "attributes" : {  
    "type" : "Customer__x",  
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Customer__x/x01D00000000002RIAQ"  
  },  
  "Country__c" : "Argentina",  
}
```

```
{
  "Id" : "x01D0000000002RIAQ"
}
```

外部 ID 標準項目を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する

レコードから項目値を取得するには、[sObject Rows](#) リソースを使用します。fields パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

次の例では、Country__c カスタム項目が外部オブジェクトから取得されます。id (CACTU) は Salesforce ID ではありません。外部オブジェクトの外部 ID 標準項目です。

Customer 外部オブジェクトの項目から値を取得する例

```
/services/data/v32.0/subjects/Customer__x/CACTU?fields=Country__c
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
{
  "attributes" : {
    "type" : "Customer__x",
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Customer__x/CACTU"
  },
  "Country__c" : "Argentina",
  "ExternalId" : "CACTU"
}
```

外部 ID を使用してレコードを取得する

[sObject Rows by External ID](#) リソースの GET メソッドを使用して、特定の外部 ID でレコードを取得できます。

次の例では、MerchandiseExtID__c 外部 ID 項目を持つ Merchandise__c カスタムオブジェクトがあると想定します。

外部 ID を使用して Merchandise__c レコードを取得する場合の使用例

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Merchandise__c/MerchandiseExtID__c/123
-H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
{
  "attributes" : {
    "type" : "Merchandise__c",
    "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Merchandise__c/a00D00000008oWP8IAM"
  },
  "Id" : "a00D00000008oWP8IAM",
}
```

```

    "OwnerId" : "005D00000001KyEIIA0",
    "IsDeleted" : false,
    "Name" : "Example Merchandise",
    "CreatedDate" : "2012-07-12T17:49:01.000+0000",
    "CreatedById" : "005D00000001KyEIIA0",
    "LastModifiedDate" : "2012-07-12T17:49:01.000+0000",
    "LastModifiedById" : "005D00000001KyEIIA0",
    "SystemModstamp" : "2012-07-12T17:49:01.000+0000",
    "Description__c" : "Merch with external ID",
    "Price__c" : 10.0,
    "Total_Inventory__c" : 100.0,
    "Distributor__c" : null,
    "MerchandiseExtID__c" : 123.0
  }

```

外部 ID を使用してレコードを挿入/更新 (Upsert) する

指定された外部 ID 項目の値に基づいて、新規レコードを作成するか、既存のレコードを挿入/更新 (Upsert) するには、[sObject Rows by External ID](#) を使用します。

- 指定された値が存在しない場合、新しいレコードが作成されます。
- 指定された値のレコードが存在する場合、リクエストボディに指定された項目値が更新されます。
- 値が一意でない場合、REST API によって、一致するレコードのリストと共に HTTP 状況コード 300 が返されます。

以降のセクションでは、外部 ID リソースを使用して外部 ID でレコードを取得する方法とレコードを Upsert する方法を説明します。

新規レコードの Upsert

この例では、PATCH メソッドを使用して新規レコードを挿入します。外部 ID 項目「customExtIdField__c」がすでに Account に追加されていると想定します。また、customExtIdField 値が 11999 の Account レコードがまだ存在していないと想定します。

まだ存在していないレコードを Upsert する例

```

curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/customExtIdField__c/11999
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @newrecord.json
-X PATCH

```

JSON リクエストボディ **newrecord.json** ファイルの例

```

{
  "Name" : "California Wheat Corporation",
  "Type" : "New Customer"
}

```

応答

成功時の応答は次のとおりです。

```
{
  "id" : "001900000001pPvHAAU",
  "errors" : [ ],
  "success" : true
}
```

レスポンスボディは空です。新しいレコードが作成されると、HTTP 状況コード 201 が返されます。

エラー応答

外部 ID 項目が不正な場合は、次のような応答が返されます。

```
{
  "message" : "The requested resource does not exist",
  "errorCode" : "NOT_FOUND"
}
```

詳細は、「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 186)を参照してください。

既存のレコードの Upsert

この例では、PATCH メソッドを使用して既存のレコードを更新します。外部 ID 項目「customExtIdField__c」がすでに Account に追加されていて、customExtIdField 値が 11999 の Account レコードがすでに存在すると想定します。要求では updates.json を使用して更新する項目値を指定します。

既存のレコードを Upsert する例

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/customExtIdField__c/11999
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @updates.json
-X PATCH
```

JSON リクエストボディ updates.json ファイルの例

```
{
  "BillingCity" : "San Francisco"
}
```

応答の例 (JSON)

既存のレコードが更新される場合、HTTP 状況コード 204 が返されます。

エラー応答

外部 ID 値が一意でない場合、HTTP 状況コード 300 が返され、さらにクエリに一致したレコードのリストが返されます。エラーについての詳細は、「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 186)を参照してください。

外部 ID 項目が存在しない場合、エラーメッセージとコードが返されます。

```
{
  "message" : "The requested resource does not exist",
  "errorCode" : "NOT_FOUND"
}
```


レコードの Upsert と外部 ID との関連付け

オブジェクトでリレーションを使用して他のオブジェクトを参照する場合、REST API を使用し、新規レコードの挿入/更新の両方と、さらに外部 ID を使用した別のオブジェクトの参照も行うことができます。

次の例では、新規レコードを作成し、外部 ID を介して親レコードに関連付けます。次の条件を想定します。

- Merchandise__c カスタムオブジェクトには、外部 ID 項目 MerchandiseExtID__c がある。
- Line_Item__c カスタムオブジェクトには、外部 ID 項目 LineItemExtID__c と、Merchandise__c へのリレーションがある。
- MerchandiseExtID__c 値が 123 の Merchandise__c レコードが存在する。
- LineItemExtID__c 値が 456 の Line_Item__c レコードは存在しない。これは作成され、Merchandise__c レコードに関連付けられるレコードです。

新規レコードを Upsert して関連オブジェクトを参照する例

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v25.0/sobjects/Line_Item__c/LineItemExtID__c/456
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @new.json -X
PATCH
```

JSON リクエストボディ new.json ファイルの例

関連する Merchandise__c レコードは、Merchandise__c の外部 ID 項目を使用して参照されます。

```
{
  "Name" : "LineItemCreatedViaExtID",
  "Merchandise__r" :
  {
    "MerchandiseExtID__c" : 123
  }
}
```

応答の例 (JSON)

作成が成功すると、HTTP 状況コード 201 が返されます。

```
{
  "id" : "a02D00000006YUhrIAO",
  "errors" : [ ],
  "success" : true
}
```

エラー応答

外部 ID 値が一意でない場合、HTTP 状況コード 300 が返され、さらにクエリに一致したレコードのリストが返されます。エラーについての詳細は、「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 186)を参照してください。

外部 ID 項目が存在しない場合、エラーメッセージとコードが返されます。

```
{
  "message" : "The requested resource does not exist",
  "errorCode" : "NOT_FOUND"
}
```

既存のレコードの更新には次の方法を使用することもできます。たとえば、上記の例の Line_Item__c を作成した場合、別の要求を使用して関連する Merchandise__c の更新を試みることができます。

レコードを更新する例

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v25.0/subjects/Line_Item__c/LineItemExtID__c/456
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @updates.json
-X PATCH
```

JSON リクエストボディ `updates.json` ファイルの例

ここでは、`MerchandiseExtID__c` 値が 333 の別の `Merchandise__c` レコードが存在すると想定します。

```
{
  "Merchandise__r" :
  {
    "MerchandiseExtID__c" : 333
  }
}
```

応答の例 (JSON)

既存のレコードが更新される場合、HTTP 状況コード 204 が返されます。

リレーション種別が主従関係で、リレーションが親の変更を許可しないように設定されている場合、親の外部 ID を更新しようとすると、HTTP 状況コード 400 エラーとエラーコード `INVALID_FIELD_FOR_INSERT_UPDATE` が返されます。

レコードから添付ファイルコンテンツを取得する

特定のレコードの blob データを取得するには、[sObject Blob Retrieve](#) リソースを使用します。

次の例では、Attachment レコードの blob データを取得します。Attachment は、Case、Campaign、または添付ファイルを許可するその他のオブジェクトに関連付けることができます。

Attachment レコードの blob 本文を取得する例

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Attachment/001D000000INjVe/body
-H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

Attachment の本文コンテンツがバイナリ形式で返されます。返されたデータがバイナリであるため、応答のコンテンツタイプは JSON でも XML でもありません。

次の例では、Document レコードの blob データを取得します。

Document レコードの blob 本文を取得する例

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Document/015D0000000NdJOIA0/body
-H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例


不要

レスポンスボディの例

Document の本文コンテンツがバイナリ形式で返されます。返されたデータがバイナリであるため、応答のコンテンツタイプは JSON でも XML でもありません。

Blob データを挿入または更新する

[SObject Basic Information](#) および [SObject Rows](#) REST リソースを使用して、Salesforce 標準オブジェクトの blob データを挿入または更新できます。任意の種類のファイルをアップロードできますが、MIME マルチパートコンテンツタイプ標準に準拠するマルチパートメッセージを使用する必要があります。詳細は、[WC3 標準](#)を参照してください。blob 項目を含む標準オブジェクトのファイルを挿入/更新できます。ContentVersion オブジェクトのアップロードの最大ファイルサイズは 2 GB ですが、使用可能な他の標準オブジェクトの場合は 500 MB です。

 **メモ:** 非マルチパートメッセージを使用して blob データを挿入/更新できますが、これを行う場合、テキストデータは 50 MB まで、base64 で符号化されたデータは 37.5 MB までに制限されます。


リクエストメッセージボディの最初のパートには、Description または Name などの非バイナリ項目データが含まれます。メッセージの 2 つ目のパートには、アップロードするファイルのバイナリデータが含まれます。

この後のセクションでは、マルチパートコンテンツタイプを使用して blob データを挿入/更新する JSON の例を示します。

- [新規 Document の挿入](#)
- [Document の更新](#)
- [ContentVersion の挿入](#)
- [マルチパートメッセージの考慮事項](#)

新規 Document の挿入

このセクションには、新規 Document を作成するための構文とコードが含まれます。ファイル自体のバイナリデータの他に、Description、Keywords、Name などの他の項目データも指定されています。

 **ヒント:** 新規 Document を追加すると、[ドキュメント] タブで変更の結果を確認できます。

新規 Document を作成する例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v23.0/subjects/Document/ -H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: multipart/form-data; boundary=\"boundary_string\"" --data-binary @newdocument.json
```

新規 Document を作成する場合のリクエストボディの例

このコードは、newdocument.json のコンテンツです。ここでは、簡潔にするために PDF コンテンツのバイナリデータは省略され、「Binary data goes here.」に置き換えられています。実際の要求にはバイナリコンテンツ全体が含まれます。

```
--boundary_string
Content-Disposition: form-data; name="entity_document";
Content-Type: application/json

{
  "Description" : "Marketing brochure for Q1 2011",
```

```

    "Keywords" : "marketing,sales,update",
    "FolderId" : "005D0000001GiU7",
    "Name" : "Marketing Brochure Q1",
    "Type" : "pdf"
  }

--boundary_string
Content-Type: application/pdf
Content-Disposition: form-data; name="Body"; filename="2011Q1MktgBrochure.pdf"

Binary data goes here.

--boundary_string--

```

新規 Document を作成する場合のレスポンスボディの例
成功すると、新規 Document の ID が返されます。

```

{
  "id" : "015D0000000N3ZZIA0",
  "errors" : [ ],
  "success" : true
}

```

エラー応答の例

```

{
  "fields" : [ "FolderId" ],
  "message" : "Folder ID: id value of incorrect type: 005D0000001GiU7",
  "errorCode" : "MALFORMED_ID"
}

```

Document の更新

このセクションには、既存の Document を更新するための構文とコードが含まれます。ファイル自体のバイナリデータの他に、Name や Keywords などの他の項目データも更新されます。

Document オブジェクトの項目を更新する場合の使用例

```

curl https://na1.salesforce.com/services/data/v23.0/Document/015D0000000N3ZZIA0 -H
"Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: multipart/form-data;
boundary=\"boundary_string\"" --data-binary @UpdateDocument.json -X PATCH

```

Document オブジェクトの項目を更新する場合のリクエストボディの例

このコードは、UpdateDocument.json ファイルのコンテンツです。ここでは、簡潔にするために PDF コンテンツのバイナリデータは省略され、「Updated document binary goes here.」に置き換えられています。実際の要求にはバイナリコンテンツ全体が含まれます。

```

--boundary_string
Content-Disposition: form-data; name="entity_content";
Content-Type: application/json

{
  "Name" : "Marketing Brochure Q1 - Sales",
  "Keywords" : "sales, marketing, first quarter"
}

```

```

}

--boundary_string
Content-Type: application/pdf
Content-Disposition: form-data; name="Body"; filename="2011Q1MktgBrochure.pdf"

Updated document binary data goes here.

--boundary_string--

```

Document オブジェクトの項目を更新する場合のレスポンスボディの例

戻り値なし

エラー応答

「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 186)を参照してください。

ContentVersion の挿入

このセクションには、新規ContentVersionを挿入するための構文とコードが含まれます。ファイル自体のバイナリデータの他に、ReasonForChange や PathOnClient などの他の項目も更新されます。ContentVersion は、必ず ContentDocument に関連付けられているため、このメッセージには ContentDocumentId が含まれます。



ヒント: ContentVersion オブジェクトは update をサポートしていません。したがって ContentVersion を更新することはできませんが、新しいContentVersionを挿入できます。変更の結果は、[コンテンツ] タブで確認できます。

ContentVersion を挿入する場合の使用例

```

curl https://na1.salesforce.com/services/data/v23.0/subjects/ContentVersion -H
"Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: multipart/form-data;
boundary=\"boundary_string\"" --data-binary @NewContentVersion.json

```

ContentVersion を挿入する場合のリクエストボディの例

このコードは、NewContentVersion.json ファイルのコンテンツです。ここでは、簡潔にするためにPDFコンテンツのバイナリデータは省略され、「Binary data goes here.」に置き換えられています。実際の要求にはバイナリコンテンツ全体が含まれます。

```

--boundary_string
Content-Disposition: form-data; name="entity_content";
Content-Type: application/json

{
  "ContentDocumentId" : "069D00000000so2",
  "ReasonForChange" : "Marketing materials updated",
  "PathOnClient" : "Q1 Sales Brochure.pdf"
}

--boundary_string
Content-Type: application/octet-stream
Content-Disposition: form-data; name="VersionData"; filename="Q1 Sales Brochure.pdf"

Binary data goes here.

```

```
--boundary_string--
```

ContentVersion を挿入する場合のレスポンスボディの例

```
{
  "id" : "068D00000000pgOIAQ",
  "errors" : [ ],
  "success" : true
}
```

ContentVersion を挿入した場合のエラー応答

「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 186)を参照してください。

マルチパートメッセージの考慮事項

blob データを挿入/更新するときの、マルチパートメッセージの形式に関するいくつかの考慮事項を次に示します。

境界文字列

- マルチパートメッセージの各パートを区分します。
- マルチパートコンテンツタイプで必須です。
- 70 文字まで入力できます。
- メッセージパートのどの部分にも出現しない文字列値である必要があります。
- 最初の境界文字列には、2つのハイフン(--)をプレフィックスとして使用する必要があります。
- 最後の境界文字列には、2つのハイフン(--)をポストフィックスとして使用する必要があります。

Content-Disposition ヘッダー

- 各メッセージパートで必須です。
- 値は `form-data` であり、`name` 属性が必要です。
 - 非バイナリのメッセージパートでは、`name` 属性に任意の値を使用できます。
 - バイナリのメッセージパートでは、`name` 属性に、バイナリデータを含むオブジェクト項目の名前が含まれている必要があります。新規 Document を追加した前の例では、ファイルを含むバイナリ項目の名前は「Body」です。
- バイナリのメッセージパートには、ローカルファイルの名前を表す `filename` 属性が必要です。

Content-Type ヘッダー

- 各メッセージパートで必須です。
- 非バイナリのメッセージパートでサポートされているコンテンツタイプは、`application/json` と `application/xml` です。
- バイナリのメッセージパートの `Content-Type` ヘッダーには、任意の値を使用できます。

改行

メッセージパートのヘッダーとそのパートのデータの間に、改行が必要です。コード例で示されるとおり、`Content-Type` ヘッダーや `Content-Disposition` ヘッダーと、JSON または XML の間に改行が必要です。

バイナリのパートでは、Content-Type ヘッダーや Content-Disposition ヘッダーとバイナリデータの間に改行が必要です。

特定の期間に削除されたレコードのリストの取得

指定されたオブジェクトの削除されたレコードのリストを取得するには、[sObject Get Deleted](#) リソースを使用します。特定のオブジェクトのレコードが削除された日時の範囲を指定します。削除されたレコードは削除ログ(定期的に消去される)に書き込まれ、sObject 行、クエリなどのほとんどの操作対象から除外されます(ただし、QueryAll では削除されたレコードが結果に含まれます)。

2013 年 5 月 5 日～2013 年 5 月 10 日に削除された Merchandise__c レコードのリストを取得する場合の使用例

```
/services/data/v29.0/objects/Merchandise__c/deleted/
?start=2013-05-05T00%3A00%3A00%2B00%3A00&end=2013-05-10T00%3A00%3A00%2B00%3A00
```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "deletedRecords" :
  [
    {
      "id" : "a00D00000008pQRAIA2",
      "deletedDate" : "2013-05-07T22:07:19.000+0000"
    }
  ],
  "earliestDateAvailable" : "2013-05-03T15:57:00.000+0000",
  "latestDateCovered" : "2013-05-08T21:20:00.000+0000"
}
```

XML レスポンスボディの例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Merchandise__c>
  <deletedRecords>
    <deletedDate>2013-05-07T22:07:19.000Z</deletedDate>
    <id>a00D00000008pQRAIA2</id>
  </deletedRecords>
  <earliestDateAvailable>2013-05-03T15:57:00.000Z</earliestDateAvailable>
  <latestDateCovered>2013-05-08T21:20:00.000Z</latestDateCovered>
</Merchandise__c>
```

特定の期間に更新されたレコードのリストの取得

指定されたオブジェクトの更新(変更または追加)されたレコードのリストを取得するには、[sObject Get Updated](#) リソースを使用します。特定のオブジェクトのレコードが更新された日時の範囲を指定します。

2013 年 5 月 6 日～2013 年 5 月 10 日に更新された Merchandise__c レコードのリストを取得する場合の使用例

```
/services/data/v29.0/objects/Merchandise__c/updated/
?start=2013-05-06T00%3A00%3A00%2B00%3A00&end=2013-05-10T00%3A00%3A00%2B00%3A00
```


リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "ids" :
  [
    "a00D0000008pQR5IAM",
    "a00D0000008pQRGIA2",
    "a00D0000008pQRFIA2"
  ],
  "latestDateCovered" : "2013-05-08T21:20:00.000+0000"
}
```

XML レスポンスボディの例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Merchandise__c>
  <ids>a00D0000008pQR5IAM</ids>
  <ids>a00D0000008pQRGIA2</ids>
  <ids>a00D0000008pQRFIA2</ids>
  <latestDateCovered>2013-05-08T21:20:00.000Z</latestDateCovered>
</Merchandise__c>
```

検索とクエリの使用

このセクションの例では、REST API リソースを使用して、Salesforce Object Search Language (SOSL)、Salesforce Object Query Language (SOQL)、およびその他の検索 API を使用したレコードの検索やクエリを実行します。SOSL および SOQL についての詳細は、[『Force.com SOQL および SOSL リファレンス』](#)を参照してください。

このセクションの内容:

SOQL クエリを実行する

すべての結果を1つの応答で返すか、または必要に応じて、結果の一部と、残りの結果を取得するために使用する識別子を返す SOQL クエリを実行するには、[Query](#) リソースを使用します。

削除された項目を含む SOQL クエリを実行する

merge または delete で削除されたレコードの情報を含む SOQL クエリを実行するには、[QueryAll](#) リソースを使用します。Query リソースでは削除された項目が自動的に除外されるため、Query ではなく QueryAll を使用します。

クエリのパフォーマンスに関するフィードバックを取得する

Salesforce でクエリ、レポート、またはリストビューがどのように実行されるかについてフィードバックを取得するには、explain パラメータを指定して [Query](#) リソースを使用します。Salesforce では、各クエリを分析して、クエリ結果を取得するための最適な手段が検索されます。クエリおよびクエリ条件に応じて、インデックスまたは内部最適化が使用されることがあります。クエリを実際に行わずに Salesforce でクエリがどのように最適化されるかについての詳細を返すには、explain パラメータを使用します。応答に基づいて、クエリをセレクトティブにするための条件を追加するなどの変更を加えることによって、クエリのパフォーマンスを細かく調整するかどうかを決定できます。

文字列を検索する

SOQL 検索を実行するには、[Search](#) リソースを使用します。単純な文字列を検索するには、HTTP GET メソッドを使用します。より視覚的な階層で、JSON ファイルを使用して複雑な文字列を検索するには、HTTP POST メソッドを使用します。

デフォルトの検索範囲と検索順序の取得

[Search Scope and Order](#) リソースを使用して、ユーザの検索結果ページの固定表示オブジェクトを含め、ログインユーザのデフォルトの検索範囲と検索順序を取得します。

オブジェクトの検索結果レイアウトの取得

[Search Result Layouts](#) リソースを使用して、クエリ文字列で指定された各オブジェクトの検索結果レイアウトの設定を取得します。

関連項目の表示

関連レコードのリストを取得するには、[Relevant Items](#) リソースを使用します。

SOQL クエリを実行する

すべての結果を1つの応答で返すか、または必要に応じて、結果の一部と、残りの結果を取得するために使用する識別子を返す SOQL クエリを実行するには、[Query](#) リソースを使用します。

次のクエリは、すべての Account レコードを対象に `name` 項目の値を要求します。

クエリを実行する場合の使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/query/?q=SELECT+name+from+Account
-H "Authorization: Bearer token"
```

クエリを実行する場合のリクエストボディの例
不要

クエリを実行場合のレスポンスボディの例

```
{
  "done" : true,
  "totalSize" : 14,
  "records" :
  [
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IRFmaIAH"
      },
      "Name" : "Test 1"
    },
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IomazIAB"
      },
      "Name" : "Test 2"
    }
  ]
}
```

```
    },
    ...
  ]
}
```

SOQL クエリの残りの結果の取得

最初のクエリで結果の一部のみを返す場合、応答の最後に `nextRecordsUrl` という項目が含まれます。たとえば、クエリの最後に次の属性があるとして。

```
"nextRecordsUrl" : "/services/data/v20.0/query/01gD00000002HU6KIAW-2000"
```

この場合、レコードの次のバッチを要求し、すべてのレコードが取得されるまでこの操作を繰り返します。これらの要求は `nextRecordsUrl` を使用し、パラメータを含みません。

クエリの残りの結果を取得する場合の使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/query/01gD00000002HU6KIAW-2000 -H
"Authorization: Bearer token"
```

クエリの残りの結果を取得する場合のリクエストボディの例
不要

クエリの残りの結果を取得する場合のレスポンスボディの例

```
{
  "done" : true,
  "totalSize" : 3214,
  "records" : [...]
}
```

削除された項目を含む SOQL クエリを実行する

`merge` または `delete` で削除されたレコードの情報を含む SOQL クエリを実行するには、[QueryAll](#) リソースを使用します。Query リソースでは削除された項目が自動的に除外されるため、Query ではなく QueryAll を使用します。

次のクエリは、削除された `Merchandise__c` レコードが1つある組織で、削除されたすべての `Merchandise__c` レコードを対象に `Name` 項目の値を要求します。同じクエリに QueryAll ではなく Query を使用した場合、レコードは返されません。これは、Query では削除されたレコードがすべて結果セットから自動的に除外されるためです。

削除された `Merchandise__c` レコードのクエリを実行する場合の使用例

```
/services/data/v29.0/queryAll/?q=SELECT+Name+from+Merchandise__c+WHERE+isDeleted+=+TRUE
```

クエリを実行する場合のリクエストボディの例
不要

クエリを実行する場合のレスポンスボディの例

```
{
  "done" : true,
```

```

    "totalSize" : 1,
    "records" :
    [
      {
        "attributes" :
        {
          "type" : "Merchandise__c",
          "url" : "/services/data/v29.0/subjects/Merchandise__c/a00D0000008pQRAIX2"
        },
        "Name" : "Merchandise 1"
      },
    ]
  }
}

```

SOQL クエリの残りの結果の取得

最初のクエリで結果の一部のみを返す場合、応答の最後に `nextRecordsUrl` という項目が含まれます。たとえば、クエリの最後に次の属性があるとして。

```
"nextRecordsUrl" : "/services/data/v29.0/query/01gD0000002HU6KIAW-2000"
```

この場合、レコードの次のバッチを要求し、すべてのレコードが取得されるまでこの操作を繰り返します。これらの要求は `nextRecordsUrl` を使用し、パラメータを含みません。

`nextRecordsUrl` の URL に `query` が指定されている場合でも、最初の QueryAll 要求の残りの結果が提供されます。残りの結果には、最初のクエリに一致した削除されたレコードが含まれます。

残りの結果を取得する場合の使用例

```
/services/data/v29.0/query/01gD0000002HU6KIAW-2000
```

残りの結果を取得する場合のリクエストボディの例

不要

残りの結果を取得する場合のレスポンスボディの例


```

{
  "done" : true,
  "totalSize" : 3214,
  "records" : [...]
}

```

クエリのパフォーマンスに関するフィードバックを取得する

Salesforce でクエリ、レポート、またはリストビューがどのように実行されるかについてフィードバックを取得するには、`explain` パラメータを指定して [Query](#) リソースを使用します。Salesforce では、各クエリを分析して、クエリ結果を取得するための最適な手段が検索されます。クエリおよびクエリ条件に応じて、インデックスまたは内部最適化が使用されることがあります。クエリを実際に行わずに Salesforce でクエリがどのように最適化されるかについての詳細を返すには、`explain` パラメータを使用します。応答に基づいて、クエリをセレクティブにするための条件を追加するなどの変更を加えることによって、クエリのパフォーマンスを細かく調整するかどうかを決定できます。

 **メモ:** REST API クエリリソースでの `explain` の使用は、ベータ機能です。このベータ機能に関連するサポートはありません。詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

応答には、最も最適なものから順に並び替えられた、1つ以上のクエリ実行プランが含まれます。クエリ、レポート、またはリストビューの実行時には最も最適なプランが使用されます。

`explain` を使用したときに返される項目についての詳細は、「Query」の「`explain` パラメータ」を参照してください。クエリをセレクティブにする方法については、『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』の「より効率的な SOQL クエリ」を参照してください。

 **例:**

Merchandise__c を使用するクエリに関するパフォーマンスフィードバックを取得する場合の使用例

```
/services/data/v35.0/query/?explain=
SELECT+Name+FROM+Merchandise__c+WHERE+CreatedDate+=+TODAY+AND+Price__c+>+10.0
```

パフォーマンスフィードバッククエリを実行する場合のレスポンスボディの例

```
{
  "plans" : [ {
    "cardinality" : 1,
    "fields" : [ "CreatedDate" ],
    "leadingOperationType" : "Index",
    "notes" : [ {
      "description" : "Not considering filter for optimization because unindexed",
      "fields" : [ "IsDeleted" ],
      "tableEnumOrId" : "Merchandise__c"
    } ],
    "relativeCost" : 0.0,
    "subjectCardinality" : 3,
    "subjectType" : "Merchandise__c"
  }, {
    "cardinality" : 1,
    "fields" : [ ],
    "leadingOperationType" : "TableScan",
    "notes" : [ {
      "description" : "Not considering filter for optimization because unindexed",
      "fields" : [ "IsDeleted" ],
      "tableEnumOrId" : "Merchandise__c"
    } ],
    "relativeCost" : 0.65,
    "subjectCardinality" : 3,
    "subjectType" : "Merchandise__c"
  } ]
}
```

この応答は、このクエリに対して2つの可能な実行プランが Salesforce で検出されたことを示しています。最初のプランでは、このクエリのパフォーマンスを向上するために `CreatedDate` インデックス項目が使用されます。2つ目のプランでは、インデックスを使用せずにすべてのレコードがスキャンされます。実際にクエリを実行するときには、最初のプランが使用されます。どちらのプランでも、`IsDeleted` 項目のインデックスが作成されていないため、削除済みとマークされているレコードを除外する場合に使用される2つ目の最適化には使用されません。



例:

レポートに関するパフォーマンスフィードバックを取得する場合の使用例

```
/services/data/v35.0/query/?explain=000D00000001hCzMMCu
```

レポートに関するパフォーマンスフィードバックを取得する場合のレスポンスボディの例

```
{
  "plans" : [ {
    "cardinality" : 1,
    "fields" : [ ],
    "leadingOperationType" : "TableScan",
    "notes" : [ {
      "description" : "Not considering filter for optimization because unindexed",
      "fields" : [ "IsDeleted" ],
      "tableEnumOrId" : "Merchandise__c"
    } ],
    "relativeCost" : 0.65,
    "subjectCardinality" : 3,
    "subjectType" : "Merchandise__c"
  } ]
}
```

この応答は、このレポートのクエリに対して1つの可能な実行プランが Salesforce で検出されたことを示しています。このプランでは、インデックスを使用せずにすべてのレコードがスキャンされます。IsDeleted 項目のインデックスが作成されていないため、削除済みとマークされているレコードを除外する場合に使用される2つ目の最適化には適用できません。

文字列を検索する

SOSL 検索を実行するには、[Search](#) リソースを使用します。単純な文字列を検索するには、HTTP GET メソッドを使用します。より視覚的な階層で、JSON ファイルを使用して複雑な文字列を検索するには、HTTP POST メソッドを使用します。

GET メソッドを使用した SOSL 検索の例

次の例では、{test} の SOSL 検索を実行します。この例の検索文字列は URL 符号化されている必要があります。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/search/?q=FIND+%7Btest%7D -H
"Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
[
  {
    "attributes" :
```

```

    {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IqhSLIAZ"
    },
    "Id" : "001D000000IqhSLIAZ"
  },
  {
    "attributes" :
    {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IomazIAB"
    },
    "Id" : "001D000000IomazIAB"
  }
]

```

GET メソッドを使用した単純な検索の例 (ベータ)

次の例では、{test} の検索を実行します。この例の検索文字列は URL 符号化されている必要があります。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/search/?qs=test -H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```

[
  {
    "attributes" :
    {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IqhSLIAZ"
    },
    "Id" : "001D000000IqhSLIAZ"
  },
  {
    "attributes" :
    {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IomazIAB"
    },
    "Id" : "001D000000IomazIAB"
  }
]

```

POST メソッドを使用した検索の例 (ベータ)

使用可能なすべての検索機能にアクセスする POST メソッドを使用して検索を実行します。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v35.0/search "Authorization: Bearer token-H"
"Content-Type: application/json" -d "@search.json"
```

リクエストボディの例

不要

JSON ファイルの例

```
{
  "qs": "foo",
  "fields": ["id", "firstName", "lastName"],
  "subjects": [{"fields": ["id", "name"],
    "name": "Account",
    "where": "DISTANCE(My_Location_Field__c, GEOLOCATION(37,122), 'mi') <
100",
  }
  ],
  "orderBy": {"fields": "name",
    "order": "ASC",
    "WhereAreNulls": "last"
  },
  "limit": 20
},
{
  "name": "Contact"
},
],
"in": "ALL",
"overallLimit": 100,
"defaultLimit": 10
"offset": 5,
"updateViewStat": true,
"updateTracking": true,
"dataCategory":
{"groupName": "GlobalCategory__c", "operator": "below", "categories": ["NorthAmerica__c"]}
,
{"groupName": "GlobalCategory__c", "operator": "above", "categories": ["SanFrancisco__c"]}
]
}
```

レスポンスボディの例

```
[
  {
    "attributes" :
    {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IqhSLIAZ"
    },
    "Id" : "001D000000IqhSLIAZ"
  },
  {
    "attributes" :
```

```
[
  {
    "type" : "Account",
    "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IomazIAB"
  },
  "Id" : "001D000000IomazIAB"
]
```

デフォルトの検索範囲と検索順序の取得

[Search Scope and Order](#) リソースを使用して、ユーザの検索結果ページの固定表示オブジェクトを含め、ログインユーザのデフォルトの検索範囲と検索順序を取得します。

次の例では、ログインユーザのデフォルトのグローバル検索範囲は、サイト、アイデア、ケース、商談、取引先、およびユーザオブジェクトがレスポンスボディに返される順序で構成されます。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v26.0/search/scopeOrder -H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
[
  {
    "type": "Site",
    "url": "/services/data/v26.0/subjects/Site/describe"
  },
  {
    "type": "Idea",
    "url": "/services/data/v26.0/subjects/Idea/describe"
  },
  {
    "type": "Case",
    "url": "/services/data/v26.0/subjects/Case/describe"
  },
  {
    "type": "Opportunity",
    "url": "/services/data/v26.0/subjects/Opportunity/describe"
  },
  {
    "type": "Account",
    "url": "/services/data/v26.0/subjects/Account/describe"
  },
  {
    "type": "User",
    "url": "/services/data/v26.0/subjects/User/describe"
  }
]
```


オブジェクトの検索結果レイアウトの取得

[SearchResultLayouts](#) リソースを使用して、クエリ文字列で指定された各オブジェクトの検索結果レイアウトの設定を取得します。

使用例

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v28.0/searchlayout/?q=Account,Contact,Lead,Asset
"Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
[ { "label" : "Search Results",
  "limitRows" : 25,
  "searchColumns" : [ { "field" : "Account.Name",
    "format" : null,
    "label" : "Account Name",
    "name" : "Name"
  },
  { "field" : "Account.Site",
    "format" : null,
    "label" : "Account Site",
    "name" : "Site"
  },
  { "field" : "Account.Phone",
    "format" : null,
    "label" : "Phone",
    "name" : "Phone"
  },
  { "field" : "User.Alias",
    "format" : null,
    "label" : "Account Owner Alias",
    "name" : "Owner.Alias"
  }
]
},
{ "label" : "Search Results",
  "limitRows" : 25,
  "searchColumns" : [ { "field" : "Contact.Name",
    "format" : null,
    "label" : "Name",
    "name" : "Name"
  },
  { "field" : "Account.Name",
    "format" : null,
    "label" : "Account Name",
    "name" : "Account.Name"
  },
  { "field" : "Account.Site",
    "format" : null,
    "label" : "Account Site",
```

```

        "name" : "Account.Site"
    },
    { "field" : "Contact.Phone",
      "format" : null,
      "label" : "Phone",
      "name" : "Phone"
    },
    { "field" : "Contact.Email",
      "format" : null,
      "label" : "Email",
      "name" : "Email"
    },
    { "field" : "User.Alias",
      "format" : null,
      "label" : "Contact Owner Alias",
      "name" : "Owner.Alias"
    }
  ]
},
{ "label" : "Search Results",
  "limitRows" : 25,
  "searchColumns" : [ { "field" : "Lead.Name",
    "format" : null,
    "label" : "Name",
    "name" : "Name"
  },
    { "field" : "Lead.Title",
      "format" : null,
      "label" : "Title",
      "name" : "Title"
    },
    { "field" : "Lead.Phone",
      "format" : null,
      "label" : "Phone",
      "name" : "Phone"
    },
    { "field" : "Lead.Company",
      "format" : null,
      "label" : "Company",
      "name" : "Company"
    },
    { "field" : "Lead.Email",
      "format" : null,
      "label" : "Email",
      "name" : "Email"
    },
    { "field" : "Lead.Status",
      "format" : null,
      "label" : "Lead Status",
      "name" : "toLabel(Status)"
    },
    { "field" : "Name.Alias",
      "format" : null,
      "label" : "Owner Alias",

```

```

        "name" : "Owner.Alias"
      }
    ]
  },
]

```

関連項目の表示

関連レコードのリストを取得するには、[Relevant Items](#) リソースを使用します。

現在のユーザの最も関連性の高いレコードリストを取得する場合の使用例

/vXX.X/subjects/relevantItems

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```

[ {
  "key" : "003",
  "label" : "Contacts",
  "recordIds" : [ "003xx000004TxBA" ]
}, {
  "key" : "001",
  "label" : "Accounts",
  "recordIds" : [ "001xx000003DWsT" ]
}, {
  "key" : "005",
  "label" : "Users",
  "recordIds" : [ "005xx000001Svqw", "005xx000001SvwK", "005xx000001SvwA" ]
}, {
  "key" : "069",
  "label" : "Content Documents",
  "recordIds" : [ "069xx0000000006", "069xx0000000001", "069xx0000000002" ]
} ]

```

特定のオブジェクトへの応答を絞り込む場合の使用例

/v35.0/subjects/relevantItems?subjects=Account,User

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```

[ {
  "key" : "001",
  "label" : "Accounts",
  "recordIds" : [ "001xx000003DWsT" ]
}, {
  "key" : "005",
  "label" : "Users",
  "recordIds" : [ "005xx000001Svqw", "005xx000001SvwK", "005xx000001SvwA" ]
} ]

```

ユーザの現在の関連レコードリストを以前のバージョンと比較する場合の使用例

```
/v35.0/subjects/relevantItems?lastUpdatedId=08ses9Fjkjs8sNFO28423q
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
[ { lastUpdatedId: 08ses9Fjkjs8sNFO28423r
  newResultSetSinceLastQuery: true
  {
    "key" : "003",
    "label" : "Contacts",
    "recordIds" : [ "003xx000004TxBA" ]
  }, {
    "key" : "001",
    "label" : "Accounts",
    "recordIds" : [ "001xx000003DWsT" ]
  }, {
    "key" : "005",
    "label" : "Users",
    "recordIds" : [ "005xx000001Svqw", "005xx000001SvwA" ]
  } ]
```

最近参照した情報の操作

このセクションの例では、REST API の Query リソースおよび Recently Viewed リソースを使用して最近参照したレコード情報をプログラムで取得および更新します。

このセクションの内容:

最近参照したレコードの表示

最近参照したレコードのリストを取得するには、[Recently Viewed Items](#) リソースを使用します。

最近参照したデータとしてレコードをマーク

REST API を使用して、最近参照したデータとしてレコードをマークするには、FOR VIEW 句または FOR REFERENCE 句を指定して [Query](#) リソースを使用します。レコードを最近参照したデータとしてマークし、レコードが参照された日時などの情報が正しく設定されていることを確認するには、SOQLを使用します。

最近参照したレコードの表示

最近参照したレコードのリストを取得するには、[Recently Viewed Items](#) リソースを使用します。

最近参照したレコードのうち最近の2件を取得する場合の使用例

```
/services/data/v28.0/recent/?limit=2
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
{
  "attributes" :
  {
    "type" : "Account",
    "url" : "/services/data/v28.0/subjects/Account/a06U0000000CelH0IAJ"
  },
  "Id" : "a06U0000000CelH0IAJ",
  "Name" : "Acme"
},
{
  "attributes" :
  {
    "type" : "Opportunity",
    "url" : "/services/data/v28.0/subjects/Opportunity/a06U0000000CelGvIAJ"
  },
  "Id" : "a06U0000000CelGvIAJ",
  "Name" : "Acme - 600 Widgets"
}
```

最近参照したデータとしてレコードをマーク

REST API を使用して、最近参照したデータとしてレコードをマークするには、FOR VIEW 句または FOR REFERENCE 句を指定して [Query](#) リソースを使用します。レコードを最近参照したデータとしてマークし、レコードが参照された日時などの情報が正しく設定されていることを確認するには、SOQL を使用します。

FOR VIEW は、モバイルアプリケーションなどのカスタムインターフェースまたはカスタムページからレコードが参照された場合に、Salesforce に通知するために使用します。レコードがカスタムインターフェースから参照されている場合は、FOR REFERENCE を使用します。レコードは、関連レコードが表示されるたびに参照されます。詳細については、『*Force.com SOQL および SOSL リファレンス*』の「FOR VIEW」および「FOR REFERENCE」を参照してください。

1つの取引先レコードを最近参照したデータとしてマークするクエリを実行する場合の使用例

```
/services/data/v28.0/query/?q=SELECT+Name+FROM+Account+LIMIT+1+FOR+VIEW
```

クエリを実行する場合のリクエストボディの例

不要

クエリを実行場合のレスポンスボディの例

```
{
  "done" : true,
  "totalSize" : 1,
  "records" :
  [
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v28.0/subjects/Account/001D0000000IRFmaIAH"
      },

```

```

        "Name" : "Acme"
      },
    ]
  }
}

```

ユーザパスワードの管理

このセクションの例では、REST API リソースを使用して、パスワードの設定やリセットなど、ユーザパスワードを管理します。

このセクションの内容:

ユーザパスワードを管理する

ユーザパスワードの設定やリセット、パスワードに関する情報の取得を行うには、[sObject User Password](#) リソースを使用します。パスワードの有効期限の状況を取得するには HTTP GET メソッド、パスワードを設定するには HTTP POST メソッド、パスワードをリセットするには HTTP DELETE メソッドを使用します。

ユーザパスワードを管理する

ユーザパスワードの設定やリセット、パスワードに関する情報の取得を行うには、[sObject User Password](#) リソースを使用します。パスワードの有効期限の状況を取得するには HTTP GET メソッド、パスワードを設定するには HTTP POST メソッド、パスワードをリセットするには HTTP DELETE メソッドを使用します。

関連付けられたセッションには、特定のユーザパスワード情報へのアクセス権が必要です。セッションに適切な権限がない場合、これらのメソッドから HTTP エラー応答 403 が返されます。

これらのメソッドは、ユーザとセルフサービスユーザの両方に提供されています。セルフサービスユーザのパスワードの管理では、REST API URL に、`User` の代わりに `SelfServiceUser` を使用します。

次に、ユーザの現在のパスワード有効期限の状況を取得する例を示します。

現在のパスワード有効期限の状況を取得する場合の使用例

```

curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v25.0/subjects/User/005D00000001KyEIIA0/password
-H "Authorization: Bearer token"

```

現在のパスワード有効期限の状況を取得する場合のリクエストボディの例
不要

現在のパスワード有効期限の状況を取得する場合のレスポンスボディの例 (JSON)

```

{
  "isExpired" : false
}

```

現在のパスワード有効期限の状況を取得する場合のレスポンスボディの例 (XML)

```

<Password>
  <isExpired>false</isExpired>
</Password>

```

セッションの権限が不十分な場合のエラー応答の例

```
{
  "message" : "You do not have permission to view this record.",
  "errorCode" : "INSUFFICIENT_ACCESS"
}
```

次に、特定のユーザのパスワードを変更する例を示します。

ユーザパスワードを変更する場合の使用例

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v25.0/subjects/User/005D0000001KyEIIA0/password
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @newpwd.json
-X POST
```

ファイル newpwd.json のコンテンツ

```
{
  "NewPassword" : "myNewPassword1234"
}
```

ユーザパスワードを変更する場合のレスポンスボディの例

パスワードが正しく変更された場合のレスポンスボディはありません。HTTP 状況コード 204 が返されます。

新規パスワードが組織のパスワード要件を満たしていない場合のエラー応答の例

```
{
  "message" : "Your password must have a mix of letters and numbers.",
  "errorCode" : "INVALID_NEW_PASSWORD"
}
```

最後に、ユーザパスワードのリセットの例を示します。

ユーザパスワードをリセットする場合の使用例

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v25.0/subjects/User/005D0000001KyEIIA0/password
-H "Authorization: Bearer token" -X DELETE
```

ユーザパスワードをリセットする場合のリクエストボディの例

不要

ユーザパスワードをリセットする場合のレスポンスボディの例 (JSON)

```
{
  "NewPassword" : "2sv0xHAuM"
}
```

ユーザパスワードをリセットする場合のレスポンスボディの例 (XML)

```
<Result>
  <NewPassword>2sv0xHAuM</NewPassword>
</Result>
```

承認プロセスとプロセスルールの操作

このセクションの例では、REST API リソースを使用して、承認プロセスとプロセスルールを操作します。

このセクションの内容:

すべての承認プロセスのリストを取得する

承認に関する情報を取得するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。

承認を受けるレコードを送信する

承認を受ける単一レコードまたはレコードのコレクションを送信するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。各コールは、要求の配列を受け付けます。

レコードを承認する

単一レコードまたはレコードのコレクションを承認するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。各コールは、要求の配列を受け付けます。現在のユーザは、割り当てられた承認者である必要があります。

レコードを却下する

単一レコードまたはレコードのコレクションを却下するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。各コールは、要求の配列を受け付けます。現在のユーザは、割り当てられた承認者である必要があります。

一括承認

一括承認を行うには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。異なる [Process Approvals](#) 要求のコレクションを指定して、すべて一括して実行することができます。

プロセスルールのリストを取得する

プロセスルールに関する情報を取得するには、[Process Rules](#) リソースを使用します。

特定のプロセスルールを取得する

[Process Rules](#) リソースを使用し、メタデータを取得するルールの *sObjectName* と *workflowRuleId* を指定します。

プロセスルールをトリガする

プロセスルールをトリガするには、[Process Rules](#) リソースを使用します。評価条件に関係なく、指定された ID に関連するすべてのルールが評価されます。すべての ID は、同じオブジェクトのレコードの ID である必要があります。

すべての承認プロセスのリストを取得する

承認に関する情報を取得するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/process/approvals/ -H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "approvals" : {
    "Account" : [ {
      "description" : null,
      "id" : "04aD00000008Py9",
      "name" : "Account Approval Process",
      "object" : "Account",
      "sortOrder" : 1
    } ]
  }
}
```

承認を受けるレコードを送信する

承認を受ける単一レコードまたはレコードのコレクションを送信するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。各コールは、要求の配列を受け付けます。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/process/approvals/ -H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @submit.json"
```

リクエストボディ **submit.json** ファイルの例

次の例では、レコード「001D000000I8mIm」が、開始条件を省略し、送信者「005D00000015rZy」の代理として、承認プロセス「PTO_Request_Process」のために送信されます。

```
{
  "requests" : [{
    "actionType": "Submit",
    "contextId": "001D000000I8mIm",
    "nextApproverIds": ["005D00000015rY9"],
    "comments": "this is a test",
    "contextActorId": "005D00000015rZy",
    "processDefinitionNameOrId" : "PTO_Request_Process",
    "skipEntryCriteria": "true"}}
]
```

JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "actorIds" : [ "005D00000015rY9IAI" ],
  "entityId" : "001D000000I8mImIAJ",
  "errors" : null,
  "instanceId" : "04gD0000000Cvm5IAC",
  "instanceStatus" : "Pending",
  "newWorkitemIds" : [ "04iD0000000Cw6SIAS" ],
  "success" : true } ]
```

レコードを承認する

単一レコードまたはレコードのコレクションを承認するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。各コールは、要求の配列を受け付けます。現在のユーザは、割り当てられた承認者である必要があります。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/process/approvals/ -H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @approve.json"
```

リクエストボディ `approve.json` ファイルの例

```
{
  "requests" : [{
    "actionType" : "Approve",
    "contextId" : "04iD0000000Cw6SIAS",
    "nextApproverIds" : ["005D000000015rY9"],
    "comments" : "this record is approved"}]
}
```

JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "actorIds" : null,
  "entityId" : "001D0000000I8mImIAJ",
  "errors" : null,
  "instanceId" : "04gD0000000CvmAIIAS",
  "instanceStatus" : "Approved",
  "newWorkitemIds" : [ ],
  "success" : true
} ]
```

レコードを却下する

単一レコードまたはレコードのコレクションを却下するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。各コールは、要求の配列を受け付けます。現在のユーザは、割り当てられた承認者である必要があります。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/process/approvals/ -H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @reject.json"
```

リクエストボディ `reject.json` ファイルの例

```
{
  "requests" : [{
    "actionType" : "Reject",
    "contextId" : "04iD0000000Cw6cIAC",
    "comments" : "This record is rejected."}]
}
```

JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "actorIds" : null,
  "entityId" : "001D000000I8mImIAJ",
  "errors" : null,
  "instanceId" : "04gD0000000CvmFIAS",
  "instanceStatus" : "Rejected",
  "newWorkitemIds" : [ ],
  "success" : true
} ]
```

一括承認

一括承認を行うには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。異なる Process Approvals 要求のコレクションを指定して、すべて一括して実行することができます。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/process/approvals/ -H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @bulk.json"
```

リクエストボディ **bulk.json** ファイルの例

```
{
  "requests" :
  [{
    "actionType" : "Approve",
    "contextId" : "04iD0000000Cw6r",
    "comments" : "approving an account"
  }, {
    "actionType" : "Submit",
    "contextId" : "001D0000000JRWBd",
    "nextApproverIds" : ["005D000000015rY9"],
    "comments" : "submitting an account"
  }, {
    "actionType" : "Submit",
    "contextId" : "003D0000000QBZ08",
    "comments" : "submitting a contact"
  }]
}
```

JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "actorIds" : null,
  "entityId" : "001D000000I8mImIAJ",
  "errors" : null,
  "instanceId" : "04gD0000000CvmZIAS",
  "instanceStatus" : "Approved",
  "newWorkitemIds" : [ ],
  "success" : true
} ]
```

```

    }, {
      "actorIds" : null,
      "entityId" : "003D000000QBZ08IAH",
      "errors" : null,
      "instanceId" : "04gD0000000CvmeIAC",
      "instanceStatus" : "Approved",
      "newWorkitemIds" : [ ],
      "success" : true
    }, {
      "actorIds" : [ "005D000000015rY9IAI" ],
      "entityId" : "001D000000JRWBdIAP",
      "errors" : null,
      "instanceId" : "04gD0000000CvmfIAC",
      "instanceStatus" : "Pending",
      "newWorkitemIds" : [ "04iD0000000Cw6wIAC" ],
      "success" : true
    } ]

```

プロセスルールのリストを取得する

プロセスルールに関する情報を取得するには、[Process Rules](#) リソースを使用します。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/process/rules/ -H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```

{
  "rules" : {
    "Account" : [ {
      "actions" : [ {
        "id" : "01VD0000000D2w7",
        "name" : "ApprovalProcessTask",
        "type" : "Task"
      } ],
      "description" : null,
      "id" : "01QD0000000APli",
      "name" : "My Rule",
      "namespacePrefix" : null,
      "object" : "Account"
    } ]
  }
}

```

特定のプロセスルールを取得する

[Process Rules](#) リソースを使用し、メタデータを取得するルールの *sObjectName* と *workflowRuleId* を指定します。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/process/rules/Account/01QD0000000APli
-H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "actions" : [ {
    "id" : "01VD0000000D2w7",
    "name" : "ApprovalProcessTask",
    "type" : "Task"
  } ],
  "description" : null,
  "id" : "01QD0000000APli",
  "name" : "My Rule",
  "namespacePrefix" : null,
  "object" : "Account"
}
```

プロセスルールをトリガする

プロセスルールをトリガするには、[Process Rules](#) リソースを使用します。評価条件に関係なく、指定された ID に関連するすべてのルールが評価されます。すべての ID は、同じオブジェクトのレコードの ID である必要があります。

使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/process/rules/ -H "Authorization:
Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @rules.json"
```

リクエストボディ **rules.json** ファイルの例

```
{
  "contextIds" : [
    "001D0000000JRWBd",
    "001D0000000I8mIm",
    "001D0000000I8aaf"
  ]
}
```


JSON レスポンスボディの例

```
{
  "errors" : null,
```

```
"success" : true
}
```

イベント監視の使用

このセクションの例では、REST API イベント監視データを使用しています。このデータに含まれる情報は、組織の利用状況のトレンドとユーザの行動を評価する場合に役立ちます。イベント監視は、EventLogFile オブジェクトを使用して Force.com SOAP API および REST API からアクセスされるため、ログデータを独自のバックエンドストレージやデータマートと統合して、複数の組織やさまざまなシステムからのデータを容易に相関付けることができます。

 **メモ:** EventLogFile オブジェクトに関する重要な情報については、Salesforce および Force.com の『[オブジェクトリファレンス](#)』を参照してください。

イベント監視を使用する場合、次の点に留意してください。

- ごくまれに 24 時間ログファイルが生成されないことがあります。その場合は Salesforce にお問い合わせください。
- ログデータは参照のみです。ログデータは挿入、更新、または削除できません。
- EventType 項目を使用して、自分の組織で生成されたファイルを特定します。
- LogDate は、24 時間 (UTC 時間の午前 12:00 から午後 11:59 まで) の使用状況の活動を追跡します。
- イベントによって、リアルタイムにログデータが生成されます。ただし、ログファイルは、イベントが実行された翌日のピーク時間以外に生成されます。そのため、ログファイルデータはイベントが発生してから少なくとも 1 日は使用できません。
- CreatedDate は、ログファイルがいつ生成されたのかを追跡します。
- EventType 項目で表されるログファイルは、該当のタイプのイベントがその日に 1 つ以上発生している場合にのみ生成されます。イベントが発生していない場合、その日のファイルは生成されません。
- ログファイルの期限は、CreatedDate から 30 日間 (ユーザイベント監視を組織で購入している場合) または 1 日 (Developer Edition 組織の場合) です。
- すべてのイベント監視ログは、EventLogFile オブジェクトを介して API に公開されますが、ユーザインターフェースからアクセスすることはできません。

イベント監視は、次の 29 種類のファイルで使用できます。

- Apex コールアウト
- Apex 実行
- Apex SOAP
- Apex トリガ
- API
- 非同期レポート
- Bulk API
- 変更セット操作
- コンテンツ配布
- コンテンツドキュメントリンク

- コンテンツ転送
- ダッシュボード
- ドキュメント添付ファイルのダウンロード
- ログイン
- 別名でログイン
- ログアウト
- MDAPI 操作
- マルチブロックレポート
- パッケージのインストール
- キューにある実行
- レポート
- レポートのエクスポート
- REST API
- Salesforce1 採用 (UI 追跡)
- Sandbox
- サイト
- 時間ベースのワークフロー
- URI
- Visualforce

このセクションで使用しているすべてのクエリと例には、「イベントログファイルを参照」および「API の有効化」ユーザ権限が必要です。「すべてのデータの参照」権限を持つユーザは、イベント監視データも表示できます。

このセクションの内容:

[REST を使用してイベント監視を記述する](#)

項目、URL、および子リレーションに関する情報を含む、オブジェクトのすべてのメタデータを取得するには、[SObject Describe](#) リソースを使用します。

[REST を使用してイベント監視データをクエリする](#)

レコードから項目値を取得するには、[Query](#) リソースを使用します。fields パラメータに取得する項目を指定し、リソースの `GET` メソッドを使用します。

[レコードからイベント監視コンテンツを取得する](#)

特定のレコードの BLOB データを取得するには、[SObject Blob Retrieve](#) リソースを使用します。

[cURL を REST で使用して大きなイベントログファイルをダウンロードする](#)

イベントログファイルがツールで処理できないほど大きくなる場合があります。cURL などのコマンドラインツールは、[SObject Blob Retrieve](#) オブジェクトを使用して 100 MB を超えるファイルをダウンロードする方法の 1 つです。

REST を使用してイベント監視を記述する

項目、URL、および子リレーションに関する情報を含む、オブジェクトのすべてのメタデータを取得するには、[SObject Describe](#) リソースを使用します。

例

[ワークベンチ](#)を使用して、イベントログファイルを記述できます。[実行] テキストボックスに、`/services/data/v32.0/objects/EventLogFile/describe` と入力します。

未加工の応答の例

```
{
  "actionOverrides" : [ ],
  "activateable" : false,
  "childRelationships" : [ ],
  "compactLayoutable" : false,
  "createable" : false,
  "custom" : false,
  "customSetting" : false,
  "deletable" : false,
  "deprecatedAndHidden" : false,
  "feedEnabled" : false,
  "fields" : [ {
    "autoNumber" : false,
    "byteLength" : 18,
    "calculated" : false,
    "calculatedFormula" : null,
    "cascadeDelete" : false,
    "caseSensitive" : false,
    "controllerName" : null,
    "createable" : false,
    ...
  }
}
```

REST を使用してイベント監視データをクエリする

レコードから項目値を取得するには、[Query](#) リソースを使用します。fields パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

[ワークベンチ](#)を使用して、イベント監視データをクエリできます。LogDate および EventType に基づいてイベント監視レコードを取得するには、[Execute (実行)] テキストボックスで、次のように入力します。

```
/services/data/v32.0/query?q=SELECT+Id+,+EventType+,+LogFile+,+LogDate+,+LogFileLength+FROM+EventLogFile+WHERE+LogDate+>+Yesterday+AND+EventType+=+'API'
```

未加工の応答の例

```
{
  "totalSize" : 4,
  "done" : true,
  "records" : [ {
    "attributes" : {
```



```

    "type" : "EventLogFile",
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD000000001bROAQ"      }
  "Id" : "0ATD000000001bROAQ",
  "EventType" : "API",
  "LogFile" : "/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD000000001bROAQ/LogFile",

  "LogDate" : "2014-03-14T00:00:00.000+0000",
  "LogFileLength" : 2692.0
}, {
  "attributes" : {
    "type" : "EventLogFile",
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD000000001SdOAI"      },
    "Id" : "0ATD000000001SdOAI",
    "EventType" : "API",
    "LogFile" :
"/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD000000001SdOAI/LogFile",
    "LogDate" : "2014-03-13T00:00:00.000+0000",
    "LogFileLength" : 1345.0
  }, {
    "attributes" : {
      "type" : "EventLogFile",
      "url" : "/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD000000003p1OAA"      },
      "Id" : "0ATD000000003p1OAA",
      "EventType" : "API",
      "LogFile" :
"/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD000000003p1OAA/LogFile",
      "LogDate" : "2014-06-21T00:00:00.000+0000",
      "LogFileLength" : 605.0    },
    {
      "attributes" : {
        "type" : "EventLogFile",
        "url" : "/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD0000000055eOAA"      },
        "Id" : "0ATD0000000055eOAA",
        "EventType" : "API",
        "LogFile" :
"/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD0000000055eOAA/LogFile",
        "LogDate" : "2014-07-03T00:00:00.000+0000",
        "LogFileLength" : 605.0
      } ]
  }
}

```

レコードからイベント監視コンテンツを取得する

特定のレコードの BLOB データを取得するには、[SObject Blob Retrieve](#) リソースを使用します。

例

[ワークベンチ](#)を使用して、イベント監視の BLOB データを取得できます。[Execute (実行)] テキストボックスで、`/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD00000000pyOAA/LogFile` のような GET 要求を使用します。

レスポンスボディの例

イベント監視コンテンツがバイナリ形式で返されます。返されたデータがバイナリであるため、応答のコンテンツタイプは JSON でも XML でもありません。

```

HTTP/1.1 200 OK
Date: Tue, 06 Aug 2013 16:46:10 GMT
Sforce-Limit-Info: api-usage=135/5000
Content-Type: application/octetstream
Transfer-Encoding: chunked
"EVENT_TYPE", "ORGANIZATION_ID", "TIMESTAMP", "USER_ID", "CLIENT_IP",
"URI", "REFERRER_URI", "RUN_TIME"
"URI", "00DD0000000K5xD", "20130728185606.020", "005D0000001REDy",
"10.0.62.141", "/secur/contentDoor", "https://login-salesforce-com/",
"11"
"URI", "00DD0000000K5xD", "20130728185556.930", "005D0000001REI0",
"10.0.62.141", "/secur/logout.jsp", "https://na1-salesforce-com/000/o",
"54"
"URI", "00DD0000000K5xD", "20130728185536.725", "005D0000001REI0",
"10.0.62.141", "/00DD0000001ckx3",
"https://na1-salesforce-com/00DD0000001ckx3", "93"

```

cURL を REST で使用して大きなイベントログファイルをダウンロードする

イベントログファイルがツールで処理できないほど大きくなる場合があります。cURL などのコマンドラインツールは、SObject Blob Retrieve オブジェクトを使用して 100 MBを超えるファイルをダウンロードする方法の1つです。

例: 「X-PrettyPrint」ヘッダーと「-o」フラグを使用して大きなファイルを .csv 形式に出力する
次のコマンドは、ファイルをマシンのダウンロードフォルダにダウンロードします。

```

curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0AT30000000000uGAA/LogFile
-H "Authorization: Bearer token" -H "X-PrettyPrint:1" -o ~/downloads/outputLogFile.csv

```

大きなイベントログファイルをダウンロードする場合は圧縮することをお勧めします。「[圧縮の使用](#)」を参照してください。

複合リソースの使用

このセクションの例では、複合リソースを使用して、クライアントとサーバ間の往復回数を最小限に抑えることでアプリケーションのパフォーマンスを高めます。

このセクションの内容:

1 回の要求でレコードを更新してその項目値を取得する

1 回の API コールで複数の要求を実行するには、Batch リソースを使用します。

ネストされたレコードを作成する

SObjectTree リソースを使用して、ルートレコードタイプを共有するネストされたレコードを作成できます。たとえば、1回の要求で、取引先とその子取引先責任者、さらに2件目の取引先とその子取引先および子取引先責任者を作成できます。要求が処理されると、レコードが作成され、親と子が自動的に ID でリンクされます。要求データに、レコード階層、必須および省略可能な項目値、各レコードのタイプ、および各レコードの参照IDを指定し、リソースのPOSTメソッドを使用します。要求が成功すると、レスポンスボディには作成されたレコードのIDが含まれます。失敗すると、応答にはエラーが発生したレコードの参照IDとエラー情報のみが含まれます。

複数のレコードを作成する

SObject Tree リソースを使用するとネストされたレコードを作成できますが、同じタイプで複数の関連しないレコードを作成することもできます。1回の要求で最大200件のレコードを作成できます。要求データに、各レコードの必須および省略可能な項目値、各レコードのタイプ、および各レコードの参照IDを指定し、リソースのPOSTメソッドを使用します。要求が成功すると、レスポンスボディには作成されたレコードのIDが含まれます。失敗すると、応答にはエラーが発生したレコードの参照IDとエラー情報のみが含まれます。

1回の要求でレコードを更新してその項目値を取得する

1回のAPIコールで複数の要求を実行するには、Batch リソースを使用します。

次の例では、1回の要求で取引先の名前を更新し、その取引先の複数の項目値を取得します。batch.json ファイルには、サブ要求データが含まれます。

1回の要求でレコードを更新してその名前と請求先の郵便番号をクエリする

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v34.0/composite/batch/ -H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d "@batch.json"
```

リクエストボディ **batch.json** ファイル

```
{
  "batchRequests" : [
    {
      "method" : "PATCH",
      "url" : "v34.0/subjects/account/001D000000K0fXOIAZ",
      "richInput" : {"Name" : "NewName"}
    }, {
      "method" : "GET",
      "url" : "v34.0/subjects/account/001D000000K0fXOIAZ?fields=Name,BillingPostalCode"
    }
  ]
}
```

サブ要求の実行が成功した場合のレスポンスボディ

```
{
  "hasErrors" : false,
  "results" : [{
    "statusCode" : 204,
    "result" : null
  }, {
    "statusCode" : 200,
```

```

    "result": {
      "attributes" : {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v34.0/subjects/Account/001D000000K0fXOIAZ"
      },
      "Name" : "NewName",
      "BillingPostalCode" : "94105",
      "Id" : "001D000000K0fXOIAZ"
    }
  }
}

```

関連トピック:

[Batch](#)

ネストされたレコードを作成する

SObjectTree リソースを使用して、ルートレコードタイプを共有するネストされたレコードを作成できます。たとえば、1回の要求で、取引先とその子取引先責任者、さらに2件目の取引先とその子取引先および子取引先責任者を作成できます。要求が処理されると、レコードが作成され、親と子が自動的にIDでリンクされます。要求データに、レコード階層、必須および省略可能な項目値、各レコードのタイプ、および各レコードの参照IDを指定し、リソースのPOSTメソッドを使用します。要求が成功すると、レスポンスボディには作成されたレコードのIDが含まれます。失敗すると、応答にはエラーが発生したレコードの参照IDとエラー情報のみが含まれます。

次の例では、2セットのネストされたレコードを作成します。最初のセットには、取引先と2件の子取引先責任者レコードが含まれます。2つ目のセットには、取引先、1件の子取引先レコード、および1件の子取引先責任者レコードが含まれます。レコードデータは `newrecords.json` で指定されます。

2件の新規取引先とその子レコードを作成する例

```

curl https://na1.salesforce.com/services/data/v34.0/composite/tree/Account/ -H
"Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d "@newrecords.json"

```

2件の新規取引先とその子レコードを作成するためのリクエストボディ `newrecords.json` ファイルの例

```

{
  "records" : [{
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref1"},
    "name" : "SampleAccount1",
    "phone" : "1234567890",
    "website" : "www.salesforce.com",
    "numberOfEmployees" : "100",
    "industry" : "Banking",
    "Contacts" : {
      "records" : [{
        "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref2"},
        "lastname" : "Smith",
        "Title" : "President",
        "email" : "sample@salesforce.com"
      }, {

```

```

        "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref3"},
        "lastname" : "Evans",
        "title" : "Vice President",
        "email" : "sample@salesforce.com"
    }]
}
}, {
"attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref4"},
"name" : "SampleAccount2",
"phone" : "1234567890",
"website" : "www.salesforce.com",
"numberOfEmployees" : "52000",
"industry" : "Banking",
"childAccounts" : {
    "records" : [{
        "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref5"},
        "name" : "SampleChildAccount1",
        "phone" : "1234567890",
        "website" : "www.salesforce.com",
        "numberOfEmployees" : "100",
        "industry" : "Banking"
    }]
},
"Contacts" : {
    "records" : [{
        "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref6"},
        "lastname" : "Jones",
        "title" : "President",
        "email" : "sample@salesforce.com"
    }]
}
}]
}

```

レコードとリレーションが正常に作成された場合のレスポンスボディの例

```

{
    "hasErrors" : false,
    "results" : [{
        "referenceId" : "ref1",
        "id" : "001D000000K0fXOIAZ"
    }, {
        "referenceId" : "ref2",
        "id" : "001D000000K0fXPPIAZ"
    }, {
        "referenceId" : "ref3",
        "id" : "003D000000QV9n2IAD"
    }, {
        "referenceId" : "ref4",
        "id" : "003D000000QV9n3IAD"
    }, {
        "referenceId" : "ref5",
        "id" : "001D000000K0fXQIAZ"
    }, {
        "referenceId" : "ref6",

```

```

    "id" : "003D000000QV9n4IAD"
  }]
}

```

要求が処理されると、6 件のレコードすべてが要求に指定された親-子リレーションで作成されます。

関連トピック:

[SObject Tree](#)

複数のレコードを作成する

SObjectTree リソースを使用するとネストされたレコードを作成できますが、同じタイプで複数の関連しないレコードを作成することもできます。1 回の要求で最大 200 件のレコードを作成できます。要求データに、各レコードの必須および省略可能な項目値、各レコードのタイプ、および各レコードの参照 ID を指定し、リソースの POST メソッドを使用します。要求が成功すると、レスポンスボディには作成されたレコードの ID が含まれます。失敗すると、応答にはエラーが発生したレコードの参照 ID とエラー情報のみが含まれます。

次の例では、4 件の新規取引先を作成します。レコードデータは `newrecords.json` で指定されます。

4 件の新規取引先を作成する例

```

curl https://na1.salesforce.com/services/data/v34.0/composite/tree/Account/ -H
"Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d "@newrecords.json"

```

4 件の新規取引先を作成する場合のリクエストボディ `newrecords.json` ファイルの例

```

{
  "records" : [{
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref1"},
    "name" : "SampleAccount1",
    "phone" : "1111111111",
    "website" : "www.salesforce1.com",
    "numberOfEmployees" : "100",
    "industry" : "Banking"
  }, {
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref2"},
    "name" : "SampleAccount2",
    "phone" : "2222222222",
    "website" : "www.salesforce2.com",
    "numberOfEmployees" : "250",
    "industry" : "Banking"
  }, {
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref3"},
    "name" : "SampleAccount3",
    "phone" : "3333333333",
    "website" : "www.salesforce3.com",
    "numberOfEmployees" : "52000",
    "industry" : "Banking"
  }, {
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref4"},
    "name" : "SampleAccount4",
    "phone" : "4444444444",
    "website" : "www.salesforce4.com",

```

```
    "numberOfEmployees" : "2500",  
    "industry" : "Banking"  
  }  
}
```

レコードが正常に作成された場合のレスポンスボディの例

```
{  
  "hasErrors" : false,  
  "results" : [{  
    "referenceId" : "ref1",  
    "id" : "001D000000K1YFjIAN"  
  }, {  
    "referenceId" : "ref2",  
    "id" : "001D000000K1YFkIAN"  
  }, {  
    "referenceId" : "ref3",  
    "id" : "003D000000K1YFlIAN"  
  }, {  
    "referenceId" : "ref4",  
    "id" : "003D000000K1YFmIAN"  
  }  
]  
}
```

関連トピック:

[SObject Tree](#)

第 4 章 リファレンス

次の表に、API でサポートされている REST リソースをリストし、それぞれのリソースについて簡単に説明します。それぞれの場合で、リソースの URI は、認証サービスから取得するベース URI (<http://domain/services/data>) に続きます。*domain* は、使用している Salesforce インスタンス、または [カスタムドメイン](#) です。たとえば、バージョン 20.0 の Account オブジェクトに関する基本情報を取得する場合、<http://na1.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/> となります。

コール名をクリックすると、構文、使用方法、各コールの詳細情報を確認できます。

リソース名	URI	説明
Versions	/	バージョン、表示ラベル、および各バージョンのルートへのリンクなど、現在使用可能な各 Salesforce バージョンの概要情報をリストします。
Resources by Version	/vXX.X/	リソース名および URI を含む、指定された API バージョンで使用可能なリソースをリストします。
Describe Global	/vXX.X/subjects/	組織のデータで使用可能なオブジェクトとそのメタデータをリストします。
sObject Basic Information	/vXX.X/subjects/ <i>sObject</i> /	指定されたオブジェクトの個別のメタデータを説明します。特定のオブジェクトの新規レコードの作成にも使用できます。
sObject Describe	/vXX.X/subjects/ <i>sObject</i> /describe/	指定されたオブジェクトのすべてのレベルで、個別のメタデータを完全に説明します。
sObject Get Deleted	/vXX.X/subjects/ <i>sObject</i> /deleted/ ?start= <i>startDateAndTime</i> &end= <i>endDateAndTime</i>	指定されたオブジェクトについて、特定の期間内に削除された個々のレコードのリストを取得します。
sObject Get Updated	/vXX.X/subjects/ <i>sObject</i> /updated/ ?start= <i>startDateAndTime</i> &end= <i>endDateAndTime</i>	指定されたオブジェクトに対して指定された期間内に更新された(追加または変更された)個別のレコードのリストを取得します。
SObject Named Layouts	/vXX.X/subjects/ <i>Object</i> /describe/namedLayouts/ <i>layoutName</i>	特定のオブジェクトの代替名前付きレイアウトに関する情報を取得します。
sObject Rows	/vXX.X/subjects/ <i>SObject</i> / <i>id</i> /	指定されたオブジェクト ID に基づいてレコードにアクセスします。レコードを取

リファレンス

リソース名	URI	説明
		得、更新、または削除します。このリソースは、項目値の取得にも使用できます。
sObject Rows by External ID	/vXX.X/subjects/ sObject / fieldName / fieldValue	指定された外部 ID 項目の値に基づいて、新しいレコードを作成するか、既存のレコードを更新(レコードを Upsert) します。
sObject ApprovalLayouts	/vXX.X/subjects/ sObjectName /describe/approvalLayouts/	指定されたオブジェクトの承認レイアウトのリストを返します。
sObject CompactLayouts	/vXX.X/subjects/ Object /describe/compactLayouts/	特定のオブジェクトのコンパクトレイアウトのリストを返します。
Describe Layouts	/vXX.X/subjects/global/describe/layouts/ /vXX.X/subjects/ object /describe/layouts/	レイアウトおよび説明のリストを返します。
sObject PlatformAction	/services/data/vXX.X/subjects/PlatformAction	PlatformAction は、参照のみの仮想オブジェクトです。ユーザ、コンテキスト、デバイス形式、レコード ID に応じて、UI に表示するアクション(標準およびカスタムボタン、クイックアクション、生産性アクションなど)をクエリできるようにします。
sObject Blob Retrieve	/vXX.X/subjects/ sObject / id / blobField	個別のレコードから指定された blob 項目を取得します。
sObject Quick Actions	/vXX.X/subjects/ object /quickActions/ /vXX.X/subjects/ object /quickActions/{アクション名} /vXX.X/subjects/ object /quickActions/{アクション名}/describe/ services/data/vXX.X/subjects/ object /quickActions/{アクション名}/defaultValues/ vXX.X/subjects/ object /quickActions/{アクション名}/defaultValues/{親 ID}	アクションとその詳細のリストを返します。
sObject Suggested Articles for Case	vXX.X/subjects/Case/suggestedArticles?language=記事の言語&subject=ケースの件名 &description=ケースの説明 vXX.X/subjects/Case/ ID /suggestedArticles?language=記事の言語	ケースについて提案する Salesforce ナレッジの記事のリストを返します。

リファレンス

リソース名	URI	説明
sObject User Password	/vXX.X/subjects/User/ ユーザ ID /password /vXX.X/subjects/SelfServiceUser/ セルフサービスユーザ ID /password	ユーザパスワードを設定またはリセットしたり、ユーザパスワードに関する情報を取得したりします。
AppMenu	/vXX.X/appMenu/AppSwitcher/ /vXX.X/appMenu/Salesforce1/	Salesforce アプリケーションドロップダウンメニューまたは Salesforce1 ナビゲーションメニューの項目のリストを返します。
FlexiPage	/vXX.X/flexiPage/ Lightning ページの ID	Lightning ページとその詳細のリストを返します。返される情報には、Lightning ページの範囲、各範囲内のコンポーネント、各コンポーネントのプロパティ、および関連付けられた QuickActions が含まれます。
Process Approvals	/vXX.X/process/approvals/	すべての承認プロセスのリストを返します。特定のレコードが承認プロセスをサポートしていて、承認プロセスがすでに定義されている場合、そのレコードを送信するためにも使用できます。現在のユーザが割り当てられた承認者である場合、レコードを承認および却下できます。
Process Rules	/vXX.X/process/rules/	すべての有効なワークフロールールを返します。ルールにアクションがある場合、アクションがルールの下にリストされます。指定したレコードに関連付けられたワークフロールールすべてをトリガするためにも使用できます。ルールのアクションは、ルール条件に一致した場合にのみ起動されます。
Query	/vXX.X/query/?q= soql	指定された SOQL クエリを実行します。
QueryAll	/vXX.X/queryAll/?q= soql	指定された SOQL クエリを実行します。結果には削除されたレコード、マージされたレコード、およびアーカイブ済みレコードが含まれる場合があります。
Quick Actions	/vXX.X/quickActions/	グローバルクイックアクションとその種別のリスト、および Chatter フィードに表示されるカスタム項目とオブジェクトを返します。
Recently Viewed Items	/vXX.X/recent	現在のユーザが表示または参照した、最近参照された項目を取得します。

リファレンス

リソース名	URI	説明
Relevant Items	<code>/vXX.X/subjects/relevantItems</code>	現在のユーザの最も関連性の高い項目を取得します。関連性の高い項目には、ユーザのグローバル検索範囲のオブジェクトや、最後に使用した (MRU) オブジェクトのレコードなどがあります。
Search	<code>/vXX.X/search/?q=sos1</code>	検索を実行します。
Search Scope and Order	<code>/vXX.X/search/scopeOrder</code>	ログインユーザのデフォルトのグローバル検索範囲内にあるオブジェクトの順序付きリストを返します。グローバル検索は、操作するオブジェクトとそれら进行操作する頻度を追跡し、それに基づいて検索結果を編成します。最もよく使用されるオブジェクトは、リストの最上部に表示されます。
Search Result Layouts	<code>/vXX.X/searchlayout/?q=カンマで区切られたオブジェクトのリスト</code>	クエリ文字列に含まれるオブジェクトの検索結果レイアウトに関する情報を返します。このコールでは、検索結果ページに列として表示される項目のリスト、最初のページに表示される行数、および検索結果ページで使用されるラベルがオブジェクトごとに返されます。
Search Suggested Article Title Matches	<code>/vXX.X/search/suggestTitleMatches?q=search string&language=article language&publishStatus=article publication status</code>	タイトルがユーザの検索クエリ文字列に一致した Salesforce ナレッジ記事のリストを返します。ユーザが検索を実行する前に、関連する可能性のある記事に直接移動するためのショートカットを提供します。
Search Suggested Queries	<code>vXX.X/search/suggestSearchQueries?q=検索文字列&language=クエリの言語</code>	他のユーザが Salesforce ナレッジで実行した検索に一致するユーザのクエリ文字列テキストに基づいて、提案する検索のリストを返します。ユーザが検索を実行する前に、検索の有効性を高める手段を提供します。
Tabs	<code>/vXX.X/tabs</code>	ユーザが [すべてのタブ] ([+]) タブカスタマイズ機能を使用してタブを非表示にしているかどうかに関係なく、ログインユーザが使用できるすべてのタブ (Lightning ページタブを含む) のリストを返します。

リソース名	URI	説明
Themes	/vXX.X/theme	Salesforce アプリケーションのテーマで使用するアイコンと色のリストを取得します。

複合リソース

リソース名	URI	説明
Batch	/vXX.X/composite/batch	1回の要求で最大25個のサブ要求を実行します。
SObject Tree	/vXX.X/composite/tree	指定されたタイプのルートレコードを持つ1つ以上の sObject ツリーを作成します。sObject ツリーは、同じルートレコードを持つネストされた親子レコードのコレクションです。

Versions

バージョン、表示ラベル、および各バージョンのルートへのリンクなど、現在使用可能な各 Salesforce バージョンの概要情報をリストします。

URI

/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

なし

パラメータ

なし

例

「[使用可能な REST API バージョンをリストする](#)」(ページ 37)を参照してください。

Resources by Version

リソース名および URI を含む、指定された API バージョンで使用可能なリソースをリストします。

URI

/vXX.X/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証Authorization: Bearer *token***パラメータ**

なし

例

「[使用可能な REST リソースをリストする](#)」(ページ 38)を参照してください。

Describe Global

組織のデータで使用可能なオブジェクトとそのメタデータをリストします。さらに、組織の文字コードとクエリで許可される最大バッチサイズを返します。文字コードについての詳細は、「[国際化と文字コード](#)」を参照してください。

If-Modified-Since ヘッダーは、このリソースでは `EEE, dd MMM yyyy HH:mm:ss z` という日付形式で使用できます。このヘッダーが使用される場合、指定の日付以降に使用可能なオブジェクトのメタデータが変更されていないと、レスポンスボディなしで `304 Not Modified` 状況コードが返されます。

URI`/vXX.X/subjects/`**形式**

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証Authorization: Bearer *token***パラメータ**

不要

例

「[オブジェクトのリストを取得する](#)」(ページ 39)を参照してください。

エラー応答

「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 186)を参照してください。

sObject Basic Information

指定されたオブジェクトの個別のメタデータを説明します。特定のオブジェクトの新規レコードの作成にも使用できます。たとえば、これは、GET メソッドを使用した Account オブジェクトのメタデータの取得や、POST メソッドを使用した新規 Account オブジェクトの作成に使用できます。

URI

/vXX.X/subjects/*sObjectName*/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、POST

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

不要

例

- オブジェクトのメタデータを取得する例は、「[オブジェクトのメタデータを取得する](#)」(ページ 41)を参照してください。
- POST を使用した新規レコードを作成する例は、「[レコードを作成する](#)」(ページ 45)を参照してください。
- レコードの blob データを指定して新規レコードを作成する例は、「[Blob データを挿入または更新する](#)」(ページ 53)を参照してください。

sObject Describe

指定されたオブジェクトのすべてのレベルで、個別のメタデータを完全に説明します。たとえば、これは、Account オブジェクトの項目、URL、および子リレーションを取得するために使用できます。

If-Modified-Since ヘッダーは、このリソースでは `EEE, dd MMM yyyy HH:mm:ss z` という日付形式で使用できます。このヘッダーが使用される場合、指定の日付以降にオブジェクトメタデータが変更されていないと、レスポンスボディなしで 304 Not Modified 状況コードが返されます。

URI

/vXX.X/subjects/*sObjectName*/describe/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

不要

例

「[オブジェクトの項目と他のメタデータを取得する](#)」(ページ 42)を参照してください。If-Modified-Since HTTP ヘッダーの使用例は、「[オブジェクトのメタデータの変更の取得](#)」(ページ 43)を参照してください。

sObject Get Deleted

指定されたオブジェクトについて、特定の期間内に削除された個々のレコードのリストを取得します。sObject Get Deleted は、API バージョン 29.0 以降で使用できます。

このリソースは、データ複製アプリケーションで一般的に使用されます。次の考慮事項に注意してください。

- 削除されたレコードは、このリソースからアクセス可能な削除ログに出力されます。2時間ごとに実行されるバックグラウンドプロセスは、削除ログのレコード数が制限を超えた場合、削除ログに書き込まれてから2時間以上経過したレコードを消去します。最も古いレコードから順に、削除ログが制限を下回るまで消去を行います。大量の削除ログによる Salesforce のパフォーマンス上の問題を防ぐためにこの処理を行います。
- 削除されたレコードに関する情報は、現在のセッションのユーザにそれらのレコードへのアクセス権がある場合にのみ返されます。
- コールが実行された日から 15 日以内の結果が返されます (管理者がごみ箱の中身を消去した場合、期間が短くなる場合があります)。

データ複製およびデータ複製の制限についての詳細は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』の「データ複製」を参照してください。

URI

/vXX.X/objects/**sObjectName**/deleted/?start=**startDateAndTime**&end=**endDateAndTime**

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

パラメータ	説明
start	データを取得する期間の開始日時 (ローカル時間ではなく協定世界時 (UTC))。API は、指定された dateTime 値の秒の値を切り捨てます (たとえば、12:30:15 は 12:30:00 UTC となります)。日時は、ISO 8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss+hh:mm) で指定する必要があります。start の日付/時間値は、end の値より過去の日時でなければなりません。このパラメータは URL 符号化されている必要があります。
end	データを取得する期間の終了日時 (ローカル時間ではなく協定世界時 (UTC))。API は、指定された dateTime 値の秒の値を切り捨てます (たとえば、12:35:15 は 12:35:00 UTC となります)。日時は、ISO 8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss+hh:mm) で指定する必要があります。このパラメータは URL 符号化されている必要があります。

応答形式

プロパティ	型	説明
deletedRecords	array	要求で指定された開始日と終了日を満たす削除されたレコードの配列。各エントリには、レコード ID と協定世界時 (UTC) タイムゾーンを使用した ISO 8601 形式でそのレコードが削除された日時が含まれています。
earliestDateAvailable	String	最後に物理的に削除されたオブジェクトの ISO 8601 形式のタイムスタンプ (ローカル時間ではなく協定世界時 (UTC) タイムゾーン)。
latestDateCovered	String	要求の対象となる最終日の ISO 8601 形式のタイムスタンプ (ローカル時間ではなく協定世界時 (UTC) タイムゾーン)。

例

削除された項目のリストを取得する例は、[「特定の期間に削除されたレコードのリストの取得」](#) (ページ 57)を参照してください。

sObject Get Updated

指定されたオブジェクトに対して指定された期間内に更新された (追加または変更された) 個別のレコードのリストを取得します。sObject Get Updated は、API バージョン 29.0 以降で使用できます。

このリソースは、データ複製アプリケーションで一般的に使用されます。次の考慮事項に注意してください。

- コールが実行された日から 30 日以内の結果が返されます。
- クライアントアプリケーションは、適切な権限が付与されている場合、任意のオブジェクトを複製できます。たとえば、組織のすべてのデータを複製するには、クライアントアプリケーションは指定されたオブジェクトの「すべてのデータの参照」アクセス権限を持ってログインしなければなりません。同様に、オブジェクトはそのユーザの共有ルールに含まれていなければなりません。
- このリソースから返される ID は、200,000 件までに制限されています。200,000 件以上の ID が返された場合、EXCEEDED_ID_LIMIT が返されます。開始日と終了日の期間を短くすることでこのエラーを回避できます。

データ複製およびデータ複製の制限についての詳細は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』の「データ複製」を参照してください。

URI

/vXX.X/subjects/**sObjectName**/updated/?start=**startDateAndTime**&end=**endDateAndTime**

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

パラメータ	説明
start	データを取得する期間の開始日時 (ローカル時間ではなく協定世界時 (UTC))。API は、指定された <code>dateTime</code> 値の秒の値を切り捨てます (たとえば、12:30:15 は 12:30:00 UTC となります)。日時は、ISO 8601 形式 (<code>YYYY-MM-DDThh:mm:ss+hh:mm</code>) で指定する必要があります。start の日付/時間値は、end の値より過去の日時でなければなりません。このパラメータは URL 符号化されている必要があります。
end	データを取得する期間の終了日時 (ローカル時間ではなく協定世界時 (UTC))。API は、指定された <code>dateTime</code> 値の秒の値を切り捨てます (たとえば、12:35:15 は 12:35:00 UTC となります)。日時は、ISO 8601 形式 (<code>YYYY-MM-DDThh:mm:ss+hh:mm</code>) で指定する必要があります。このパラメータは URL 符号化されている必要があります。

応答形式

プロパティ	型	説明
ids	array	要求で指定された開始日と終了日を満たす更新されたレコードの配列。各エントリにはレコード ID が含まれます。
latestDateCovered	String	要求の対象となる最終日の ISO 8601 形式のタイムスタンプ (ローカル時間ではなく協定世界時 (UTC) タイムゾーン)。

例

更新された項目のリストを取得する例は、「[特定の期間に更新されたレコードのリストの取得](#)」(ページ 57)を参照してください。

SObject Named Layouts

特定のオブジェクトの代替名前付きレイアウトに関する情報を取得します。

構文

URI

`/vXX.X/subjects/Object/describe/namedLayouts/layoutName`

適用開始バージョン

31.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

None

例

/services/data/v31.0/sobjects/User/describe/namedLayouts/UserAlt

この例では、User の「UserAlt」名前付きレイアウトに関する情報を取得します。

使用方法

このリソースを使用して、特定のオブジェクトの名前付きレイアウトに関する情報を取得します。有効な名前付きレイアウト名をリソース URI の一部として指定する必要があります。

特定のオブジェクトの名前付きレイアウトのリストを取得するには、[SObject Describe](#) リソースを使用し、レスポンスボディで「namedLayoutInfos」項目を見つけます。

sObject Rows

指定されたオブジェクト ID に基づいてレコードにアクセスします。レコードを取得、更新、または削除します。このリソースは、項目値の取得にも使用できます。レコードまたは項目を取得するには GET メソッド、レコードを削除するには DELETE メソッド、レコードを更新するには PATCH メソッドを使用します。

新規レコードを作成するには、[sObject Basic Information](#) リソースを使用します。

URI

/vXX.X/sobjects/**sObjectName**/**id**/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、PATCH、DELETE

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

パラメータ	説明
fields	値を返すために使用される項目のリスト (省略可能)

使用方法

このリソースは API バージョン 32.0 以降で外部オブジェクトに使用できます。

- データが大量ではない外部データソースに関連付けられた外部オブジェクトは、`id` に 18 文字の Salesforce ID を使用します。それ以外の外部オブジェクトは、`id` に外部オブジェクトの外部 ID 標準項目を使用します。


例

- GET を使用して項目値を取得する例については、下記を参照してください。
 - 標準オブジェクトレコードから項目値を取得する (ページ 47)
 - 外部 ID 標準項目を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する (ページ 48)
 - Salesforce ID を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する (ページ 47)
- PATCH を使用してレコードを更新する例は、「レコードを更新する」 (ページ 45) を参照してください。
- DELETE を使用してレコードを削除する例は、「レコードを削除する」 (ページ 46) を参照してください。
- オブジェクトの blob データを更新する例は、「Blob データを挿入または更新する」 (ページ 53) を参照してください。

sObject Rows by External ID

指定された外部 ID 項目の値に基づいて、新しいレコードを作成するか、既存のレコードを更新 (レコードを Upsert) します。

- 指定された値が存在しない場合、新しいレコードが作成されます。
- 指定された値のレコードが存在する場合、リクエストボディに指定された項目値が更新されます。
- 値が一意でない場合、REST API によって、一致するレコードのリストと共に HTTP 状況コード 300 が返されます。

 **メモ:** リクエストボディに ID または外部 ID 項目を指定してはいけません。指定すると、エラーが発生します。

URI

`/vXX.X/subjects/sObjectName/fieldName/fieldValue`

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD、GET、PATCH、DELETE

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし

例

- 外部 ID に基づいてレコードを取得する例は、「外部 ID を使用してレコードを取得する」 (ページ 48) を参照してください。
- 外部 ID に基づいてレコードを作成および更新する例は、「外部 ID を使用してレコードを挿入/更新 (Upsert) する」 (ページ 49) を参照してください。

sObject Blob Retrieve

個別のレコードから指定された blob 項目を取得します。

URI

`/vXX.X/subjects/sObjectName/id/blobField`

形式

blob 項目にはバイナリデータが含まれるため、このデータの取得に JSON または XML を使用することはできません。

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

不要

例

Attachment または Document から blob データを取得する例は、「[レコードから添付ファイルコンテンツを取得する](#)」(ページ 52)を参照してください。

エラー応答

「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 186)を参照してください。

sObject ApprovalLayouts

指定されたオブジェクトの承認レイアウトのリストを返します。返される値を1つの特定の承認レイアウトに制限するには、特定の承認プロセス名を指定します。このリソースは REST API バージョン 30.0 以降で使用できます。

構文

URI

指定されたオブジェクトの承認レイアウトの説明を取得するには、`/vXX.X/subjects/sObjectName/describe/approvalLayouts/` を使用します。

特定の承認プロセスの承認レイアウトの説明を取得するには

は、`/vXX.X/subjects/sObjectName/describe/approvalLayouts/approvalProcessName` を使用します。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD, GET

認証

Authorization: Bearer **token**

要求パラメータ

不要

例

sObject のすべての承認レイアウトを取得する。

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/subjects/Account/describe/approvalLayouts/
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "approvalLayouts" : [ {
    "id" : "04aD00000008Py9IAE",
    "label" : "MyApprovalProcessName",
    "layoutItems" : [...],
    "name" : "MyApprovalProcessName"
  }, {
    "id" : "04aD00000008Q0KIAU",
    "label" : "Process1",
    "layoutItems" : [...],
    "name" : "Process1"
  } ]
}
```

オブジェクトの承認レイアウトを定義していない場合は、応答が {"approvalLayouts" : []} になります。

特定の承認プロセスの承認レイアウトを取得する。

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/subjects/Account/describe/approvalLayouts/MyApprovalProcessName
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "approvalLayouts" : [ {
    "id" : "04aD00000008Py9IAE",
    "label" : "MyApprovalProcessName",
    "layoutItems" : [...],
    "name" : "MyApprovalProcessName"
  } ]
}
```

sObject CompactLayouts

特定のオブジェクトのコンパクトレイアウトのリストを返します。このリソースは REST API バージョン 29.0 以降で使用できます。

構文

URI

特定のオブジェクトのコンパクトレイアウトの説明について

は、`/vXX.X/objects/Object/describe/compactLayouts/` を使用します。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD, GET

認証

Authorization: Bearer **token**

要求パラメータ

不要

例

コンパクトレイアウトの取得

```
/services/data/v29.0/objects/Account/describe/compactLayouts
```

JSON レスポンスボディの例

このサンプルのJSON応答は、Accountオブジェクトに対して作成されたコンパクトレイアウト用です。この例では、Accountに対してカスタムコンパクトレイアウトが1つのみ作成されます。カスタムコンパクトレイアウトは、オブジェクトの主コンパクトレイアウトとして割り当てられ、「取引先名」と「電話」の2つの項目が含まれます。

```
{
  "compactLayouts" : [ {
    "actions" : [ {
      "custom" : false,
      "icons" : null,
      "label" : "Call",
      "name" : "CallHighlightAction"
    }, {
      "custom" : false,
      "icons" : null,
      "label" : "Send Email",
      "name" : "EmailHighlightAction"
    }, {
      "custom" : false,
      "icons" : null,
      "label" : "Map",
      "name" : "MapHighlightAction"
    }, {
      "custom" : false,
      "icons" : null,
      "label" : "Read News",
      "name" : "NewsHighlightAction"
    }
  ]
}
```

```
    }, {
      "custom" : false,
      "icons" : null,
      "label" : "View Website",
      "name" : "WebsiteHighlightAction"
    } ],
    "fieldItems" : [ {
      "editable" : false,
      "label" : "Account Name",
      "layoutComponents" : [ {
        "components" : [ ],
        "details" : {
          "autoNumber" : false,
          "byteLength" : 765,
          "calculated" : false,
          "calculatedFormula" : null,
          "cascadeDelete" : false,
          "caseSensitive" : false,
          "controllerName" : null,
          "createable" : true,
          "custom" : false,
          "defaultValue" : null,
          "defaultValueFormula" : null,
          "defaultedOnCreate" : false,
          "dependentPicklist" : false,
          "deprecatedAndHidden" : false,
          "digits" : 0,
          "displayLocationInDecimal" : false,
          "externalId" : false,
          "extraTypeInfo" : null,
          "filterable" : true,
          "groupable" : true,
          "htmlFormatted" : false,
          "idLookup" : false,
          "inlineHelpText" : null,
          "label" : "Account Name",
          "length" : 255,
          "mask" : null,
          "maskType" : null,
          "name" : "Name",
          "nameField" : true,
          "namePointing" : false,
          "nillable" : false,
          "permissionable" : false,
          "picklistValues" : [ ],
          "precision" : 0,
          "queryByDistance" : false,
          "referenceTo" : [ ],
          "relationshipName" : null,
          "relationshipOrder" : null,
          "restrictedDelete" : false,
          "restrictedPicklist" : false,
          "scale" : 0,
          "soapType" : "xsd:string",
```

```

        "sortable" : true,
        "type" : "string",
        "unique" : false,
        "updateable" : true,
        "writeRequiresMasterRead" : false
    },
    "displayLines" : 1,
    "tabOrder" : 2,
    "type" : "Field",
    "value" : "Name"
} ],
"placeholder" : false,
"required" : false
}, {
    "editable" : false,
    "label" : "Phone",
    "layoutComponents" : [ {
        "components" : [ ],
        "details" : {
            "autoNumber" : false,
            "byteLength" : 120,
            "calculated" : false,
            "calculatedFormula" : null,
            "cascadeDelete" : false,
            "caseSensitive" : false,
            "controllerName" : null,
            "createable" : true,
            "custom" : false,
            "defaultValue" : null,
            "defaultValueFormula" : null,
            "defaultedOnCreate" : false,
            "dependentPicklist" : false,
            "deprecatedAndHidden" : false,
            "digits" : 0,
            "displayLocationInDecimal" : false,
            "externalId" : false,
            "extraTypeInfo" : null,
            "filterable" : true,
            "groupable" : true,
            "htmlFormatted" : false,
            "idLookup" : false,
            "inlineHelpText" : null,
            "label" : "Account Phone",
            "length" : 40,
            "mask" : null,
            "maskType" : null,
            "name" : "Phone",
            "nameField" : false,
            "namePointing" : false,
            "nillable" : true,
            "permissionable" : true,
            "picklistValues" : [ ],
            "precision" : 0,
            "queryByDistance" : false,

```



```

        "referenceTo" : [ ],
        "relationshipName" : null,
        "relationshipOrder" : null,
        "restrictedDelete" : false,
        "restrictedPicklist" : false,
        "scale" : 0,
        "soapType" : "xsd:string",
        "sortable" : true,
        "type" : "phone",
        "unique" : false,
        "updateable" : true,
        "writeRequiresMasterRead" : false
    },
    "displayLines" : 1,
    "tabOrder" : 3,
    "type" : "Field",
    "value" : "Phone"
} ],
"placeholder" : false,
"required" : false
} ],
"id" : "0AHD0000000000AbOAI",
"imageItems" : [ {
    "editable" : false,
    "label" : "Photo URL",
    "layoutComponents" : [ {
        "components" : [ ],
        "details" : {
            "autoNumber" : false,
            "byteLength" : 765,
            "calculated" : false,
            "calculatedFormula" : null,
            "cascadeDelete" : false,
            "caseSensitive" : false,
            "controllerName" : null,
            "createable" : false,
            "custom" : false,
            "defaultValue" : null,
            "defaultValueFormula" : null,
            "defaultedOnCreate" : false,
            "dependentPicklist" : false,
            "deprecatedAndHidden" : false,
            "digits" : 0,
            "displayLocationInDecimal" : false,
            "externalId" : false,
            "extraTypeInfo" : "imageurl",
            "filterable" : true,
            "groupable" : true,
            "htmlFormatted" : false,
            "idLookup" : false,
            "inlineHelpText" : null,
            "label" : "Photo URL",
            "length" : 255,
            "mask" : null,

```

```

        "maskType" : null,
        "name" : "PhotoUrl",
        "nameField" : false,
        "namePointing" : false,
        "nillable" : true,
        "permissionable" : false,
        "picklistValues" : [ ],
        "precision" : 0,
        "queryByDistance" : false,
        "referenceTo" : [ ],
        "relationshipName" : null,
        "relationshipOrder" : null,
        "restrictedDelete" : false,
        "restrictedPicklist" : false,
        "scale" : 0,
        "soapType" :
        "xsd:string",
        "sortable" : true,
        "type" : "url",
        "unique" : false,
        "updateable" : false,
        "writeRequiresMasterRead" : false
    },
    "displayLines" : 1,
    "tabOrder" : 1,
    "type" : "Field",
    "value" : "PhotoUrl"
} ],
"placeholder" : false,
"required" : false
} ],
"label" : "Custom Account Compact Layout",
"name" : "Custom_Account_Compact_Layout"
} ],
"defaultCompactLayoutId" : "0AHD000000000AboAI",
"recordTypeCompactLayoutMappings" : [ {
    "available" : true,
    "compactLayoutId" : "0AHD000000000AboAI",
    "compactLayoutName" : "Custom_Account_Compact_Layout",
    "recordTypeId" : "0120000000000000AAA",
    "recordTypeName" : "Master",
    "urls" : {
        "compactLayout" :
"/services/data/v31.0/subjects/Account/describe/compactLayouts/0120000000000000AAA"
    }
} ],
"urls" : {
    "primary" : "/services/data/v31.0/subjects/Account/describe/compactLayouts/primary"
}
}
}

```

オブジェクトのコンパクトレイアウトを定義していない場合は、compactLayoutId が Null として返されます。

Describe Layouts

レイアウトおよび説明のリストを返します。項目のリストおよびレイアウト名が返されます。

URI

グローバルパブリッシャーレイアウトの説明を返すための URI
は、`/vXX.X/subjects/Global/describe/layouts/` です。

特定のオブジェクトのレイアウトの説明については、`/vXX.X/subjects/Object/describe/layouts/`
を使用します。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD, GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

不要

グローバルパブリッシャーレイアウトの取得例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v35.0/subjects/Global/describe/layouts/  
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディ `contactlayout.json` ファイルの例

```
[ { "name" : "contactlayout",  
  "searchColumns" : [ { "field" : "Account.Name",  
    "format" : null,  
    "label" : "Account Name",  
    "name" : "Name"  
  },  
  { "field" : "Account.Site",  
    "format" : null,  
    "label" : "Account Site",  
    "name" : "Site"  
  },  
  { "field" : "Account.Phone",  
    "format" : null,  
    "label" : "Phone",  
    "name" : "Phone"  
  },  
  { "field" : "User.Alias",  
    "format" : null,  
    "label" : "Account Owner Alias",  
    "name" : "Owner.Alias"  
  }  
],  
  { "label" : "Search Results",  
    "limitRows" : 25,  
  }
```

```
"searchColumns" : [ { "field" : "Contact.Name",
    "format" : null,
    "label" : "Name",
    "name" : "Name"
  },
  { "field" : "Account.Name",
    "format" : null,
    "label" : "Account Name",
    "name" : "Account.Name"
  },
  { "field" : "Account.Site",
    "format" : null,
    "label" : "Account Site",
    "name" : "Account.Site"
  },
  { "field" : "Contact.Phone",
    "format" : null,
    "label" : "Phone",
    "name" : "Phone"
  },
  { "field" : "Contact.Email",
    "format" : null,
    "label" : "Email",
    "name" : "Email"
  },
  { "field" : "User.Alias",
    "format" : null,
    "label" : "Contact Owner Alias",
    "name" : "Owner.Alias"
  }
]
},
{ "label" : "Search Results",
  "limitRows" : 25,
  "searchColumns" : [ { "field" : "Lead.Name",
    "format" : null,
    "label" : "Name",
    "name" : "Name"
  },
  { "field" : "Lead.Title",
    "format" : null,
    "label" : "Title",
    "name" : "Title"
  },
  { "field" : "Lead.Phone",
    "format" : null,
    "label" : "Phone",
    "name" : "Phone"
  },
  { "field" : "Lead.Company",
    "format" : null,
    "label" : "Company",
    "name" : "Company"
  }
],
```

```
{
  { "field" : "Lead.Email",
    "format" : null,
    "label" : "Email",
    "name" : "Email"
  },
  { "field" : "Lead.Status",
    "format" : null,
    "label" : "Lead Status",
    "name" : "toLabel(Status)"
  },
  { "field" : "Name.Alias",
    "format" : null,
    "label" : "Owner Alias",
    "name" : "Owner.Alias"
  }
},
]
```

SObject PlatformAction

PlatformAction は、参照のみの仮想オブジェクトです。ユーザ、コンテキスト、デバイス形式、レコードIDに応じて、UIに表示するアクション(標準およびカスタムボタン、クイックアクション、生産性アクションなど)をクエリできるようにします。

PlatformAction の説明を返します。

構文

URI

/services/data/vXX.X/objects/PlatformAction を使用します。

適用開始バージョン

このリソースは API バージョン 33.0 以降で使用できます。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer *token*

リクエストボディ

なし。

使用方法

このリソースで可能な操作は [クエリ](#) のみです。

sObject Quick Actions

アクションとその詳細のリストを返します。このリソースは REST API バージョン 28.0 以降で使用できます。アクションを使用する場合は、「[Quick Actions](#)」も参照してください。

URI

グローバルアクションだけでなく特定のオブジェクトのアクションを返すには、`/vXX.X/subjects/object/quickActions/` を使用します。

特定のアクションを返すには、`/vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}` を使用します。

特定のアクションの説明の詳細を返すには、`/vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}/describe/` を使用します。

デフォルトの項目値を含め、特定のアクションのデフォルト値を返すには、`services/data/vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}/defaultValues/` を使用します。

API バージョン 28.0 で、アクションのデフォルト値を評価するには、`vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}/defaultValues/{親 ID}` を使用します。

API バージョン 29.0 以降で、アクションのデフォルト値を評価するには、`vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}/defaultValues/{コンテキスト ID}` を使用します。

これは、`{コンテキスト ID}` オブジェクトに固有のデフォルト値を返します。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD、GET、POST

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

不要

取引先アクションを取得する場合の例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v28.0/subjects/Account/quickActions -H
"Authorization: Bearer token"
```

アクションを使用して取引先で取引先責任者を作成する場合の例

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v28.0/subjects/Account/quickActions/CreateContact
-H 'Authorization: Bearer access_token -H "Content-Type: application/json" -d
@newcontact.json'
```

JSON リクエストボディ newcontact.json ファイルの例

```
{
```

```
{
  "contextId" : "001D000000JRSgF",
  "record" : { "LastName" : "Smith" }
}
```

考慮事項

- リソースからは、要求したアクションに加え、すべてのアクション(グローバルおよび標準)が返されます。

sObject Suggested Articles for Case

ケースについて提案する Salesforce ナレッジの記事のリストを返します。

構文

URI

作成中のケース(つまり、ケースタイトル、説明、他の情報は入力されていても、ケースの保存とIDの割り当てがまだ行われていないケース)の推奨記事を返すには、

`vXX.X/subjects/Case/suggestedArticles?language=記事の言語&subject=ケースの件名`
`&description=ケースの説明` を使用します。

ID が存在する既存のケースの推奨記事を返すには、

`vXX.X/subjects/Case/ID/suggestedArticles?language=記事の言語` を使用します。

適用開始バージョン

30.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

不要

要求パラメータ

パラメータ	説明
<code>articleTypes</code>	省略可能。目的の記事タイプを示す3文字のIDプレフィックス。値ごとにパラメータ名を繰り返すことで、1回のRESTコールでこのパラメータに複数の値を指定できます。たとえば、 <code>articleTypes=ka0&articleTypes=ka1</code> です。
<code>categoryIds</code>	省略可能。目的のデータカテゴリのID。値ごとにパラメータ名を繰り返すことで、1回のRESTコールでこのパラメータに複数の値を指定できます。たとえば、

パラメータ	説明
	categoryIds=02nx0000000GpZ8&categoryIds=02oRR0000004MNj です。
description	ケースの説明のテキスト。 vXX.X/subjects/Case/suggestedArticles?language=記事の言語&subject=ケースの件名&description=ケースの説明にのみ有効で、subject が null の場合は必須です。記事の推奨は、ケースの件名、説明、またはその両方に基づいて行われます。
language	必須。記事が作成されている言語。
limit	省略可能。返される推奨記事の最大数を指定します。
publishStatus	省略可能。記事の公開状況。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Draft – 非公開 • Online – Salesforce ナレッジに公開 • Archived
subject	ケースの件名のテキスト。 vXX.X/subjects/Case/suggestedArticles?language=記事の言語&subject=ケースの件名&description=ケースの説明にのみ有効で、description が null の場合は必須です。記事の推奨は、ケースの件名、説明、またはその両方に基づいて行われます。
validationStatus	省略可能。返される記事の検証状況。

作成中のケースの推奨記事を取得する場合の例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/subjects/Case/suggestedArticles?
language=en_US&subject=orange+banana&articleTypes=ka0&articleTypes=ka1
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "attributes" : {
    "type" : "KnowledgeArticleVersion",
    "url" : "/services/data/v30.0/subjects/KnowledgeArticleVersion/ka0D00000004CcQ"
  }, {
    "Id" : "ka0D00000004CcQ"
  }, {
    "attributes" : {
      "type" : "KnowledgeArticleVersion",
      "url" : "/services/data/v30.0/subjects/KnowledgeArticleVersion/ka0D00000004CXo"
    }, {
      "Id" : "ka0D00000004CXo"
    }
  } ]
```


使用方法

Salesforce ナレッジが組織で有効になっている必要があります。ユーザの「記事の参照」権限が有効化されている必要があります。ユーザが参照する権限を持つデータカテゴリおよび記事タイプに基づいて、ユーザがアクセスできる記事のみが推奨記事に含まれます。

記事は、関連アルゴリズムに基づいて推奨されます。suggestedArticles リソースは、ケースに關係する記事の ID を取得するように設計されています。表示用の記事データを取得するために ID を使用する他のサービスと併用することを目的としています。

sObject User Password

ユーザパスワードを設定またはリセットしたり、ユーザパスワードに関する情報を取得したりします。このリソースは REST API バージョン 24.0 以降で使用できます。

URI

`/vXX.X/subjects/User/ユーザ ID/password`

セルフサービスユーザのパスワードを管理する場合、URI は次のとおりです。

`/vXX.X/subjects/SelfServiceUser/セルフサービスユーザ ID/password`

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD、GET、POST、DELETE

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

不要

例

パスワード情報の取得、パスワードの設定、パスワードのリセットの例は、[「ユーザパスワードを管理する」](#) (ページ 72)を参照してください。

考慮事項

- セッションにユーザ情報にアクセスする権限がない場合、INSUFFICIENT_ACCESS エラーが返されます。
- このリソースを使用して新しいパスワードを設定する場合、新しいパスワードは、組織のパスワードポリシーに適合している必要があります。適合していない場合は、INVALID_NEW_PASSWORD エラー応答が返されます。
- 1つの要求で設定可能なパスワードは1つのみです。
- このリソースのDELETE メソッドを使用する場合、Salesforce は、ユーザパスワードを自動生成されたパスワードにリセットし、応答で返します。

AppMenu

Salesforce アプリケーションドロップダウンメニューまたは Salesforce1 ナビゲーションメニューの項目のリストを返します。

構文

URI

Salesforce アプリケーションドロップダウンメニュー項目のリストを返すには、URI に `/vXX.X/appMenu/AppSwitcher/` を使用します。

Salesforce1 ナビゲーションメニュー項目のリストを返すには、URI に `/vXX.X/appMenu/Salesforce1/` を使用します。

適用開始バージョン

29.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、HEAD

認証

Authorization: Bearer *token*

リクエストボディ

None

要求パラメータ

不要

例

appMenu の種別の取得

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v29.0/appMenu/ -H "Authorization: Bearer token"
```

`/vXX.X/appMenu/AppSwitcher/` のレスポンスボディの例

```
{
  "appMenuItems" : [ {
    "type" : "Tabset",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Sales",
    "url" : "/home/home.jsp?tsid=02uxx00000056Sq"
  }, {
    "type" : "Tabset",
    "content" : null,
    "icons" : null,
```

```

    "colors" : null,
    "label" : "Call Center",
    "url" : "/home/home.jsp?tsid=02uxx00000056Sr"
  }, {
    "type" : "Tabset",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Marketing",
    "url" : "/home/home.jsp?tsid=02uxx00000056St"
  }, {
    "type" : "Tabset",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Salesforce Chatter",
    "url" : "/home/home.jsp?tsid=02uxx00000056Su"
  }, {
    "type" : "Tabset",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Community",
    "url" : "/home/home.jsp?tsid=02uxx00000056Sw"
  }, {
    "type" : "Tabset",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "App Launcher",
    "url" : "/app/mgmt/applauncher/appLauncher.apexp?tsid=02uxx00000056Sx"
  } ]
}

```

/vXX.X/appMenu/Salesforce1/ のレスポンスボディの例

```

{
  "appMenuItems" : [ {
    "type" : "Standard.Search",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Smart Search Items",
    "url" : "/search"
  }, {
    "type" : "Standard.MyDay",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Today",
    "url" : "/myDay"
  }, {
    "type" : "Standard.Tasks",
    "content" : null,
    "icons" : null,

```

```

    "colors" : null,
    "label" : "Tasks",
    "url" : "/tasks"
  }, {
    "type" : "Standard.Dashboards",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Dashboards",
    "url" : "/dashboards"
  }, {
    "type" : "Tab.flexiPage",
    "content" : "MySampleFlexiPage",
    "icons" : [ {
      "contentType" : "image/png",
      "width" : 32,
      "height" : 32,
      "theme" : "theme3",
      "url" : "http://myorg.com/img/icon/custom51_100/bell132.png"
    }, {
      "contentType" : "image/png",
      "width" : 16,
      "height" : 16,
      "theme" : "theme3",
      "url" : "http://myorg.com/img/icon/custom51_100/bell116.png"
    }, {
      "contentType" : "image/svg+xml",
      "width" : 0,
      "height" : 0,
      "theme" : "theme4",
      "url" : "http://myorg.com/img/icon/t4/custom/custom53.svg"
    }, {
      "contentType" : "image/png",
      "width" : 60,
      "height" : 60,
      "theme" : "theme4",
      "url" : "http://myorg.com/img/icon/t4/custom/custom53_60.png"
    }, {
      "contentType" : "image/png",
      "width" : 120,
      "height" : 120,
      "theme" : "theme4",
      "url" : "http://myorg.com/img/icon/t4/custom/custom53_120.png"
    } ],
    "colors" : [ {
      "context" : "primary",
      "color" : "FC4F59",
      "theme" : "theme4"
    }, {
      "context" : "primary",
      "color" : "FC4F59",
      "theme" : "theme3"
    } ],
    "label" : "My App Home Page",

```

```


    "url" : "/servlet/servlet.Integration?lid=01rxx0000000Vsd&ic=1"
  }, {
    "type" : "Tab.apexPage",
    "content" : "/apex/myapexpage",
    "icons" : [ {
      "contentType" : "image/png",
      "width" : 32,
      "height" : 32,
      "theme" : "theme3",
      "url" : "http://myorg.com/img/icon/cash32.png"
    }, {
      "contentType" : "image/png",
      "width" : 16,
      "height" : 16,
      "theme" : "theme3",
      "url" : "http://myorg.com/img/icon/cash16.png"
    }, {
      "contentType" : "image/svg+xml",
      "width" : 0,
      "height" : 0,
      "theme" : "theme4",
      "url" : "http://myorg.com/img/icon/t4/custom/custom41.svg"
    }, {
      "contentType" : "image/png",
      "width" : 60,
      "height" : 60,
      "theme" : "theme4",
      "url" : "http://myorg.com/img/icon/t4/custom/custom41_60.png"
    }, {
      "contentType" : "image/png",
      "width" : 120,
      "height" : 120,
      "theme" : "theme4",
      "url" : "http://myorg.com/img/icon/t4/custom/custom41_120.png"
    } ],
    "colors" : [ {
      "context" : "primary",
      "color" : "3D8D8D",
      "theme" : "theme4"
    }, {
      "context" : "primary",
      "color" : "3D8D8D",
      "theme" : "theme3"
    } ],
    "label" : "label",
    "url" : "/servlet/servlet.Integration?lid=01rxx0000000Vyb&ic=1"
  } ]
}

```

Compact Layouts

複数のオブジェクトのCompact Layoutsのリストを返します。このリソースは REST API バージョン 31.0 以降で使用できます。

このリソースは、オブジェクトのセットの主Compact Layoutsを返します。オブジェクトのセットは、クエリパラメータを使用して指定します。一度に最大 100 個のオブジェクトをクエリできます。

 **メモ:** 一括クエリでは、PersonAccount はサポートされていません。PersonAccount の主Compact Layoutsを取得する場合は、`/services/data/v31.0/subjects/Account/describe/compactLayouts/primaryPersonAccount` から直接取得します。

構文

URI

`/vXX.X/compactLayouts?q=オブジェクトリスト`

適用開始バージョン

31.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

要求パラメータ

パラメータ	説明
q	オブジェクトのカンマ区切りリスト。このリソースの応答で、このリスト内の各オブジェクトの主Compact Layoutsが返されます。

例

複数のオブジェクトのCompact Layoutsの取得を要求します。

```
/services/data/v31.0/compactLayouts?q=Account,Contact,CustomObj__c
```

複数のオブジェクトのCompact Layoutsの応答

```
{
  "Account" : {
    "actions" : [ {
      "behavior" : null,
      "content" : null,
      "contentSource" : null,
```

```

        "custom" : false,
        "encoding" : null,
        "height" : null,
        "icons" : null,
        "label" : "Call",
        "menubar" : false,
        "name" : "CallHighlightAction",
        "overridden" : false,
        "resizeable" : false,
        "scrollbars" : false,
        "showsLocation" : false,
        "showsStatus" : false,
        "toolbar" : false,
        "url" : null,
        "width" : null,
        "windowPosition" : null
    },
    ...
    "id" : "0AHD000000000AbOAI",
    "label" : "Custom Account Compact Layout",
    "name" : "Custom_Account_Compact_Layout"
},
"Contact" : {
    "actions" : [ {
        "behavior" : null,
        "content" : null,
        "contentSource" : null,
        "custom" : false,
        "encoding" : null,
        "height" : null,
        "icons" : null,
        "label" : "Call",
        "menubar" : false,
        "name" : "CallHighlightAction",
        "overridden" : false,
        "resizeable" : false,
        "scrollbars" : false,
        "showsLocation" : false,
        "showsStatus" : false,
        "toolbar" : false,
        "url" : null,
        "width" : null,
        "windowPosition" : null
    },
    ...
    "id" : null,
    "label" : "System Default",
    "name" : "SYSTEM"
}
"CustomObj__c" : {
    "actions" : [ {
        "behavior" : null,
        "content" : null,
        "contentSource" : null,

```


```

        "custom" : false,
        "encoding" : null,
        "height" : null,
        "icons" : null,
        "label" : "Call",
        "menubar" : false,
        "name" : "CallHighlightAction",
        "overridden" : false,
        "resizeable" : false,
        "scrollbars" : false,
        "showsLocation" : false,
        "showsStatus" : false,
        "toolbar" : false,
        "url" : null,
        "width" : null,
        "windowPosition" : null
    },
    ...
    "id" : null,
    "imageItems" : null,
    "label" : "System Default",
    "name" : "SYSTEM"
}
}

```

FlexiPage

Lightning ページとその詳細のリストを返します。返される情報には、Lightning ページの範囲、各範囲内のコンポーネント、各コンポーネントのプロパティ、および関連付けられた QuickActions が含まれます。このリソースは API バージョン 29.0 以降で使用できます。

 **メモ:** これらのアプリケーションページは、API では FlexiPage と呼ばれますが、残りの Salesforce ドキュメントおよび UI では Lightning ページと呼ばれます。

構文

URI

Lightning ページの詳細をすべて返すには、`/vXX.X/flexiPage/Lightning ページの ID`を使用します。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD, GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

不要

例

ルート Lightning ページリソースの取得

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v29.0/flexiPage/ -H "Authorization: Bearer token"
```

名前が Deliveries である Lightning ページの取得

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v29.0/flexiPage/Deliveries -H "Authorization: Bearer token"
```

/vXX.X/flexiPage/ のリクエストボディの例

不要

/vXX.X/flexiPage/ のレスポンスボディの例

```
{
  "urls" : {
    "flexiPage" : "/services/data/v29.0/flexiPage",
    "rowTemplate" : "/services/data/v29.0/flexiPage/{Developer Name of FlexiPage}"
  }
}
```

/vXX.X/flexiPage/{Developer Name of FlexiPage} のリクエストボディの例

不要

/vXX.X/flexiPage/{Developer Name of FlexiPage} のレスポンスボディの例

 **メモ:** このコード例には、quickActionList 情報が含まれています。REST API でのクイックアクションについての詳細は、「[Quick Actions](#)」および「[sObject Quick Actions](#)」を参照してください。

```
[ {
  "id" : "0M0xx0000000049CAA",
  "name" : "Deliveries",
  "label" : "Deliveries",
  "type" : "AppPage",
  "regions" : [ {
    "name" : "main",
    "components" : [ {
      "properties" : [ {
        "name" : "filterName",
        "value" : "Todays_Deliveries"
      }, {
        "name" : "entityName",
        "value" : "Delivery__c"
      } ],
      "typeName" : "filterListCard",
      "typeNamespace" : "flexipage"
    }, {
      "properties" : [ {
        "name" : "entityNames",
        "value" : "Delivery__c,Return_Item__c"
      } ],
      "typeName" : "recentItems",
      "typeNamespace" : "flexipage"
    }
  ]
}
```

```

    } ]
  } ],
  "quickActionList" : {
    "quickActionListItems" : [ {
      "quickActionName" : "New_Delivery",
      "type" : "Create",
      "colors" : [ {
        "color" : "e1be5c",
        "theme" : "theme4",
        "context" : "primary"
      }, {
        "color" : "AA8E0A",
        "theme" : "theme3",
        "context" : "primary"
      } ],
      "accessLevelRequired" : null,
      "globalAction" : true,
      "miniIconUrl" :
"http://{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}/img/icon/custom51_100/truck16.png",
      "label" : "New Delivery",
      "urls" : {
        "defaultValuesTemplate" :
"/services/data/v29.0/quickActions/New_Delivery/defaultValues/{ID}",
        "quickAction" : "/services/data/v29.0/quickActions/New_Delivery",
        "defaultValues" : "/services/data/v29.0/quickActions/New_Delivery/defaultValues",

        "describe" : "/services/data/v29.0/quickActions/New_Delivery/describe"
      },
      "targetSobjectType" : "Delivery__c",
      "iconUrl" :
"http://{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}/img/icon/custom51_100/truck32.png",
      "icons" : [ {
        "url" : "http://{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}/img/icon/custom51_100/truck32.png",

        "contentType" : "image/png",
        "theme" : "theme3",
        "height" : 32,
        "width" : 32
      }, {
        "url" : "http://{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}/img/icon/custom51_100/truck16.png",

        "contentType" : "image/png",
        "theme" : "theme3",
        "height" : 16,
        "width" : 16
      }, {
        "url" : "http://{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}/img/icon/t4/custom/custom98.svg",

        "contentType" : "image/svg+xml",
        "theme" : "theme4",
        "height" : 0,
        "width" : 0
      }, {
        "url" : "http://{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}/img/icon/t4/custom/custom98_60.png",

```

```
        "contentType" : "image/png",
        "theme" : "theme4",
        "height" : 60,
        "width" : 60
      }, {
        "url" :
        "http://{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}/img/icon/t4/custom/custom98_120.png",
        "contentType" : "image/png",
        "theme" : "theme4",
        "height" : 120,
        "width" : 120
      } ]
    } ]
  } ]
}
```

このサンプルコードの内容は次のとおりです。

- name — 範囲の名前
- components — 範囲内の Lightning コンポーネントの配列
- properties — コンポーネントのプロパティの配列
- typeName — Lightning コンポーネントの名前
- typeNameSpace — Lightning コンポーネントの名前空間

Invocable Actions

呼び出し可能なアクションを表します。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

構文

URI

カスタムアクションのリストを取得する場合:

/vXX.X/actions

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし

例

現在の組織の一般的なアクション種別のリストの取得

```
/services/data/v32.0/actions
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "standard" : "/services/data/v32.0/actions/standard"
  "custom" : "/services/data/v32.0/actions/custom",
}
```

Standard Invocable Actions

静的に呼び出し可能なアクションのリストを返します。また、アクション種別ごとに基本情報を取得することもできます。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

構文

URI

標準アクションのリストを取得する場合:

```
/vXX.X/actions/standard
```

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、HEAD、POST

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

なし

メモ

Chatter への投稿アクションでは、本文の投稿で特殊な形式を使用する次の機能がサポートされています。

- @[<id>] を使用する @メンション
- #[<topicString>] を使用するトピック

たとえば、「Hi @[0050000000000001] check this out #[some_topic].」という文字列は「Hi @Joe, check this out #some_topic.」として適切に保存されます。ここで、「@Joe」と「#some_topic」は、それぞれユーザおよびトピックへのリンクです。

例

現在の組織の標準アクションのリストの取得

```
/services/data/v32.0/actions/standard
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "actions" : [ {
    "label" : "Submit for Approval",
    "name" : "submit",
    "type" : "SUBMITAPPROVAL"
  }, {
    "label" : "Post to Chatter",
    "name" : "chatterPost",
    "type" : "CHATTERPOST" },
  {
    "label" : "Send Email",
    "name" : "emailSimple",
    "type" : "EMAILSIMPLE"
  } ]
}
```

1つの標準アクションの属性の取得 (例: `emailSimple`)

/services/data/v32.0/actions/standard/emailSimple

JSON レスポンスボディ

```
{
  "description" : "Send an email where you specify the subject, body, and recipients.",
  "inputs" : [ {
    "byteLength" : 0,
    "description" : "Optional. The email recipients specified as a comma-separated list.",
    "label" : "Email Addresses (comma-separated)",
    "maxOccurs" : 1,
    "name" : "emailAddresses",
    "picklistValues" : null,
    "required" : false,
    "subjectType" : null,
    "type" : "STRING"
  }, {
    "byteLength" : 0,
    "description" : "Optional. The email recipients specified as a collection of Strings.",
    "label" : "Email Addresses (collection)",
    "maxOccurs" : 5,
    "name" : "emailAddressesArray",
    "picklistValues" : null,
    "required" : false,
    "subjectType" : null,
    "type" : "STRING"
  }, {
    "byteLength" : 0,
    "description" : "Optional. Who the email is from. Defaults to the current user.",
    "label" : "Sender Type",
    "maxOccurs" : 1,
    "name" : "senderType",
    "picklistValues" : null,
    "required" : false,

```

```
{
  "subjectType" : null,
  "type" : "STRING"
}, {
  "byteLength" : 0,
  "description" : "Required. The email's subject.",
  "label" : "Subject",
  "maxOccurs" : 1,
  "name" : "emailSubject",
  "picklistValues" : null,
  "required" : true,
  "subjectType" : null,
  "type" : "STRING"
}, {
  "byteLength" : 0,
  "description" : "Required. The body of the email in plain text.",
  "label" : "Body",
  "maxOccurs" : 1,
  "name" : "emailBody",
  "picklistValues" : null,
  "required" : true,
  "subjectType" : null,
  "type" : "TEXTAREA"
} ],
"label" : "Send Email",
"name" : "emailSimple",
"outputs" : [ ],
"standard" : true,
"targetEntityName" : null,
"type" : "EMAILSIMPLE"
}
```

Custom Invocable Actions

すべてのカスタムアクションのリストを返します。また、アクション種別ごとに基本情報を取得することもできます。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

構文

URI

カスタムアクションのリストを取得する場合:

/vXX.X/actions/custom

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、HEAD、POST

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし

メモ

emailAlert アクションを使用したメールの送信は、ワークフローの日次メール制限にカウントされます。詳細は、Salesforce ヘルプの「ワークフローメールの日次制限」を参照してください。

POST メソッドを使用して Apex アクションを呼び出し、要求で入力を提供する場合、入力でサポートされているのは次のプリミティブ型のみです。

- Blob
- Boolean
- Date
- Datetime
- Decimal
- Double
- ID
- Integer
- Long
- String
- Time

Apex アクションの説明と呼び出しでは、Apex クラスのプロファイルアクセスが考慮されます。アクセス権を持たない場合は、エラーになります。

Apex アクションをフローに追加した後で、Apex クラスから Invocable Method アノテーションを削除すると、フローでランタイムエラーが発生します。

フローユーザが自動起動フローを呼び出すと、有効なフローバージョンが実行されます。有効なバージョンがない場合は、最新バージョンが実行されます。フロー管理者が自動起動フローを呼び出すと、常に最新のバージョンが実行されます。

フローで次のいずれかの要素を使用すると、その要素を参照する、パッケージ化可能なコンポーネントは自動的にパッケージに含まれません。

- Apex
- メールアラート
- Chatter への投稿
- クイックアクション
- メールの送信
- 承認申請

たとえば、メールアラートを送信する場合は、そのメールアラートで使用するメールテンプレートを手動で追加する必要があります。パッケージを正常にリリースするには、参照されるこれらのコンポーネントをパッケージに手動で追加します。

Apex アクションの説明と呼び出しでは、Apex クラスのプロファイルアクセスが考慮されます。アクセス権を持たない場合は、エラーになります。

例

現在の組織のカスタムアクションのリストの取得

```
/services/data/v33.0/actions/custom
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "quickAction" : "/services/data/v33.0/actions/custom/quickAction",
  "apex" : "/services/data/v33.0/actions/custom/apex",
  "emailAlert" : "/services/data/v33.0/actions/custom/emailAlert",
  "flow" : "/services/data/v33.0/actions/custom/flow"
}
```

List View Describe

ID、列、SOQL クエリなど、リストビューに関する詳細な情報を返します。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

URI

/vXX.X/objects/{objectType}/listviews/{queryLocator}/describe

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし



例:

リストビューに関する情報を取得

```
curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v32.0/objects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/describe
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "columns" : [ {
    "ascendingLabel" : "Z-A",
    "descendingLabel" : "A-Z",
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "hidden" : false,
    "label" : "Account Name",
    "selectListItem" : "Name",
    "sortDirection" : "ascending",
    "sortIndex" : 0,

```



```

    "sortable" : true,
    "type" : "string"
  }, {
    "ascendingLabel" : "Z-A",
    "descendingLabel" : "A-Z",
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "hidden" : false,
    "label" : "Account Site",
    "selectListItem" : "Site",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : true,
    "type" : "string"
  }, {
    "ascendingLabel" : "Z-A",
    "descendingLabel" : "A-Z",
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "hidden" : false,
    "label" : "Billing State/Province",
    "selectListItem" : "BillingState",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : true,
    "type" : "string"
  }, {
    "ascendingLabel" : "9-0",
    "descendingLabel" : "0-9",
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "hidden" : false,
    "label" : "Phone",
    "selectListItem" : "Phone",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : true,
    "type" : "phone"
  }, {
    "ascendingLabel" : "Low to High",
    "descendingLabel" : "High to Low",
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "hidden" : false,
    "label" : "Type",
    "selectListItem" : "toLabel(Type)",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : true,
    "type" : "picklist"
  }, {
    "ascendingLabel" : "Z-A",
    "descendingLabel" : "A-Z",
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "hidden" : false,
    "label" : "Account Owner Alias",
    "selectListItem" : "Owner.Alias",
    "sortDirection" : null,

```

```

    "sortIndex" : null,
    "sortable" : true,
    "type" : "string"
  }, {
    "ascendingLabel" : null,
    "descendingLabel" : null,
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "hidden" : true,
    "label" : "Account ID",
    "selectListItem" : "Id",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : false,
    "type" : "id"
  }, {
    "ascendingLabel" : null,
    "descendingLabel" : null,
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "hidden" : true,
    "label" : "Created Date",
    "selectListItem" : "CreatedDate",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : false,
    "type" : "datetime"
  }, {
    "ascendingLabel" : null,
    "descendingLabel" : null,
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "hidden" : true,
    "label" : "Last Modified Date",
    "selectListItem" : "LastModifiedDate",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : false,
    "type" : "datetime"
  }, {
    "ascendingLabel" : null,
    "descendingLabel" : null,
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "hidden" : true,
    "label" : "System Modstamp",
    "selectListItem" : "SystemModstamp",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : false,
    "type" : "datetime"
  } ],
  "id" : "00BD0000005WcBe",
  "orderBy" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "nullsPosition" : "first",
    "sortDirection" : "ascending"
  }, {

```

```

    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "nullsPosition" : "first",
    "sortDirection" : "ascending"
  } ],
  "query" : "SELECT name, site, billingstate, phone, tolabel(type), owner.alias,
id, createddate, lastmodifieddate, systemmodstamp FROM Account WHERE CreatedDate =
THIS_WEEK ORDER BY Name ASC NULLS FIRST, Id ASC NULLS FIRST",
  "scope" : null,
  "subjectType" : "Account",
  "whereCondition" : {
    "field" : "CreatedDate",
    "operator" : "equals",
    "values" : [ "THIS_WEEK" ]
  }
}

```

List View Results

リストビューに対する SOQL クエリを実行し、結果のデータと表示情報を返します。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

URI

/vXX.X/objects/{subjectType}/listviews/{listViewID}/results

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし

例:

特定のリストビューから結果を取得

```

curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v32.0/objects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0/results
-H "Authorization: Bearer token"

```

JSON レスポンスボディ

```

{
  "columns" : [ {
    "ascendingLabel" : "Z-A",
    "descendingLabel" : "A-Z",
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "hidden" : false,
    "label" : "Account Name",
    "selectListItem" : "Name",

```

```

    "sortDirection" : "ascending",
    "sortIndex" : 0,
    "sortable" : true,
    "type" : "string"
  }, {
    "ascendingLabel" : "Z-A",
    "descendingLabel" : "A-Z",
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "hidden" : false,
    "label" : "Account Site",
    "selectListItem" : "Site",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : true,
    "type" : "string"
  }, {
    "ascendingLabel" : "Z-A",
    "descendingLabel" : "A-Z",
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "hidden" : false,
    "label" : "Billing State/Province",
    "selectListItem" : "BillingState",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : true,
    "type" : "string"
  }, {
    "ascendingLabel" : "9-0",
    "descendingLabel" : "0-9",
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "hidden" : false,
    "label" : "Phone",
    "selectListItem" : "Phone",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : true,
    "type" : "phone"
  }, {
    "ascendingLabel" : "Low to High",
    "descendingLabel" : "High to Low",
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "hidden" : false,
    "label" : "Type",
    "selectListItem" : "toLabel(Type)",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : true,
    "type" : "picklist"
  }, {
    "ascendingLabel" : "Z-A",
    "descendingLabel" : "A-Z",
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "hidden" : false,
    "label" : "Account Owner Alias",

```

```

    "selectListItem" : "Owner.Alias",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : true,
    "type" : "string"
  }, {
    "ascendingLabel" : null,
    "descendingLabel" : null,
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "hidden" : true,
    "label" : "Account ID",
    "selectListItem" : "Id",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : false,
    "type" : "id"
  }, {
    "ascendingLabel" : null,
    "descendingLabel" : null,
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "hidden" : true,
    "label" : "Created Date",
    "selectListItem" : "CreatedDate",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : false,
    "type" : "datetime"
  }, {
    "ascendingLabel" : null,
    "descendingLabel" : null,
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "hidden" : true,
    "label" : "Last Modified Date",
    "selectListItem" : "LastModifiedDate",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : false,
    "type" : "datetime"
  }, {
    "ascendingLabel" : null,
    "descendingLabel" : null,
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "hidden" : true,
    "label" : "System Modstamp",
    "selectListItem" : "SystemModstamp",
    "sortDirection" : null,
    "sortIndex" : null,
    "sortable" : false,
    "type" : "datetime"
  } ],
  "developerName" : "MyAccounts",
  "done" : true,
  "id" : "00BD0000005WcCN",
  "label" : "My Accounts",

```

```

"records" : [ {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "Burlington Textiles Corp of America"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "NC"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(336) 222-7000"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Direct"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSTIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "Dickenson plc"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "KS"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(785) 241-6200"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Channel"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSVIAZ"
  } ]
} ]

```

```

    }, {
      "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    } ]
  }, {
    "columns" : [ {
      "fieldNameOrPath" : "Name",
      "value" : "Edge Communications"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Site",
      "value" : null
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "BillingState",
      "value" : "TX"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Phone",
      "value" : "(512) 757-6000"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Type",
      "value" : "Customer - Direct"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
      "value" : "TUser"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Id",
      "value" : "001D000000JliSSIAZ"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    } ]
  }, {
    "columns" : [ {
      "fieldNameOrPath" : "Name",
      "value" : "Express Logistics and Transport"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Site",
      "value" : null
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "BillingState",
      "value" : "OR"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Phone",

```

```

    "value" : "(503) 421-7800"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Channel"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSXIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "GenePoint"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "CA"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(650) 867-3450"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Channel"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSPIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {

```



```

    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "Grand Hotels and Resorts Ltd"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "IL"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(312) 596-1000"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Direct"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSWIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "Pyramid Construction Inc."
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(014) 427-4427"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Channel"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSUIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",

```

```

      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    } ]
  }, {
    "columns" : [ {
      "fieldNameOrPath" : "Name",
      "value" : "sForce"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Site",
      "value" : null
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "BillingState",
      "value" : "CA"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Phone",
      "value" : "(415) 901-7000"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Type",
      "value" : null
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
      "value" : "TUser"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Id",
      "value" : "001D000000JliSaIAJ"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    } ]
  }, {
    "columns" : [ {
      "fieldNameOrPath" : "Name",
      "value" : "United Oil and Gas Corp."
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Site",
      "value" : null
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "BillingState",
      "value" : "NY"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Phone",
      "value" : "(212) 842-5500"
    }, {

```

```

    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Direct"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JlisZIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "United Oil and Gas, Singapore"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "Singapore"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(650) 450-8810"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Direct"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JlisRIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "United Oil and Gas, UK"
  } ]
} ]

```

```

    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Site",
      "value" : null
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "BillingState",
      "value" : "UK"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Phone",
      "value" : "+44 191 4956203"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Type",
      "value" : "Customer - Direct"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
      "value" : "TUser"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Id",
      "value" : "001D000000JliSQIAZ"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    } ]
  }, {
    "columns" : [ {
      "fieldNameOrPath" : "Name",
      "value" : "University of Arizona"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Site",
      "value" : null
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "BillingState",
      "value" : "AZ"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Phone",
      "value" : "(520) 773-9050"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Type",
      "value" : "Customer - Direct"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
      "value" : "TUser"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Id",
      "value" : "001D000000JliSYIAZ"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {

```

```
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
} ],
"size" : 12
}
```

List Views

指定された `sObject` のリストビューのリストを返します。各リストビューの ID とその他の基本情報も含まれます。ID で特定のリストビューの基本情報を取得することもできます。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で可以使用です。

URI

リストビューのリストを取得する場合:

`/vXX.X/objects/{objectType}/listviews`

1つのリストビューに関する基本情報を取得する場合:

`/vXX.X/objects/{objectType}/listviews/{listViewID}`

適用開始バージョン

31.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

なし



例:

Account オブジェクトのリストビューのリストを取得

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v32.0/objects/Account/listviews -H
"Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "done" : true,
  "listviews" : [ {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/objects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/describe",
    "developerName" : "NewThisWeek",
```

```

    "id" : "00BD0000005WcBeMAK",
    "label" : "New This Week",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK"
  }, {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBpMAK/describe",
    "developerName" : "NewLastWeek",
    "id" : "00BD0000005WcBpMAK",
    "label" : "New Last Week",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBpMAK/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBpMAK"
  }, {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcC6MAK/describe",
    "developerName" : "PlatinumandGoldSLACustomers",
    "id" : "00BD0000005WcC6MAK",
    "label" : "Platinum and Gold SLA Customers",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcC6MAK/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcC6MAK"
  }, {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCEMA0/describe",
    "developerName" : "RecentlyViewedAccounts",
    "id" : "00BD0000005WcCEMA0",
    "label" : "Recently Viewed Accounts",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCEMA0/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCEMA0"
  }, {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCFMA0/describe",
    "developerName" : "AllAccounts",
    "id" : "00BD0000005WcCFMA0",
    "label" : "All Accounts",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCFMA0/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCFMA0"
  }, {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0/describe",
    "developerName" : "MyAccounts",
    "id" : "00BD0000005WcCNMA0",
    "label" : "My Accounts",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0/results",

```

```

    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0"
  } ],
  "nextRecordsUrl" : null,
  "size" : 6,
  "subjectType" : "Account"
}

```

1つのリストビューに関する基本情報を取得

リストビューのIDを使用して特定のリストビューに関する基本情報を取得します。

```

curl
https://na1.salesforce.com/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK
-H "Authorization: Bearer token"

```

JSON レスポンスボディ

```

{
  "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/describe",
  "developerName" : "NewThisWeek",
  "id" : "00BD0000005WcBeMAK",
  "label" : "New This Week",
  "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/results",
  "soqlCompatible" : true,
  "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK"
}

```

Process Approvals

すべての承認プロセスのリストを返します。特定のレコードが承認プロセスをサポートしていて、承認プロセスがすでに定義されている場合、そのレコードを送信するためにも使用できます。現在のユーザが割り当てられた承認者である場合、レコードを承認および却下できます。POST 要求を使用して一括承認を行う場合、成功した要求はコミットされ、失敗した要求からはエラーが返されます。

構文

URI

承認のリストを返す場合の URI: /vXX.X/process/approvals/

適用開始バージョン

30.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、HEAD、POST

認証

Authorization: Bearer **token**

要求パラメータ

不要

リクエストボディ

リクエストボディには、次の情報を含むプロセス要求の配列が含まれます。

名前	データ型	説明
actionType	string	実行するアクション (<i>Submit</i> 、 <i>Approve</i> 、または <i>Reject</i>) を表します。
contextActorId	ID	承認レコードを要求した申請者の ID。
contextId	ID	動作の対象となる項目の ID。
comments	string	この要求に関連付けられた履歴ステップに追加されるコメント。
nextApproverIds	ID[]	プロセスが引き続き承認の詳細を要求する場合、次の要求に割り当てられるユーザ ID。
processDefinitionId	string	プロセス定義の開発者名または ID。
skipEntryCriteria	boolean	プロセス定義名または ID が null ではない場合にプロセスの開始条件を評価するか (true)、否か (false) を決定します。プロセス定義名または ID が指定されていない場合、この引数は無視され、標準の評価がプロセスの順序に基づいて行われます。この要求で設定されていないければ、デフォルトでは開始条件はスキップされません。

レスポンスボディ

レスポンスボディには、次の情報を含むプロセス結果の配列が含まれます。

名前	データ型	説明
actorIds	ID[]	この承認ステップに現在割り当てられているユーザの ID。
entityId	ID	処理されているオブジェクト
errors	Error[]	要求が失敗した場合に返されるエラーのセット。
instanceId	ID	処理用に提出されるオブジェクトに関連付けられている ProcessInstance の ID。
instanceStatus	string	現在のプロセスインスタンスの状態 (個別のオブジェクトではなく、全体のプロセスインスタンス)。有効値は、「Approved」、「Rejected」、「Removed」、または「Pending」です。
newWorkItemIds	ID[]	ProcessInstanceWorkitem 項目を示す、大文字と小文字が区別されない ID (保留中の承認要求セット)。
success	boolean	処理または承認が正常に完了した場合、true。

例

- 「すべての承認プロセスのリストを取得する」を参照してください。
- 「承認を受けるレコードを送信する」を参照してください。
- 「レコードを承認する」を参照してください。
- 「レコードを却下する」を参照してください。
- 「一括承認」を参照してください。

Process Rules

すべての有効なワークフロールールを返します。ルールにアクションがある場合、アクションがルールの下にリストされます。指定したレコードに関連付けられたワークフロールールすべてをトリガするためにも使用できます。ルールのアクションは、ルール条件に一致した場合にのみ起動されます。POST 要求の使用時に何かに失敗すると、トランザクション全体がロールバックされます。

REST API を使用して、クロスオブジェクトワークフロールールを呼び出すことはできません。

構文

URI

ワークフロールールをリストを取得するか、1つ以上のワークフロールールをトリガする場合の URI:

`/vXX.X/process/rules/`

特定のオブジェクトのルールを取得する場合: `/vXX.X/process/rules/sObjectName`

特定のルールのメタデータを取得する場合: `/vXX.X/process/rules/sObjectName/workflowRuleId`

適用開始バージョン

30.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD、GET、POST

認証

Authorization: Bearer *token*

要求パラメータ

不要

リクエストボディ

リクエストボディには、コンテキスト ID の配列が含まれます。

名前	データ型	説明
<code>contextId</code>	ID	動作の対象となる項目の ID。

例

- 「プロセスルールのリストを取得する」を参照してください。
- 「特定のプロセスルールを取得する」を参照してください。
- 「プロセスルールをトリガする」を参照してください。

Query

指定された SOQL クエリを実行します。

クエリ結果が大きすぎる場合、応答には、結果の最初のバッチと応答の `nextRecordsUrl` 項目のクエリ識別子が含まれます。識別子は、追加の要求で次のバッチを取得するために使用できます。

URI

`/vXX.X/query/?q=SOQL クエリ`

クエリを実行せずにクエリのパフォーマンスフィードバックを取得する場合:

`/vXX.X/query/?explain=SOQL クエリ`

レポートまたはリストビューに関するクエリのパフォーマンスフィードバックを取得する場合:

`/vXX.X/query/?explain=レポートまたはリストビュー ID`

最初の結果が大きすぎる場合、以降のクエリ結果は次のように取得します。

`/vXX.X/query/クエリの識別子`

形式

JSON、XML

HTTP メソッド


GET

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

パラメータ	説明
<code>q</code>	SOQL クエリ。有効な URI を作成するには、クエリ文字列内のスペースを「+」文字で置き換える必要があります。たとえば、クエリパラメータ文字列は「SELECT+Name+FROM+MyObject」のようになります。SOQL クエリ文字列が無効な場合、MALFORMED_QUERY 応答が返されます。
<code>explain</code>	<p>パフォーマンスフィードバックを取得する SOQL クエリ。Salesforce でのクエリの処理方法の詳細を示す応答を取得するには、<code>q</code> の代わりに <code>explain</code> を使用します。このフィードバックを使用して、クエリをさらに最適化できます。また、クエリ文字列の代わりにレポートまたはリストビューの ID を使用して、Salesforce でのレポートまたはリストビューの処理方法に関するフィードバックを取得することもできます。</p> <p><code>explain</code> パラメータは、API バージョン 30.0 以降で使用できます。</p>

パラメータ	説明
	<p> メモ: REST API クエリリソースでの <code>explain</code> の使用は、ベータ機能です。このベータ機能に関連するサポートはありません。詳細は、Salesforce にお問い合わせください。</p> <p>SOQL クエリ文字列が無効な場合、<code>MALFORMED_QUERY</code> 応答が返されます。レポートまたはリストビューの ID が無効な場合、<code>INVALID_ID</code> 応答が返されます。</p>

レスポンスボディ

`q` パラメータを使用するクエリでは、クエリ結果レコードの配列が応答に含まれます。`explain` パラメータを使用するクエリでは、クエリ、レポート、またはリストビューの実行に使用できる 1 つ以上のクエリ実行プランが応答に含まれます。プランは、最も最適なものから順に並び替えられます。各プランには次の情報が含まれます。

名前	データ型	説明
<code>cardinality</code>	<code>number</code>	インデックス項目に基づいてクエリから返されると予測されるレコード数 (存在する場合)。
<code>fields</code>	<code>string[]</code>	先行する操作種別が <code>Index</code> の場合はクエリに使用されるインデックス項目、そうでない場合は <code>null</code> 。
<code>leadingOperationType</code>	<code>string</code>	<p>クエリを最適化するために使用される主な操作種別。次のいずれかの値が有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>Index</code> — クエリオブジェクトに関するインデックスがクエリで使用されます。 <code>Other</code> — Salesforce の内部的な最適化がクエリで使用されます。 <code>Sharing</code> — ユーザの共有ルールに基づいたインデックスがクエリで使用されます。現在のユーザに表示されるレコードが制限される共有ルールの場合、そのルールを使用してクエリを最適化することができます。 <code>TableScan</code> — クエリオブジェクトのすべてのレコードがクエリでスキャンされ、インデックスは使用されません。
<code>notes</code>	<code>feedback note[]</code>	<p>1 つ以上のフィードバックメモの配列。各メモに含まれる内容は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>description</code> — 組織の 1 つの側面に関する詳細な説明。これには、使用不可能な最適化について、その理由に関する詳細などが含まれます。 <code>fields</code> — 最適化に使用される 1 つ以上の項目の配列。 <code>tableEnumOrId</code> — 最適化に使用される項目のテーブル名。 <p>この応答項目は、API バージョン 33.0 以降で使用できます。</p>

名前	データ型	説明
relativeCost	number	SOQL セレクティブクエリのしきい値と比較した、このクエリのコスト。1.0 を超える値は、クエリがセレクティブにならないことを示します。セレクティブクエリについての詳細は、 『Force.com Apex コード開発者ガイド』 の「より効率的な SOQL クエリ」を参照してください。
subjectCardinality	number	組織内にあるクエリオブジェクトの全レコードの概数。
subjectType	string	クエリオブジェクトの名前 (Merchandise__c など)。

例

クエリの作成と、クエリ識別子を使用した以降のクエリ結果の取得の例は、「[SOQL クエリを実行する](#)」(ページ 59)を参照してください。

explain パラメータを使用してクエリおよびレポートでフィードバックを取得する例は、「[クエリのパフォーマンスに関するフィードバックを取得する](#)」(ページ 61)を参照してください。

SOQL についての詳細は、[『Force.com SOQL および SOSL リファレンス』](#)を参照してください。クエリのバッチサイズについての詳細は、[『SOAP API 開発者ガイド』](#)の「[クエリのバッチサイズの変更](#)」を参照してください。

QueryAll

指定された SOQL クエリを実行します。Query リソースとは異なり、QueryAll は merge または delete によって削除されたレコードを返します。また、QueryAll はアーカイブ済みの ToDo と行動のレコードの情報を返します。QueryAll は、API バージョン 29.0 以降で使用できます。

クエリ結果が大きすぎる場合、応答には、結果の最初のバッチと応答の nextRecordsUrl 項目のクエリ識別子が含まれます。識別子は、追加の要求で次のバッチを取得するために使用できます。nextRecordsUrl の URL に query が指定されている場合でも、最初の QueryAll 要求の残りの結果が提供されます。残りの結果には、最初のクエリに一致した削除されたレコードが含まれます。

URI

/vXX.X/queryAll/?q=**SOQL** クエリ

最初の結果が大きすぎる場合、以降のクエリ結果は次のように取得します。

/vXX.X/queryAll/**クエリの識別子**

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

パラメータ	説明
q	SOQL クエリ。有効な URI を作成するには、クエリ文字列内のスペースを「+」文字で置き換える必要があります。たとえば、クエリパラメータ文字列は「SELECT+Name+FROM+MyObject」のようになります。

例

- 削除された項目を含むクエリを作成する例は、「[削除された項目を含む SOQL クエリを実行する](#)」(ページ 60)を参照してください。
- クエリ識別子を使用して追加の結果を取得するクエリの例は、「[SOQL クエリの残りの結果の取得](#)」(ページ 61)を参照してください。

SOQL についての詳細は、『[Force.com SOQL および SOSL リファレンス](#)』を参照してください。クエリのバッチサイズについての詳細は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』の「[クエリのバッチサイズの変更](#)」を参照してください。

Quick Actions

グローバルアクションおよびオブジェクト固有のアクションのリストを返します。このリソースは REST API バージョン 28.0 以降で使用できます。アクションを使用する場合は、「[SObject Quick Actions](#)」も参照してください。

URI

/vXX.X/quickActions/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD、GET、POST

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

不要

考慮事項

すべての必須項目をオブジェクトに追加してから、そのオブジェクトのクイックアクションを作成してください。クイックアクションの作成後に必須項目を追加すると、クイックアクションの Describe Result に項目が表示されなくなります。その場合、クイックアクションの実行時に項目を使用できず、項目が欠落しているというエラーが発生します。クイックアクションのレイアウトに必須項目を表示しない場合は、項目にデフォルト値を設定します。

グローバルクイックアクションを取得する場合の使用例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v28.0/quickActions/ -H "Authorization: Bearer token"
```

アクションを使用して取引先責任者を作成する場合の例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v28.0/quickActions/CreateContact -H
'Authorization: Bearer access_token -H "Content-Type: application/json" -d
@newcontact.json'
```

JSON リクエストボディ newcontact.json ファイルの例

```
{
  "record" : { "LastName" : "Smith" }
}
```

Recent List Views

特定の sObject 種別に最近使用されたリストビューのリストを返します。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

URI

/vXX.X/objects/{objectType}/listviews/recent

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし



例:

Account オブジェクトの最近のリストビューを取得

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v32.0/objects/Account/listviews/recent
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "done" : true,
  "listviews" : [ {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/objects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0/describe",
    "developerName" : "MyAccounts",
    "id" : "00BD0000005WcCNMA0",
    "label" : "My Accounts",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/objects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0/results",
    "sqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/objects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0"
```

```

    }, {
      "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/describe",
      "developerName" : "NewThisWeek",
      "id" : "00BD0000005WcBeMAK",
      "label" : "New This Week",
      "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/results",
      "soqlCompatible" : true,
      "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK"
    }, {
      "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCFMA0/describe",
      "developerName" : "AllAccounts",
      "id" : "00BD0000005WcCFMA0",
      "label" : "All Accounts",
      "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCFMA0/results",
      "soqlCompatible" : true,
      "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCFMA0"
    } ],
    "nextRecordsUrl" : null,
    "size" : 3,
    "subjectType" : "Account"
  }
}

```

Recently Viewed Items

現在のユーザが表示または参照した、最近参照された項目を取得します。Salesforceでは、レコード参照に関する情報がインターフェースに保存され、その情報を使用して、サイドバーや検索のオートコンプリートオプションなどで、最近表示および参照したレコードのリストが生成されます。

このリソースは、最近使ったデータの情報にのみアクセスします。最近参照したデータのリストを変更するには、SOQL [クエリ](#)で FOR VIEW 句または FOR REFERENCE 句を指定して、最近参照した情報を直接更新する必要があります。

URI

/vXX.X/recent

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

パラメータ	説明
limit	返されるレコードの最大数を指定するパラメータ (省略可能)。このパラメータが指定されていない場合、返されるレコードのデフォルトの最大数は RecentlyViewed のエントリの最大数 (オブジェクトあたり 200 レコード) になります。

例

- 最近参照した項目のリストを取得する例については、「[最近参照したレコードの表示](#)」(ページ 70)を参照してください。
- レコードを最近参照したデータとして設定する例は、「[最近参照したデータとしてレコードをマーク](#)」(ページ 71)を参照してください。

Relevant Items

現在のユーザの最も関連性の高い項目を取得します。関連性の高い項目には、ユーザのグローバル検索範囲のオブジェクトや、最後に使用した (MRU) オブジェクトのレコードなどがあります。

関連項目には、ユーザのグローバル検索範囲内の各オブジェクトの最大 50 件の最近参照または更新したレコードが含まれます。

 **メモ:** ユーザのグローバル検索範囲には、Salesforce Classic の検索結果ページでユーザが固定したオブジェクトなど、過去 30 日間にユーザが最も多く操作したオブジェクトが含まれます。

その後リソースによって、レコードの最大数 (2,000) が返されるまで、最後に使用した (MRU) オブジェクトごとにその他の最近のレコードが検索されます。

このリソースは、関連項目情報にのみアクセスします。関連項目リストの変更は、現在サポートされていません。

このリソースは API バージョン 35.0 以降で使用できます。

URI

/vXX.X/subjects/relevantItems

形式

JSON


HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

パラメータ	説明
lastUpdatedId	省略可能。現在の関連項目リストを以前のバージョンと比較します (使用可能な場合)。以前の応答で返された lastUpdatedId 値を指定します。
sObjects	省略可能。結果を特定のオブジェクトまたはオブジェクトセットに絞り込むには、1つ以上の sObject で複数形の表示ラベルを指定します。  メモ: sObject 名では大文字と小文字が区別されます。

レスポンスボディ

応答には、返される各オブジェクトのレコードの配列が含まれます。応答には次の情報が含まれます。

名前	型	説明
lastUpdatedId	string	結果をこの応答リストの結果と比較するために後続のコールで利用できる、一意のコード。
newResultSetSinceLastQuery	Boolean (true または false)	現在のユーザに対して応答が以前に要求されている場合は、現在の応答が以前の応答または lastUpdatedId で指定された応答と一致するかどうかを示します。
key	ID	sObject の ID の最初の 3 文字は、オブジェクト種別を示します。
label	string	sObject の複数形の表示ラベル ([取引先] など)。
recordIds	ID	一致するレコードの ID のリスト。

例

「[関連項目の表示](#)」を参照してください。

Search

検索を実行します。

URI

/vXX.X/search/?q=**SOSL** *検索文字列*

検索文字列は URL 符号化されている必要があります。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証Authorization: Bearer *token***パラメータ**

必須パラメータ	説明
q	適切に URL 符号化された SOSL ステートメント。

例

「[文字列を検索する](#)」(ページ 63)を参照してください。

SOSL についての詳細は、[『Force.com SOQL および SOSL リファレンス』](#)を参照してください。

Search Scope and Order

ログインユーザのデフォルトのグローバル検索範囲内にあるオブジェクトの順序付きリストを返します。グローバル検索は、操作するオブジェクトとそれらを実行する頻度を追跡し、それに基づいて検索結果を編成します。最もよく使用されるオブジェクトは、リストの最上部に表示されます。

返されるリストには、ユーザの検索結果ページの固定表示オブジェクトを含め、ユーザのデフォルトの検索範囲でのオブジェクト順が反映されます。このコールは、最適化されたグローバル検索範囲を使用してカスタム検索結果ページを実装する場合に役立ちます。検索文字列は URL 符号化されている必要があります。

URI

/vXX.X/search/scopeOrder

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証Authorization: Bearer *token***例**

「[デフォルトの検索範囲と検索順序の取得](#)」を参照してください。

Search Result Layouts

クエリ文字列に含まれるオブジェクトの検索結果レイアウトに関する情報を返します。このコールでは、検索結果ページに列として表示される項目のリスト、最初のページに表示される行数、および検索結果ページで使用するラベルがオブジェクトごとに返されます。このコールでは、1 回のクエリで 100 個までのオブジェクトの一括取得をサポートしています。

URI

/vXX.X/search/layout/?q=カンマで区切られたオブジェクトのリスト

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

例

オブジェクトの検索結果レイアウトの取得

Search Suggested Records

名前がユーザの検索文字列と一致した推奨レコードのリストを返します。この推奨リソースは、ユーザが全文検索を実行する前に、関連する可能性のあるレコードに直接移動するためのショートカットを提供します。

構文

URI

vXX.X/search/suggestions?q=検索文字列&sobject=オブジェクト種別

適用開始バージョン

32.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

不要



要求パラメータ

パラメータ	説明
fields	省略可能。ルックアップクエリの作成に使用します。カンマ区切りのリストを使用して複数の項目を指定します。応答で返される参照項目を指定します。
groupId	省略可能。返される質問が投稿されたグループの一意の識別子を指定します。カンマ区切りのリストを使用して複数のグループを指定します。このパラメータは、パラメータのtypeがquestionの場合にのみ適用されます。userId と組み合わせて使用することはできません。

パラメータ	説明
limit	省略可能。返される推奨レコードの最大数を指定します。制限が指定されていない場合、デフォルトで5レコードが返されます。指定された制限を超える推奨レコードが存在すると、レスポンスボディの <code>hasMoreResults</code> プロパティが <code>true</code> になります。
networkId	省略可能。返される質問が関連付けられたコミュニティの一意の識別子を指定します。カンマ区切りのリストを使用して複数のコミュニティを指定します。このパラメータは、パラメータの <code>type</code> が <code>question</code> の場合、またはパラメータの <code>subject</code> が <code>user</code> の場合にのみ適用されます。
q	必須。適切に URL 符号化された、ユーザの検索クエリ文字列。ユーザの検索クエリ文字列が最小長要件 (中国語、日本語、韓国語、タイ語の場合は1文字、その他の言語の場合は3文字) を満たしている場合にのみ、推奨クエリが返されます。クエリ文字列が最大長である 255 文字 (または区切りの空白なしの連続した 200 文字) を超えると、エラーが返されます。
subject	必須。account や offer__c など、検索の範囲となるオブジェクト。subject の値が feedItem の場合、type パラメータの値は question である必要があります。
topicId	省略可能。返される質問がタグ付けされた単一のトピックの一意の識別子を指定します。このパラメータは、パラメータの <code>type</code> が <code>question</code> の場合にのみ適用されます。
type	subject の値が feedItem である場合は必須です。subject のその他すべての値に対してこのパラメータを含めると、クエリには影響しません。フィードの種別が質問であることを指定します。有効な値: question。
userId	省略可能。返される質問を作成したユーザの一意の識別子を指定します。カンマ区切りのリストを使用して複数のユーザを指定します。このパラメータは、パラメータの <code>type</code> が <code>question</code> の場合にのみ適用されます。groupId と組み合わせて使用することはできません。
where	省略可能。SOQL の where 句と同じ構文に従う検索条件の制約。たとえば、式 <code>my_field__c LIKE 'foo%' AND RecordType='bar'</code> は適切に URL 符号化されている必要があります。

使用方法

この推奨リソースは、レコード名項目が検索文字列と一致するテキストを含む場合にレコードを返します。検索文字列内の最後の文字と、単語の先頭の一致も検出されます。1 語内に検索文字列が含まれるレコードは、一致とは見なされません。

-  **メモ:** ユーザの検索クエリに疑問符またはワイルドカードが含まれている場合、それらの記号は URI でクエリ文字列から自動的に削除されます。
-  **例:** テキスト文字列 `national u` は `national u*` として扱われ、「National Utility」、「National Urban Company」、「First National University」が返されます。

推奨レコード応答

この推奨リソースは、関連する可能性があり、ユーザがアクセス可能なレコードに関する、表示可能な状態のデータを返します。

結果の順序は、関連性アルゴリズムによって決まります。

結果内の各推奨レコードには、次の要素が含まれます。

要素	説明
Attributes	レコードのオブジェクト種別とレコードにアクセスするための URL。 要求された参照項目の値も含まれます。たとえば、 <code>fields=Id,Name</code> を要求した場合、結果には ID と名前が含まれます。
Name (または Title)	レコードの名前項目。標準の名前項目がない場合、次のオブジェクトには標準のタイトル項目が使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Dashboard • Idea • IdeaTheme • Note • Question 標準の名前項目または役職項目がない場合、メインの識別項目が使用されます。たとえば、ケースの場合はケース番号が使用されます。
Id	レコードの一意の識別子。

JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "attributes" : {
    "type" : "Account",
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/001xx000003DH6WAAW"
  },
  "Id" : "001xx000003DH6WAAW"
  "Name" : "National Utility Company"
}, {
  {
    "attributes" : {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/001xx000003DHJ4AAO"
```

```

    },
    "Id" : "001xx000003DHJ4AAO"
    "Name" : "National Utility Service"
  }, {
  {
    "attributes" : {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/001xx000003DHscAAG"
    },
    "Id" : "001xx000003DHscAAG"
    "Name" : "National Urban Technology Center"
  } ]

```

XML レスponseボディの例

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?
<suggestions>
  <autoSuggestResults type="Account"
url="/services/data/v32.0/subjects/Account/001xx000003DH6WAAW">
    <Id>001xx000003DH6WAAW</Id>
    <Name>National Utility Company</Name>
  </autoSuggestResults>
  <autoSuggestResults type="Account"
url="/services/data/v32.0/subjects/Account/001xx000003DHJ4AAO">
    <Id>001xx000003DHJ4AAO</Id>
    <Name>National Utility Service</Name>
  </autoSuggestResults>
  <autoSuggestResults type="Account"
url="/services/data/v32.0/subjects/Account/001xx000003DHscAAG">
    <Id>001xx000003DHscAAG</Id>
    <Name>National Urban Technology Center</Name>
  </autoSuggestResults>
  <hasMoreResults>true</hasMoreResults>
</suggestions>

```

サポート対象外のオブジェクト

この推奨リソースでは、次を除くすべてのオブジェクトがサポートされます。

- Article (タイトルがユーザの検索クエリ文字列と一致する Salesforce ナレッジ記事のリストを返すには、suggestTitleMatches リソースを使用します。)
- ContentNote
- Event
- FeedComment
- FeedPost
- IdeaComment
- Pricebook2
- Reply
- TagDefinition

- Task

Search Suggested Article Title Matches

タイトルがユーザの検索クエリ文字列に一致したSalesforceナレッジ記事のリストを返します。ユーザが検索を実行する前に、関連する可能性のある記事に直接移動するためのショートカットを提供します。

構文

URI

```
/vXX.X/search/suggestTitleMatches?q=search string&language=article language&publishStatus=article publication status
```

適用開始バージョン

30.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

不要

要求パラメータ

パラメータ	説明
articleTypes	省略可能。目的の記事タイプを示す3文字のIDプレフィックス。値ごとにパラメータ名を繰り返すことで、1回のRESTコールでこのパラメータに複数の値を指定できます。たとえば、 articleTypes=ka0&articleTypes=ka1 です。
categories	省略可能。JSONの対応付けとして表現された、目的の記事のデータカテゴリグループの名前とデータカテゴリの名前。このパラメータには複数のデータカテゴリグループとデータカテゴリのペアを指定できます。たとえば、 categories={"Regions":"Asia","Products":"Laptops"} のようにします。URL内の文字をエスケープする必要がある場合があります。この例の場合、categories=%7B%22Regions%22%3A%22Asia%22%2C%22Products%22%3A%22Laptops%22%7D です。
channel	省略可能。一致する記事を参照できるチャンネル。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • AllChannels - ユーザがアクセス権を持つすべてのチャンネルで参照可能

パラメータ	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • App – 内部 Salesforce ナレッジアプリケーションで参照可能 • Pkb – 公開知識ベースで参照可能 • Csp – カスタマーポータルで参照可能 • Prm – パートナーポータルで参照可能 <p>channel が指定されていない場合、ユーザの種別によってデフォルト値が決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ゲストユーザの Pkb • カスタマーポータルユーザの Csp • パートナーポータルユーザの Prm • 他の種別のユーザの App <p>channel が指定されている場合、特定の要件により、指定された値が要求した実際の値にならないことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ゲストユーザ、カスタマーポータルユーザ、パートナーポータルユーザの場合、指定された値は各ユーザ種別のデフォルト値と一致する必要があります。値が一致しないか、AllChannels が指定されていると、指定された値が App に置き換えられます。 • ゲストユーザ、カスタマーポータルユーザ、パートナーポータルユーザ以外のすべてのユーザの場合は、次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> – Pkb、Csp、Prm、または App が指定されていると、指定された値が使用されます。 – AllChannels が指定されていると、指定された値が App に置き換えられます。
language	必須。ユーザのクエリの言語。一致する記事が作成された言語を指定します。
limit	省略可能。返される記事の最大数を指定します。指定された制限を超える推奨記事が存在すると、レスポンスボディの hasMoreResults プロパティが true になります。
publishStatus	<p>必須。記事の公開状況。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Draft – Salesforce ナレッジに公開されていない記事。 • Online – Salesforce ナレッジに公開されている記事。 • Archived – [アーカイブ済み記事] ビューで参照可能な公開されていない記事。
q	必須。適切に URL 符号化された、ユーザの検索クエリ文字列。ユーザの検索クエリ文字列が最小長要件 (中国語、日本語、韓国語の場合は 1 文字、その他の言語の場合は 3 文字) を満たしている場合にのみ、推

パラメータ	説明
	奨クエリが返されます。クエリ文字列が最大長である 250 文字を超えると、エラーが返されます。
validationStatus	省略可能。返される記事の検証状況。

タイトルが一致する推奨記事を取得する場合の例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/search/suggestTitleMatches?q=orange+banana&language=en_US&publishStatus=Online -H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "autoSuggestResults" : [ {
    "attributes" : {
      "type" : "KnowledgeArticleVersion",
      "url" : "/services/data/v30.0/subjects/KnowledgeArticleVersion/ka0D00000004CcQ"
    },
    "Id" : "ka0D00000004CcQ",
    "UrlName" : "orange-banana",
    "Title" : "orange banana",
    "KnowledgeArticleId" : "ka0D00000004Cfz"
  } ],
  "hasMoreResults" : false
}
```

使用方法

Salesforce ナレッジが組織で有効になっている必要があります。ユーザの「記事の参照」権限が有効化されている必要があります。ユーザが参照する権限を持つデータカテゴリおよび記事タイプに基づいて、ユーザがアクセスできる記事のみが推奨記事に含まれます。

Suggest Article Title Matches リソースは、関係する可能性のある記事に関して表示準備のできたデータを返すように設計されています。「a」、「for」、「the」などのストップワードを除いたクエリ文字列全体がタイトルに含まれる記事も推奨されます。

たとえば、*Backpacking for desert* を検索すると、記事「Backpacking in the desert」が返されます。

- 🔍 **メモ:** この例では「Backpacking for desert survival」なども返されますが、タイトルにクエリ文字列のストップワードが含まれる記事は、タイトルにストップワードが含まれない一致記事よりも前に表示されます。クエリ文字列の末尾にあるストップワードは、検索語として扱われます。

ワイルドカードは、クエリ文字列の最後のトークンに自動的に付加されます。

- 🔍 **メモ:** ユーザの検索クエリに疑問符またはワイルドカードが含まれている場合、それらの記号は URI で他の特殊文字と同様にクエリ文字列から自動的に削除されます。

返される推奨クエリが要求で指定された制限を超えると、`hasMoreResults` という項目が応答の最後に含まれます。返される推奨クエリが使用可能な推奨クエリのサブセットである場合は値が `true` になり、そうでない場合は `false` になります。

関連トピック:

[sObject Suggested Articles for Case](#)

Search Suggested Queries

他のユーザがSalesforceナレッジで実行した検索に一致するユーザのクエリ文字列テキストに基づいて、提案する検索のリストを返します。ユーザが検索を実行する前に、検索の有効性を高める手段を提供します。

構文

URI

`vXX.X/search/suggestSearchQueries?q=検索文字列&language=クエリの言語`

適用開始バージョン

30.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer *token*

リクエストボディ

不要

要求パラメータ

パラメータ	説明
<code>channel</code>	<p>省略可能。記事を参照できる Salesforce ナレッジチャンネルを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>AllChannels</code> – ユーザがアクセス権を持つすべてのチャンネルで参照可能 • <code>App</code> – 内部 Salesforce ナレッジアプリケーションで参照可能 • <code>Pkb</code> – 公開知識ベースで参照可能 • <code>Csp</code> – カスタマーポータルで参照可能 • <code>Prm</code> – パートナーポータルで参照可能 <p><code>channel</code> が指定されていない場合、ユーザの種別によってデフォルト値が決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ゲストユーザの <code>Pkb</code>

パラメータ	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • カスタマーポータルユーザの <code>Csp</code> • パートナーポータルユーザの <code>Prm</code> • 他の種別のユーザの <code>App</code> <p><code>channel</code> が指定されている場合、特定の要件により、指定された値が要求した実際の値にならないことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ゲストユーザ、カスタマーポータルユーザ、パートナーポータルユーザの場合、指定された値は各ユーザ種別のデフォルト値と一致する必要があります。値が一致しないか、<code>AllChannels</code> が指定されていると、指定された値が <code>App</code> に置き換えられます。 • ゲストユーザ、カスタマーポータルユーザ、パートナーポータルユーザ以外のすべてのユーザの場合は、次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> - <code>Pkb</code>、<code>Csp</code>、<code>Prm</code>、または <code>App</code> が指定されていると、指定された値が使用されます。 - <code>AllChannels</code> が指定されていると、指定された値が <code>App</code> に置き換えられます。
<code>language</code>	必須。ユーザのクエリの言語。
<code>limit</code>	省略可能。返される推奨検索の最大数を指定します。指定された制限を超える推奨クエリが存在すると、レスポンスボディの <code>hasMoreResults</code> プロパティが <code>true</code> になります。
<code>q</code>	必須。適切に URL 符号化された、ユーザの検索クエリ文字列。ユーザの検索クエリ文字列が最小長要件 (中国語、日本語、韓国語の場合は 1 文字、その他の言語の場合は 3 文字) を満たしている場合にのみ、推奨クエリが返されます。クエリ文字列が最大長である 250 文字を超えると、エラーが返されます。

推奨クエリを取得する場合の例

```
curl https://na1.salesforce.com/services/data/v30.0/search/suggestSearchQueries?
q=app&language=en_US -H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "autoSuggestResults" : [ {
    "0" : "apple",
    "1" : "apple banana",
  } ],
  "hasMoreResults" : false
}
```

使用方法

Salesforce ナレッジが組織で有効になっている必要があります。

クエリ文字列テキストと正確に一致する場合にのみ、クエリが推奨されます。クエリ内では、テキスト文字列がプレフィックスである必要があります。テキスト文字列が単語に含まれる場合は、一致とみなされません。たとえば、テキスト文字列が `app` の場合、`apple banana` および `banana apples` という推奨クエリは返されますが、`pineapple` は返されません。

返される推奨クエリが要求で指定された制限を超えると、`hasMoreResults` という項目が応答の最後に含まれます。返される推奨クエリが使用可能な推奨クエリのサブセットである場合は値が `true` になり、そうでない場合は `false` になります。

ユーザの検索クエリに疑問符またはワイルドカードが含まれている場合、それらの記号は URI でクエリ文字列から自動的に削除されます。

Tabs

ユーザが[すべてのタブ]([+]) タブカスタマイズ機能を使用してタブを非表示にしているかどうかに関係なく、ログインユーザが使用できるすべてのタブ (Lightning ページタブを含む) のリストを返します。このリソースは REST API バージョン 31.0 以降で使用できます。

構文

URI

`/vXX.X/tabs/`

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、HEAD

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

None

要求パラメータ

なし

例

タブを取得するための使用方法

```
/services/data/v31.0/tabs
```

/vXX.X/tabs/ のサンプル JSON レスポンスボディ

これは、[取引先] タブを表す部分的なコードサンプルです。

```
[...,
  "colors" : [ {
    "color" : "6f7ccb",
    "context" : "primary",
    "theme" : "theme4"
  }, {
    "color" : "236FBD",
    "context" : "primary",
    "theme" : "theme3"
  } ],
  "custom" : false,
  "iconUrl" : "http://na1.salesforce.com/img/icon/accounts32.png",
  "icons" : [ {
    "contentType" : "image/png",
    "height" : 32,
    "theme" : "theme3",
    "url" : "http://na1.salesforce.com/img/icon/accounts32.png",
    "width" : 32
  }, {
    "contentType" : "image/png",
    "height" : 16,
    "theme" : "theme3",
    "url" : "http://na1.salesforce.com/img/icon/accounts16.png",
    "width" : 16
  }, {
    "contentType" : "image/svg+xml",
    "height" : 0,
    "theme" : "theme4",
    "url" : "http://na1.salesforce.com/img/icon/t4/standard/account.svg",
    "width" : 0
  }, {
    "contentType" : "image/png",
    "height" : 60,
    "theme" : "theme4",
    "url" : "http://na1.salesforce.com/img/icon/t4/standard/account_60.png",
    "width" : 60
  }, {
    "contentType" : "image/png",
    "height" : 120,
    "theme" : "theme4",
    "url" : "http://na1.salesforce.com/img/icon/t4/standard/account_120.png",
    "width" : 120
  } ],
  "label" : "Accounts",
  "miniIconUrl" : "http://na1.salesforce.com/img/icon/accounts16.png",
  "name" : "standard-Account",
  "subjectName" : "Account",
  "url" : "http://na1.salesforce.com/001/o",
...]
```

Themes

Salesforce アプリケーションのテーマで使用するアイコンと色のリストを取得します。テーマ情報は、Salesforce UI のアイコンと色を使用する組織内のオブジェクトに提供されます。

If-Modified-Since ヘッダーは、このリソースでは `EEE, dd MMM yyyy HH:mm:ss z` という日付形式で使用できます。このヘッダーが使用される場合、指定の日付以降にオブジェクトメタデータが変更されていないと、レスポンスボディなしで `304 Not Modified` 状況コードが返されます。

構文

URI

`/vXX.X/theme`

適用開始バージョン

29.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

None

要求パラメータ

なし

応答データ

テーマ項目の配列。各テーマ項目には次の項目が含まれます。

名前	型	説明
colors	array	テーマの色の配列。
icons	array	テーマアイコンの配列。
name	string	テーマの色とアイコンが関連付けられるオブジェクトの名前。

各テーマの色には次の項目が含まれます。

名前	型	説明
color	string	Web 色の RGB 形式で示される色 (00FF00 など)。
context	string	オブジェクトでその色がメインの色 (primary) であるかどうかを決定する色のコンテキスト。

名前	型	説明
theme	string	<p>関連付けられたテーマ。値には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • theme2: Spring '10 より前に使用されていた Salesforce テーマ • theme3: Spring '10 で導入された現在の Salesforce テーマ • theme4: Winter '14 で導入されたモバイルタッチスクリーンバージョンの Salesforce テーマ • custom: カスタムアイコンに関連付けられたテーマ

各テーマアイコンには次の項目が含まれます。

名前	型	説明
contentType	string	アイコンのコンテンツタイプは、「image/png」などです。
height	number	アイコンの高さ(ピクセル単位)。アイコンのコンテンツタイプが SVG タイプである場合、高さの値は使用されません。
theme	string	<p>関連付けられたテーマ。値には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • theme2: Spring '10 より前に使用されていた Salesforce テーマ • theme3: Spring '10 で導入された現在の Salesforce テーマ • theme4: Winter '14 で導入されたモバイルタッチスクリーンバージョンの Salesforce テーマ • custom: カスタムアイコンに関連付けられたテーマ
url	string	このアイコンの完全修飾 URL。
width	number	アイコンの幅(ピクセル単位)。アイコンのコンテンツタイプが SVG タイプである場合、高さの値は使用されません。

例

services/data/v29.0/theme の要求を使用した JSON 応答の例を次に示します。

```
{
  "themeItems" : [
    {
      "name" : "Merchandise__c",
      "icons" : [
        {
          "contentType" : "image/png",
          "width" : 32,
          "url" : "https://na1.salesforce.com/img/icon/computer32.png",
          "height" : 32,
          "theme" : "theme3"
        }
      ]
    }
  ],
}
```

```
{
  "contentType" : "image/png",
  "width" : 16,
  "url" : "https://na1.salesforce.com/img/icon/computer16.png",
  "height" : 16,
  "theme" : "theme3"
} ],
"colors" : [
{
  "context" : "primary",
  "color" : "6666CC",
  "theme" : "theme3"
},
{
  "context" : "primary",
  "color" : "66895F",
  "theme" : "theme4"
},
...
]
...
}
```

複合リソース

REST API 複合リソースを使用して、クライアントとサーバ間の往復回数を最小限に抑えることでアプリケーションのパフォーマンスを高めることができます。

このセクションの内容:

[Batch](#)

1 回の要求で最大 25 個のサブ要求を実行します。バッチ内のサブ要求のレスポンスボディと HTTP 状況は、1 つのレスポンスボディで返されます。各サブ要求は、レート制限にカウントされます。

[SObject Tree](#)

指定されたタイプのルートレコードを持つ 1 つ以上の sObject ツリーを作成します。sObject ツリーは、同じルートレコードを持つネストされた親子レコードのコレクションです。

Batch

1 回の要求で最大 25 個のサブ要求を実行します。バッチ内のサブ要求のレスポンスボディと HTTP 状況は、1 つのレスポンスボディで返されます。各サブ要求は、レート制限にカウントされます。

バッチ内の各要求はサブ要求と呼ばれます。サブ要求はすべて同じユーザのコンテキスト内で実行されます。各サブ要求は独立しており、相互に情報を渡すことはできません。サブ要求は、リクエストボディ内の順序に従って実行されます。サブ要求が正常に実行されると、データがコミットされます。コミットは、以降のサブ要求の出力に反映されます。サブ要求が失敗した場合、前のサブ要求で行われたコミットはロールバックされません。バッチ要求が 10 分以内に完了しない場合、バッチはタイムアウトし、残りのサブ要求は実行されません。

次のリソースとリソースグループの一括処理は、API バージョン 34.0 以降で使用できます。

- Limits — `vXX.X/limits`
- SObject リソース — `vXX.X/sobjects/`
- Query — `vXX.X/query/?q=sogl`
- QueryAll — `vXX.X/queryAll/?q=sogl`
- Search — `vXX.X/search/?q=sosl`
- Connect リソース — `vXX.X/connect/`
- Chatter リソース — `vXX.X/chatter/`

次のリソースとリソースグループの一括処理は、API バージョン 35.0 以降で使用できます。

- Actions — `vXX.X/actions`

各サブ要求でアクセスされるリソースの API バージョンは 34.0 以降で、かつ最上位レベルの要求の Batch バージョン以前である必要があります。たとえば、`/services/data/v35.0/composite/batch` への Batch 要求を行う場合、バージョン 34.0 または 35.0 のリソースにアクセスするサブ要求を含めることができます。ただし、`/services/data/v34.0/composite/batch` への Batch 要求を行う場合は、バージョン 34.0 のリソースにアクセスするサブ要求のみを含めることができます。

URI

`/vXX.X/composite/batch`

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

POST

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

不要

リクエストボディ

[Batch リクエストボディ](#) (ページ 172)

レスポンスボディ

[Batch レスポンスボディ](#) (ページ 180)

例

Batch リソースの使用例は、「[1 回の要求でレコードを更新してその項目値を取得する](#)」(ページ 85)を参照してください。

このセクションの内容:

[Batch リクエストボディ](#)

Batch リソースを使用して実行するサブ要求のコレクションを記述します。

[Batch レスポンスボディ](#)

バッチ要求の結果を記述します。

Batch リクエストボディ

Batch リソースを使用して実行するサブ要求のコレクションを記述します。

Batch Collection Input

このリクエストボディには、実行するサブ要求で構成される `batchRequests` コレクションが含まれます。
プロパティ

名前	型	説明	必須項目/省略可能
<code>batchRequests</code>	Subrequest[]	実行するサブ要求のコレクション。	必須項目
<code>haltOnError</code>	Boolean	デフォルトは、 <code>false</code> です。 値が <code>false</code> で、バッチ内のサブ要求が完了しない場合、Salesforce は、バッチ内の後続のサブ要求を実行しようと試みます。 値が <code>true</code> で、HTTP 応答 400 番台または 500 番台のエラーが含まれるためにバッチ内のサブ要求が完了しない場合、Salesforce は実行を停止します。また、後続のサブ要求ごとに HTTP 412 状況コードと <code>BATCH_PROCESSING_HALTED</code> エラーメッセージを返します。/ <code>composite/batch</code> への最上位要求は、HTTP 200 を返し、応答内の <code>hasErrors</code> プロパティが <code>true</code> に設定されます。	省略可能

ルート XML タグ

```
<batch>
```

JSON の例

```
{
  "batchRequests" : [
    {
      "method" : "PATCH",
      "url" : "v34.0/subjects/account/001D000000K0fXOIAZ",
      "richInput" : { "Name" : "NewName" }
    }, {
      "method" : "GET",
      "url" : "v34.0/subjects/account/001D000000K0fXOIAZ?fields=Name,BillingPostalCode"
    }
  ]
}
```

サブ要求

サブ要求のリソース、メソッド、および付随情報が含まれます。

プロパティ

名前	型	説明	必須項目/省略可能
binaryPartName	String	<p>マルチパート要求のバイナリパートの名前。</p> <p>1つのバッチ要求で複数のバイナリパートがアップロードされると、この値が要求とバイナリパートの対応付けに使用されます。名前の競合を防止するために、バッチ要求内の各 binaryPartName プロパティには一意の値を使用します。</p> <p>この値が存在する場合、binaryPartNameAlias 値も存在する必要があります。</p>	省略可能
binaryPartNameAlias	String	<p>バイナリボディパートの Content-Disposition ヘッダーの name パラメータ。リソースごとに異なる値を使用します。「Blob データを挿入または更新する」を参照してください。</p> <p>この値が存在する場合、binaryPartName 値も存在する必要があります。</p>	省略可能
method	String	要求するリソースに使用するメソッド。有効なメソッドのリストは、要求するリソースに関するドキュメントを参照してください。	必須項目
richInput		<p>要求の入力ボディ。</p> <p>型は url プロパティに指定された要求に応じて異なります。</p>	省略可能
url	String	<p>要求するリソース。</p> <ul style="list-style-type: none"> URL には、サブ要求がサポートするクエリ文字列パラメータを含めることができます。クエリ文字列は、URL 符号化されている必要があります。 パラメータを使用して、レスポンスボディを絞り込むことができます。 サブ要求レベルでヘッダーを適用することはできません。 	必須項目

ルート XML タグ

<request>

JSON の例

```
{
  "method" : "GET",
  "url" : "v34.0/subjects/account/001D000000K0fX0IAZ?fields=Name,BillingPostalCode"
}
```

関連トピック:

[Batch](#)[1 回の要求でレコードを更新してその項目値を取得する](#)

Batch レスポンスボディ

バッチ要求の結果を記述します。

Batch Results

プロパティ


名前	型	説明
hasErrors	Boolean	結果セットに HTTP 状況コードが 400 番台または 500 番台の結果が 1 つ以上ある場合は <code>true</code> 、それ以外の場合は <code>false</code> 。
results	Subrequest Result []	サブ要求の結果のコレクション。

JSON の例

```
{
  "hasErrors" : false,
  "results" : [{
    "statusCode" : 204,
    "result" : null
  }, {
    "statusCode" : 200,
    "result": {
      "attributes" : {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v34.0/subjects/Account/001D000000K0fX0IAZ"
      },
      "Name" : "NewName",
      "BillingPostalCode" : "94105",
      "Id" : "001D000000K0fX0IAZ"
    }
  ]
}
```

Subrequest Result

プロパティ

名前	型	説明
result	データ型は、サブ要求の応答種別によって異なります。	このサブ要求のレスポンスボディ。
	 重要: 結果がエラーの場合、このデータ型はエラーメッセージとエラーコードが含まれるコレクションです。	
statusCode	Integer	このサブ要求の状況を示す HTTP 状況コード。

JSON の例

```
{
  "attributes" : {
    "type" : "Account",
    "url" : "/services/data/v34.0/subjects/Account/001D000000K0fXOIAZ"
  },
  "Name" : "NewName",
  "BillingPostalCode" : "94015",
  "Id" : "001D000000K0fXOIAZ"
}
```

関連トピック:

[Batch](#)
[1 回の要求でレコードを更新してその項目値を取得する](#)

SObject Tree

指定されたタイプのルートレコードを持つ 1 つ以上の sObject ツリーを作成します。sObject ツリーは、同じルートレコードを持つネストされた親子レコードのコレクションです。

要求データには、レコード階層、必須および省略可能な項目値、各レコードの種類、および各レコードの参照 ID を指定します。成功すると、応答には作成されたレコードの ID が含まれます。レコードの作成中にエラーが発生した場合、要求全体が失敗します。この場合、応答にはエラーが発生したレコードの参照 ID とエラー情報のみが含まれます。


要求には、次の内容を指定できます。

- すべてのツリーの合計で最大 200 件のレコード
- 最大 5 件の異なるタイプのレコード
- 深さが最大 5 レベルの sObject ツリー

sObject ツリーに含まれるレコードが 1 件の場合があるため、このリソースを使用して同じタイプで関連がないレコードを最大 200 件作成できます。

要求が処理されてレコードが作成されると、次のレコードのグループごとに、トリガ、プロセス、およびワークフロールールが別個に起動されます。

- 要求のすべての sObject ツリーのルートレコード
- 同じタイプのすべての第 2 レベルのレコード (たとえば、要求内のすべての sObject ツリーの第 2 レベルの取引先責任者など)
- 同じタイプのすべての第 3 レベルのレコード
- 同じタイプのすべての第 4 レベルのレコード
- 同じタイプのすべての第 5 レベルのレコード

 **メモ:** SObject Tree リソースは現在、パイロットプログラムでのみ使用可能です。組織でのこのリソースの有効化については、Salesforce にお問い合わせください。

URI

/vXX.X/composite/tree/*SObjectName*

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

POST

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

不要

リクエストボディ

[SObject Tree リクエストボディ](#) (ページ 177)

レスポンスボディ

[SObject Tree レスポンスボディ](#) (ページ 180)

例

- 同じタイプで関連のないレコードを作成する例は、「[複数のレコードを作成する](#)」(ページ 88)を参照してください。
- ネストされたレコードを作成する例は、「[ネストされたレコードを作成する](#)」(ページ 86)を参照してください。

このセクションの内容:

[SObject Tree リクエストボディ](#)

SObject Tree リソースを使用して作成する sObject ツリーのコレクションを記述します。

[SObject Tree レスポンスボディ](#)

SObject Tree 要求の結果を記述します。

SObject Tree リクエストボディ

SObject Tree リソースを使用して作成する sObject ツリーのコレクションを記述します。

SObject Tree Collection Input

このリクエストボディには、sObject ツリーで構成される `records` コレクションが含まれます。

プロパティ

名前	型	説明	必須項目/省略可能
<code>records</code>	SObject Tree Input[]	作成するレコードツリーのコレクション。各ツリーのルートレコードタイプは、SObject Tree URI に指定された sObject に対応する必要があります。	必須項目

ルート XML タグ

```
<SObjectTreeRequest>
```

JSON の例

```
{
  "records" : [{
    "attributes" : { "type" : "Account", "referenceId" : "ref1" },
    "name" : "SampleAccount",
    "phone" : "1234567890",
    "website" : "www.salesforce.com",
    "numberOfEmployees" : "100",
    "industry" : "Banking",
    "Contacts" : {
      "records" : [{
        "attributes" : { "type" : "Contact", "referenceId" : "ref2" },
        "lastname" : "Smith",
        "title" : "President",
        "email" : "sample@salesforce.com"
      }, {
        "attributes" : { "type" : "Contact", "referenceId" : "ref3" },
        "lastname" : "Evans",
        "title" : "Vice President",
        "email" : "sample@salesforce.com"
      }
    ]
  }
}]
```

```

    }, {
      "attributes" : { "type" : "Account", "referenceId" : "ref4" },
      "name" : "SampleAccount2",
      "phone" : "1234567890",
      "website" : "www.salesforce2.com",
      "numberOfEmployees" : "100",
      "industry" : "Banking"
    }
  ]
}

```

XML の例

```

<SObjectTreeRequest>
  <records type="Account" referenceId="ref1">
    <name>SampleAccount</name>
    <phone>1234567890</phone>
    <website>www.salesforce.com</website>
    <numberOfEmployees>100</numberOfEmployees>
    <industry>Banking</industry>
    <Contacts>
      <records type="Contact" referenceId="ref2">
        <lastname>Smith</lastname>
        <title>President</title>
        <email>sample@salesforce.com</email>
      </records>
      <records type="Contact" referenceId="ref3">
        <lastname>Evans</lastname>
        <title>Vice President</title>
        <email>sample@salesforce.com</email>
      </records>
    </Contacts>
  </records>
  <records type="Account" referenceId="ref4">
    <name>SampleAccount2</name>
    <phone>1234567890</phone>
    <website>www.salesforce2.com</website>
    <numberOfEmployees>100</numberOfEmployees>
    <industry>Banking</industry>
  </records>
</SObjectTreeRequest>

```

SObject Tree Input

sObject ツリーは、他の sObject ツリーとして表されるルートレコード、そのデータ、およびその子レコードが含まれる再帰的データ構造です。

プロパティ

名前	型	説明	必須項目/省略可能
attributes	コレクション	このレコードの属性。attributes プロパティには 2つのサブプロパティが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> type (必須) — このレコードのタイプ。 referenceId (必須) — このレコードの参照 ID。要求のコンテキスト内で一意であり、英数字で始まる必要があります。 XML で、records 要素内に属性を含めます。	必須項目
必須オブジェクト項目	項目に依存	このレコードの必須項目と項目値。	必須項目
省略可能なオブジェクト項目	項目に依存	このレコードの省略可能な項目と項目値。	省略可能
子リレーション	SObject Tree Collection Input	このレコードの子リレーション (取引先の子取引先 責任者など)。子リレーションは、主従関係または参照関係になります。オブジェクトの有効な子リレーションを表示するには、SObject Describe リソースまたは Schema Builder を使用します。このプロパティの値は、子 SObject ツリーが含まれる SObject Tree Collection Input です。	省略可能

ルート XML タグ

<records>

JSON の例

```
{
  "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref1"},
  "name" : "SampleAccount",
  "phone" : "1234567890",
  "website" : "www.salesforce.com",
  "NumberOfEmployees" : "100",
  "industry" : "Banking",
  "Contacts" : {
    "records" : [{
      "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref2"},
      "lastname" : "Smith",
      "title" : "President",
      "email" : "sample@salesforce.com"
    }, {
      "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref3"},
      "lastname" : "Evans",
      "title" : "Vice President",
```

```

    "email" : "sample@salesforce.com"
  }]
}
}

```

XML の例

```

<records type="Account" referenceId="ref1">
  <name>SampleAccount</name>
  <phone>1234567890</phone>
  <website>www.salesforce.com</website>
  <numberOfEmployees>100</numberOfEmployees>
  <industry>Banking</industry>
  <Contacts>
    <records type="Contact" referenceId="ref2">
      <lastname>Smith</lastname>
      <title>President</title>
      <email>sample@salesforce.com</email>
    </records>
    <records type="Contact" referenceId="ref3">
      <lastname>Evans</lastname>
      <title>Vice President</title>
      <email>sample@salesforce.com</email>
    </records>
  </Contacts>
</records>

```

関連トピック:

[SObject Tree](#)

[複数のレコードを作成する](#)

[ネストされたレコードを作成する](#)

SObject Tree レスポンスボディ

SObject Tree 要求の結果を記述します。

プロパティ

名前	型	説明
hasErrors	Boolean	レコード作成時にエラーが発生した場合は <code>true</code> 、それ以外の場合は <code>false</code> 。
results	コレクション	成功した場合は、 <code>results</code> に要求された各レコードの参照 ID とその新しいレコード ID が含まれます。失敗した場合は、エラーが発生したレコードの参照 ID、エラー状況コード、エラーメッセージ、およびエラーに関連する項目のみが含まれます。重複した参照 ID がある場合は、 <code>results</code> に重複した ID のインスタンスごとに 1 つの項目が含まれます。

成功時の JSON の例

```
{
  "hasErrors" : false,
  "results" : [{
    "referenceId" : "ref1",
    "id" : "001D000000K0fXOIAZ"
  }, {
    "referenceId" : "ref2",
    "id" : "001D000000K0fXPfIAZ"
  }, {
    "referenceId" : "ref3",
    "id" : "003D000000QV9n2IAD"
  }, {
    "referenceId" : "ref4",
    "id" : "003D000000QV9n3IAD"
  }]
}
```

成功時の XML の例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<SObjectTreeResponse>
  <hasErrors>false</hasErrors>
  <results>
    <id>001D000000K0fXOIAZ</id>
    <referenceId>ref1</referenceId>
  </results>
  <results>
    <id>001D000000K0fXPfIAZ</id>
    <referenceId>ref2</referenceId>
  </results>
  <results>
    <id>003D000000QV9n2IAD</id>
    <referenceId>ref3</referenceId>
  </results>
  <results>
    <id>003D000000QV9n3IAD</id>
    <referenceId>ref4</referenceId>
  </results>
</SObjectTreeResponse>
```

失敗時の JSON の例

```
{
  "hasErrors" : true,
  "results" : [{
    "referenceId" : "ref2",
    "errors" : [{
      "statusCode" : "INVALID_EMAIL_ADDRESS",
      "message" : "Email: invalid email address: 123",
      "fields" : [ "Email" ]
    }]
  }]
}
```

失敗時のXMLの例

```
<SObjectTreeResponse>
  <hasErrors>true</hasErrors>
  <results>
    <errors>
      <fields>Email</fields>
      <message>Email: invalid email address: 123</message>
      <statusCode>INVALID_EMAIL_ADDRESS</statusCode>
    </errors>
    <referenceId>ref2</referenceId>
  </results>
</SObjectTreeResponse>
```

関連トピック:

[SObject Tree](#)

[複数のレコードを作成する](#)

[ネストされたレコードを作成する](#)

ヘッダー

このセクションでは、REST API に使用されるカスタム HTTP の要求ヘッダーと応答ヘッダーを示します。

このセクションの内容:

[割り当てルールヘッダー](#)

割り当てルールヘッダーは、ケースまたはリードの作成時または更新時に適用される要求ヘッダーです。有効化されていると、有効な割り当てルールが使用されます。無効化されていると、有効な割り当てルールは適用されません。有効な AssignmentRule ID が指定されていると、AssignmentRule が適用されます。要求にヘッダーが指定されていないと、REST API のデフォルトにより有効な割り当てルールが使用されます。

[Call Options ヘッダー](#)

REST API リソースにアクセスするときのクライアント固有のオプションを指定します。たとえば、コールオプションヘッダーでプレフィックスを指定することで名前空間のプレフィックスを無視するクライアントコードを作成できます。

[Limit Info ヘッダー](#)

この応答ヘッダーは、REST API への各要求で返されます。この情報を使用して API 制限を監視できます。

[Package Version ヘッダー](#)

クライアントによって参照される各パッケージのバージョンを指定します。パッケージバージョンは、パッケージに含まれる一連のコンポーネントと動作を識別する番号です。このヘッダーは、Apex REST Web サービスをコールするときのパッケージバージョンの指定にも使用されます。

[Query Options ヘッダー](#)

クエリ結果のバッチサイズなど、クエリで使用するオプションを指定します。この要求ヘッダーは、Query リソースで使用します。

割り当てルールヘッダー

割り当てルールヘッダーは、ケースまたはリードの作成時または更新時に適用される要求ヘッダーです。有効化されていると、有効な割り当てルールが使用されます。無効化されていると、有効な割り当てルールは適用されません。有効な AssignmentRule ID が指定されていると、AssignmentRule が適用されます。要求にヘッダーが指定されていないと、REST API のデフォルトにより有効な割り当てルールが使用されます。

ヘッダーの項目名と値

項目名

Sforce-Auto-Assign

項目値

- TRUE。作成済みまたは更新済みのケースまたはリードに、有効な割り当てルールが適用されます。
- FALSE。作成済みまたは更新済みのケースまたはリードに、有効な割り当てルールは適用されません。
- 有効な AssignmentRule ID。作成済みのケースまたはリードに、指定の AssignmentRule が適用されます。

TRUE と FALSE では、大文字と小文字は区別されません。

要求にヘッダーが指定されていない場合、デフォルト値は TRUE です。

例

```
Sforce-Auto-Assign: FALSE
```

Call Options ヘッダー

REST API リソースにアクセスするときのクライアント固有のオプションを指定します。たとえば、コールオプションヘッダーでプレフィックスを指定することで名前空間のプレフィックスを無視するクライアントコードを作成できます。

Call Options ヘッダーは、SObject Basic Information、SObject Rows、Query、QueryAll、Search、および SObject Rows by External ID で使用できます。

ヘッダーの項目名と値

項目名

Sforce-Call-Options

項目値

- client — クライアントを識別する文字列。
- defaultNamespace — 開発者の名前空間プレフィックスを識別する文字列。名前空間をすべての場所で指定することなく、管理パッケージの項目名を解決します。

例

開発者名前空間プレフィックスが battle で、パッケージに botId というカスタム項目がある場合、デフォルトの名前空間に次のコールオプションヘッダーを設定します。

```
Sforce-Call-Options: client=SampleCaseSensitiveToken/100, defaultNamespace=battle
```

その後で次のようなクエリを実行します。

```
/vXX.X/query/?q=SELECT+Id+botID__c+FROM+Account
```

この場合、実際にクエリされる項目は、battle__botId__c です。

このヘッダーを使用すると、名前空間プレフィックスを指定せずにクライアントコードを作成することができます。上の例でヘッダーを使用しない場合は、battle__botId__c を記述する必要があります。

この項目が設定され、クエリでも名前空間を指定している場合、応答にはプレフィックスは含まれません。たとえば、このヘッダーを battle に設定し、SELECT+Id+battle__botId__c+FROM+Account のようなクエリを発行すると、応答は battle__botId__c 要素ではなく、botId__c 要素を使用します。

describe 情報を取得するときに defaultNamespace 項目は無視されるため、名前空間プレフィックスと、同じ名前のカスタム項目との間で混乱が生じることはありません。

Limit Info ヘッダー

この応答ヘッダーは、REST API への各要求で返されます。この情報を使用して API 制限を監視できます。

ヘッダーの項目名と値

項目名

Sforce-Limit-Info

項目値

- api-usage — コールが行われた組織の API 使用状況を nn/nnnn 形式で指定します。最初の数値は使用された API コール数で、2 番目の数値は組織の API 制限数です。
- per-app-api-usage — 現在接続されているアプリケーションの制限目標情報を指定します。API 制限のアプリケーション目標は現在、パイロットプログラムで利用できます。組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。この例には、sample-connected-app 接続アプリケーションの制限目標が含まれています。制限目標情報がない場合、この項目は返されません。

```
Sforce-Limit-Info: api-usage=25/5000;
per-app-api-usage=17/250 (appName=sample-connected-app)
```

例

3 行目に制限情報が含まれる、Merchandise レコードの REST 要求に対する応答

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Mon, 20 May 2013 22:21:46 GMT
Sforce-Limit-Info: api-usage=18/5000
Last-Modified: Mon, 20 May 2013 20:49:32 GMT
Content-Type: application/json;charset=UTF-8
Transfer-Encoding: chunked

{
  "attributes" : {
    "type" : "Merchandise__c",
    "url" : "/services/data/v35.0/subjects/Merchandise__c/a00D00000008pQSNIA2"
  },
```

```

    "Id" : "a00D00000008pQSNIA2",
    "OwnerId" : "005D00000001QX8WIAW",
    "IsDeleted" : false,
    "Name" : "Phone Case - iPhone 4/4S",
    "CreatedDate" : "2013-05-20T20:49:32.000+0000",
    "CreatedById" : "005D00000001QX8WIAW",
    "LastModifiedDate" : "2013-05-20T20:49:32.000+0000",
    "LastModifiedById" : "005D00000001QX8WIAW",
    "SystemModstamp" : "2013-05-20T20:49:32.000+0000",
    "LastActivityDate" : null,
    "LastViewedDate" : "2013-05-20T22:19:56.000+0000",
    "LastReferencedDate" : "2013-05-20T22:19:56.000+0000",
    "Description__c" : "Phone Case for iPhone 4/4S",
    "Price__c" : 16.99,
    "Stock_Price__c" : 12.99,
    "Total_Inventory__c" : 108.0
  }

```

Package Version ヘッダー

クライアントによって参照される各パッケージのバージョンを指定します。パッケージバージョンは、パッケージに含まれる一連のコンポーネントと動作を識別する番号です。このヘッダーは、Apex REST Web サービスをコールするときのパッケージバージョンの指定にも使用されます。

Package Version ヘッダーは、Describe Global、SObject Describe、SObject Basic Information、SObject Rows、Describe Layouts、Query、QueryAll、Search、および SObject Rows by External ID リソースで使用できます。

ヘッダーの項目名と値

項目名と値

x-sfdc-packageversion-[namespace]: xx.x では、[namespace] が管理パッケージの固有の名前空間で、xx.x がパッケージバージョンです。

例

```
x-sfdc-packageversion-clientPackage: 1.0
```

Query Options ヘッダー

クエリ結果のバッチサイズなど、クエリで使用するオプションを指定します。この要求ヘッダーは、Query リソースで使用します。

ヘッダーの項目名と値

項目名

```
Sforce-Query-Options
```

項目値

- `batchSize` — クエリ要求に対して返されるレコード数を指定する数値。子オブジェクトは、バッチサイズのレコード数に対してカウントします。たとえば、リレーションクエリの場合、返される親行ごとに複数の子オブジェクトが返されます。

デフォルト値は 2,000、最小値は 200、最大値は 2,000 です。要求されるバッチサイズが、実際のバッチサイズになるとは限りません。必要に応じて、パフォーマンスを最大化するために変更が行われます。

例

```
Sforce-Query-Options: batchSize=1000
```

状況コードとエラー応答

エラーが発生した場合、または応答が正常な場合のどちらでも、応答ヘッダーには HTTP コードが含まれ、レスポンスボディには通常、次の情報が含まれます。

- HTTP 応答コード
- HTTP 応答コードに付随するメッセージ
- エラーが発生した項目またはオブジェクト (応答がエラーに関する情報を返す場合)

HTTP 応答コード	説明
200	GET または HEAD 要求の「OK」成功コードです。
201	POST 要求の「Created」成功コードです。
204	DELETE 要求の「No Content」成功コードです。
300	外部 ID が複数のレコードに存在する場合に返される値です。レスポンスボディには、一致するレコードのリストが含まれます。
304	要求のコンテンツが、指定された日時から変更されていません。日時は <code>If-Modified-Since</code> ヘッダーで指定されます。例については、「 オブジェクトのメタデータの変更の取得 」を参照してください。
400	要求が実行されませんでした。通常、JSON または XML のボディに含まれるエラーが原因です。
401	使用されたセッション ID または OAuth トークンが期限切れか無効です。レスポンスボディに <code>message</code> および <code>errorCode</code> が含まれます。
403	要求が却下されました。ログインユーザに適切な権限があることを確認してください。
404	要求されたリソースが見つかりませんでした。URI にエラーがないか確認し、共有の問題がないことを確認してください。
405	<code>Request-Line</code> に指定されたメソッドは、URI に指定されたリソースには許可されていません。
415	要求内のエンティティは、指定されたメソッドではサポートされていない形式です。

HTTP 応答コード **説明**

500	Force.com内でエラーが発生したため、要求を完了できませんでした。Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。
-----	--

例: ID が不正

JSON または XML (`request_body.json` または `request_body.xml`) を使用する要求に存在しない ID を使用した場合。

```
{
  "fields" : [ "Id" ],
  "message" : "Account ID: id value of incorrect type: 001900K0001pPuOAAU",
  "errorCode" : "MALFORMED_ID"
}
```

例: リソースが存在しない

存在しないリソースを要求した場合。たとえば、誤ったスペルのオブジェクト名を使用してレコードの作成を試みた場合など。

```
{
  "message" : "The requested resource does not exist",
  "errorCode" : "NOT_FOUND"
}
```